

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈全文〉 石川県白峰方言調査報告書：
日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成：
方言の記録と継承による地域文化の再構築

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子, 新田, 哲夫, 中澤, 光平, 松倉, 昂平 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002497



日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
石川県白峰方言調査報告書

原田走一郎・新田哲夫〔編〕

2018年3月

はじめに

国立国語研究所では、2016年に共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト）と「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）をスタートさせ、各地の方言の収集と記録を行っています。このプロジェクトの前身は、2010年に始まった「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（2010年～2015年）です。そのときからの調査を含めると、これまで、沖縄県宮古島・久米島、鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島、東京都八丈島、島根県出雲・隠岐の島、宮崎県椎葉村、石川県白山市白峰、愛知県一宮市木曾川の11の地域で合同調査を行なってきました。本書は、そのうちの白峰方言調査（2017年1月）の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか、白山国立公園センターまで足を運んでくださり、親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、白峰方言全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、方言の研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。なお、この報告書は国立国語研究所ホームページの上記プロジェクトのページでPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2018年3月15日

人間文化研究機構 国立国語研究所 木部 暢子

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

石川県白峰方言調査報告書

目次

概要	1
新田哲夫「白峰方言の音声・音韻」	7
中澤光平・松倉昂平・新田哲夫「白峰方言アクセント調査報告」	13
語彙集	37

概要

1. 目的

本報告書は、国立国語研究所が2017年1月に石川県白山市白峰で行った調査の報告を行うものである。本調査は、国立国語研究所における「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(機関拠点型基幹研究プロジェクト)および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」(人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」))という2つのプロジェクトの共同研究として行われた。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである(国立国語研究所のホームページより)。

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

いま、世界中のマイナー言語(規模の小さな言語)が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。

マイナー言語の消滅に関しては、次のような意見もあります。言語の消滅は社会変化の結果であってしかたがない。あるいはもっと積極的に、言語は統一された方が便利だ。危機言語を守る必要はない。

しかし、そもそも、なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。

このような状況に警鐘を鳴らしたのが、2009年のユネスコの「消滅危機言語」の発表です。2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語ーアイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語ーが含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、消滅の危機にあります。これらを記録し、その

価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの目的です。

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある。本研究では、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義について研究を行う。

国立国語研究所では、2010 年から奄美沖縄地方、八丈島、出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島などで合同調査を行ってきたが、今回の白峰調査は北陸地方における初の合同調査であった。

2. 調査地点について

本調査は石川県白山市白峰で行われた。白峰は石川県の南部、白山国立公園の麓に位置する（位置については地図 1, 2 参照）。福井県、および岐阜県と接している。豪雪地帯であること、また、近世、石川県が加賀藩の領地であった中で、白峰は天領であったことがよく知られている。

白峰は現在白山市の一部で、白峰地区と呼ばれているが、以前は石川郡白峰村（2005 年まで）であり、さらに古くは能美郡白峰村（1949 年まで）という自治体であった。旧白峰村は、桑島、下田原、赤谷、白峰、風嵐、大道谷、明谷、風嵐谷、河内谷、市之瀬、赤岩、三ツ谷という地区に分かれていた（白峰村史編集委員会 1959）。したがって、「白峰」と言うとき、2つのことを意味しうる。旧白峰村全体を指す場合と、その中心地であった地域（かつては牛首と称された）を指す場合と、である。本報告書で対象とするのは、主として旧白峰村牛首方言が中心となるが、一部、牛首方言と言語的共通点の多い大道谷の方からも方言を教えていただいた。

白峰は、かつては農業、林業が主な産業であった。特筆すべきこととして、「養蚕」、「出作り」、「焼き畑」があげられる。「養蚕」はかつては各家庭の大きな収入源であった。現在でも二階に養蚕用のスペースがある伝統的な家屋も残されている。「出作り」とは、人口の密集している集落から離れて、出作り小屋を建てて山地で耕作を行うことである。平地の少ない山間部ならではの生産方法で、毎年冬近くなると山を下り、雪が少なくなると里から山に帰る「季節出作り」と、山の住まいを本拠とする「永久出作り」がある。「出作り」では、樹木や草を伐採し火入れを行い、斜面の山林を耕地化する「焼き畑」が広く行われていたが、1970 年代以降急激に衰退してしまった。この報告書には、白峰を特徴付けるこれらの民俗語彙も調査結果に多く含まれる。



地図1 白峰の位置（日本全国）



地図2 白峰の位置（石川県）

また、浄土真宗がひろく信仰されている地域であるということも特筆されるべき点である。白峰地区には、3つの浄土真宗の寺が存在し、旧来より白峰の人々は厚い信仰のもとに

生活を送っていた。今回の調査結果の例文にも「ホンコサン（報恩講）」などの語が何回か確認できる。

2017 年 12 月末現在の人口は 828 名である（白山市ホームページより。2018 年 2 月 5 日確認。http://www.city.hakusan.ishikawa.jp/data/open/cnt/3/3124/1/jinkou_H2912.pdf)

3. 白峰方言に関する先行研究

白峰は周囲の言語と著しく性質の異なる「言語の島」とされている。言語の特徴については、以下の文献を参照されたい。

- 岩井隆盛（1959）「白峰（牛首）方言概要」，白峰村史編集委員会編『白峰村史 下巻』，白峰村役場，pp. 276-321.
- 岩井隆盛（1962）「白峰方言の分布と変化」，白峰村史編集委員会編『白峰村史 上巻』，白峰村役場，pp. 425-451.
- 加藤和夫（1996）「白山麓白峰方言の変容と方言意識」平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究所領域の視点 上』，明治書院，pp. 323-345.
- 加藤継満津・加藤和夫（2005）『石川県白峰村方言の生活語彙辞典』，白峰村.
- 新田哲夫（1985a）「石川県白峰方言のアクセント体系」『金沢大学文学部論集文学科篇』5，pp. 97-115.
- 新田哲夫（1985b）「白峰方言のアクセント素の所属語彙—1～3 モーラ体言—」『日本海文化』（金沢大学文学部）12，pp. 1-42.
- 新田哲夫（2002）「石川県白峰方言の形容詞—語形とアクセント—」『消滅に瀕した方言アクセントの緊急調査研究』（平成 14 年度文科省科学研究費補助金報告書 2002-A4-013）3，pp. 143-171.
- 新田哲夫（2003）「石川県白峰方言の動詞アクセント」『アジア・アフリカ文法研究』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）31(2002)，pp. 1-25.
- 新田哲夫（2004）「NHK 全国方言資料（石川県石川郡白峰村字白峰）改訂と注釈」『金沢大学文学部論集 言語・文学篇』24，pp. 29-63.
- 新田哲夫（2005a）「NHK 全国方言資料（石川県石川郡白峰村字白峰）改訂と注釈（承前）」『金沢大学文学部論集 言語・文学篇』25，pp. 123-154.
- 新田哲夫（2005b）「石川県白峰地方の方言特徴と方言テキストの語法」『金沢大学フィールド文化』1，金沢大学文学部
- 新田哲夫（2006a）「方言に見られる生き物名に付く接尾辞「メ」—石川県白峰方言を中心に—」真田信治監修『日本のフィールド言語学』，桂書房，pp. 122-143.
- 新田哲夫（2006b）『石川県白峰方言の調査研究と方言語彙のデータベース化』平成 16～17 年度科学研究費補助金報告書，基盤研究(C)課題番号 16520275，pp. 1-166.

- 新田哲夫 (2009) 「白山麓白峰の方言特徴と昔話に見られる方言の語法」『金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇』1, pp. 15-56.
- 新田哲夫 (2010a) 「白山麓白峰の方言特徴と昔話に見られる方言の語法(2)」『金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇』26, pp. 1-92.
- 新田哲夫 (2010b) 「石川県白峰方言の複合動詞アクセント」上野善道監修『日本語研究の12章』, 明治書院, pp. 413-428.
- 新田哲夫 (2016) 「白峰方言のプロソディーの諸問題 ―アクセント体系および複合名詞アクセント―」, 国立国語研究所 キックオフワークショップ「語のプロソディーと文のプロソディーの相互作用」ハンドアウト, 国立国語研究所, 2016.1.11

4. 調査について

調査は2017年1月21日(土)と22日(日)に白山国立公園センターで行われた。
調査内容は以下のとおりである。

- ・調査内容： 文法一般(用言の活用含む)
アクセント
語彙(基礎語彙・民俗語彙)
自由談話の録音

以下の方々が我々に方言を教えてくださいました。年齢は調査当時である。なお、ここにお名前を掲載していない方々からも方言を教えてくださいました。みなさまに深くお礼申し上げます。

- 織田捷二さん(1942年生・74歳)
- 織田清勇さん(1928年生・88歳)
- 加藤さん(1938年生・78歳)
- 小田直一さん(1937年生・79歳)
- 殊才幸吉さん(1928年生・88歳)
- 竹巴さん(1935年生・81歳)
- 尾田好雄さん(1933年生・83歳)
- 山口幸一さん(1942年生・74歳)
- 山口甚四郎さん(1937年生・79歳)
- 山田喜一さん(1933年生・83歳)

調査者は以下のとおりである。所属は調査当時のものである。

上野善道（東京大学）、大槻知世（東京大学）、乙武香里（国立国語研究所）
木部暢子（国立国語研究所）、小西いずみ（広島大学）
佐々木冠（札幌学院大学）、佐藤久美子（国立国語研究所）
當山奈那（沖縄国際大学・日本学術振興会）、中澤光平（与那国町教育委員会）
新田哲夫（金沢大学）、原田走一郎（国立国語研究所）
松倉昂平（東京大学）、山田真寛（国立国語研究所）

参考文献

白峰村史編集委員会編（1959）『白峰村史 下巻』，白峰村役場．

謝辞

調査にご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。また、山田喜一さん、山口幸一さん、山口隆さんには調査の調整などで大変お世話になりました。ありがとうございました。

白峰方言の音声・音韻

新田 哲夫

1. はじめに

この章では、白峰方言の音声・音韻について、概略を示す。

2. 音素目録

以下にこの方言の母音と子音の音素目録を示す。

2. 1 母音音素

短母音音素は、標準語の同じで /i/, /u/, /e/, /o/, /a/ の5つである。/u/, /o/は円唇母音で、/u/は基本母音の[u]よりも中央寄りである。標準語に対応する/i/と/e/, /u/と/o/は白峰でも音韻的対立があり、区別される。

長母音音素は /i:/, /u:/, /e:/, /o:/, /a:/ の5つであり、調音的には短母音と同じである。白峰本来の語 (/me:/「目」, /to:/「十」, /he:/「稗」, /hja:/ [ɕa:]「灰」などの1音節語を除くもの)では、長母音が語末に立つものは少数である。

表1 短母音体系

	Front	Back
High	i	u
Mid	e	o
Low	a	

表2 長母音体系

	Front	Back
High	i:	u:
Mid	e:	o:
Low	a:	

語例

/i/	/ita/ [ita]「板」	/kai/ [kai]「貝」
/u/	/uta/ [uta]「歌」	/kau/ [kau]「飼う」
/e/	/eto/ [eto]「干支」	/kae/ [kae]「飼え」
/o/	/oto/ [oto]「音」	/iome/ [iome]「魚」
/a/	/ato/ [ato]「跡」	/siai/ [ɕiai]「試合」
/i:/	/i:tja/ [i:tea]「痛い」	
/u:/	/u:si/ [u:ɕi]「薄い」	
/e:/	/e:ŋo/ [e:ŋo]「英語」	
/o:/	/o:sja/ [o:ɕa]「遅い」	/sumo:/ [sumo:]「相撲」
/a:/	/a:kja/ [a:kia]「赤い」	

2. 2 子音音素

子音の音素目録は表3のとおりである。

子音音素は /p, b, m, t, d, n, s, z, r, k, g, ŋ, ɲ, h, w, j/ の16種類である。表3に子音体系と異音を示す。

表3 子音体系

		両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p [p]	t [t, tʰ~tʰ, tɕ]	k [k]	
	有声	b [b]	d [d]	g [g]	
鼻音		m [m]	n [n]	ŋ [ŋ]	ɲ [ɲ, n, m, ŋ]
摩擦	無声		s [θ~s, ɕ]		h [h, ɸ, ɕ]
	有声		z [ð~z~ɗ, z~ɗ]		
はじき			r [r]		
接近		w [w]	j [j]		

白峰方言の伝統的な発音では、標準語「ツ」に対応する/tu/は[tʰu]のように破擦性が少ない音で出る（一方、標準語「チ」に対応する/ti/は常に破擦音[tɕi]である）。また形容詞活用の交替を並行的に捉えるため、この報告では破擦音の系列 /c/を立てないで置く。すなわち、/tu/ [tʰu], /ti/ [tɕi]の他に /tja/ [tɕa]等として置く。以下の形容詞の例では、「固い、重たい」の交替について tja ~ to を設定しておくことで、kja ~ ko, nja ~ no のような Cja ~ Co (Cは子音) と並行的に捉えることができる。

/ka:tja/ 「固い」 ~ /ka:to-naru/ 「固くなる」
 /obotja/ 「重たい」 ~ /oboto-naru/ 「重くなる」
 /ta:kja/ 「高い」 ~ /ta:ko-naru/ 「高くなる」
 /sukunja/ 「少ない」 ~ /sukuno-naru/ 「少なくなる」

以下、変異音について特筆すべき点を列挙する。

- /sa, so/, /za, zo/ の子音は, [s], [z]のほか, 歯(茎)摩擦音[θ], [ð]で発音されることがある (/sakana/ [θakana] 「魚」, /aza/ [aða] 「痣」)。
- /si/, /zi/ の子音は, 歯茎硬口蓋摩擦音の [ɕi], [zi] (/sizimi/ [ɕizimi] 「蜆」)である。
- /se/, /ze/ の子音は, 著しい口蓋化は見られないが, [sʲe], [zʲe]も聞くことがある。
- /tu/の子音は, 現代では破擦音の[tʰu]で現れるが, 古い世代ほど摩擦性の少ない破擦音 [tʰu]で発音される(/tuba/ [tʰuba] 「唾」, 岩井隆盛 1959)。
- /zu/ は[ðu] (/zuki/ [ðuki] 「頭巾」, /zurui/ [ðurui] 「狡い」)で現れる。
- /ti/の子音は, 実際は, [tɕi]の歯茎硬口蓋破擦音 である。伝統的な発音でも, [ti]の音が現れることがないため, /ti/で破擦音[tɕi]を表す。

- ・/hi/の子音は、硬口蓋摩擦音の[çi]よりも、声門摩擦音の[hi]で現れることが多い。また、/hu/の子音は、両唇摩擦音の[ɸu]である。
- ・日本海沿岸地域に広く見られる唇音化した軟口蓋音[kʷ], [gʷ]は見られない(/kasi/ [kaci] 「菓子」, /gaikoku/ [gaikoku] 「外国」)。

2. 3 子音音素の出現制限

この方言で子音の出現制限で、特筆すべきことは次のことである。

- ・/ŋ/は語頭に現れない。この制限は/ŋ/を持つ他の方言と共通である。
- ・/N/が語頭に現れる。ただし次に続く音素が/n, m/の場合だけである。音声的には、2モーラ目の鼻子音と同じ調音位置の子音が語頭に現れる。例：/Nmame/ [mmame] 「馬」, /Nneru/ [nneru] 「濡れる」, /Nnjakoi/ [nnjakoi] 「柔らかい」, /Nna/ [nna] 「赤ん坊」「皆」(二つはアクセントが異なる)。

3 音節構造とモーラ

音節構造を次のような部分、「前頭」 **pre-Onset**, 「頭」 **Onset**, 「わたり」 **Glide**, 「音節の核」 **Nucleus**, 「尾」 **Coda**, に分けて表すと次のようになる。

(preO) (O) (G) N (Co)

preO = /N, p/, O = /p, t, k, s, b, d, g, z, m, n, ŋ, r/, G = /j/,

N = /i, u, e, o, a/, /iː, uː, eː, oː, aː/, Co = /N/, /p, t, k, s/, /b, d, z, r/

・先にあげた語頭で現れる/N/を「前頭」 **pre-onset** とする。例：/Nmame/ [mmame] 「馬」, /Nneru/ [nneru] 「濡れる」, /Nnjakoi/ [nnjakoi] 「柔らかい」, /Nna/ [nna] 「赤ん坊」「皆」。聴覚的な印象では、語頭の/N/が一つの独立した音節を形成するほど長くなく、また次の子音と同一の鼻子音しか現れないという制限があるため、後の音節の核に依存した存在と見なした方がよいと判断する。

・語頭の「前頭」 **pre-onset** で、阻害音/p/が現れる例が一例見つかっている。/ppetja/ [pˈpʰetɕa] 「冷たい」である。歴史的には/tubetja/の語頭音節が落ちて重子音が生じたものである。この語頭の/p/も現れるのはこの語のみであり、語頭の子音部分は聴覚的にも音節の核を形成するほどの長さを有していない。

・「音節の核」 **nucleus** となれるのは、母音である。母音は常に音節形成に必要である。

・語末で「尾」 **coda** となれるのは/N/だけである (/boN/ 「盆」, /miN/ 「見ない」)。

・語中に音節の「尾」 **coda** があつた場合、次の音節の **onset** とともに音声的な重子音、いわゆる「促音」を形成する。これは多くの方言で共通する現象である。

・有声子音の重子音は/zz/, /dd/, /rr/がある。/zz/ は、/kozzo/ [koddzo] 「去年」が見つかっているだけである (/koozo/ [kooðo] もある)。/dd/や/rr/の重子音は、歴史的には /ri, re/が後続子音に変化して生じたものである。/hadde/ (< *haride) 「針仕事」, /warra/ (< *warera) 「おま

えたち」。

以下に、音節の一例をあげる。

O=/k/, N=/i, u, e, o, a/
 /ki/ /kita/ [kita] 「来た, 着た, 北」
 /ku/ /kuta/ [kuta] 「食った」
 /ke/ /keta/ [keta] 「桁」
 /ko/ /kote/ [kote] 「籠手」
 /ka/ /kata/ [kata] 「肩, 型, 方 (方角)」

O=/k/, G=/j/, N=/uː, oː, aː/
 /kjuː/ /kjuːni/ [kjuːni] 「急に」
 /kjoː/ /kjoː/ [kjoː] 「今日」
 /kjaː/ /kjaːni/ [kjaːni] 「こんなに」

O=/k/, N=/i, u, e, o, a/, Co=/N/
 /kin/ /kin/ [kin] 「着ない」
 /kun/ /kunda/ [kunda] 「汲んだ, 組んだ」
 /ken/ /ken/ [ken] 「県, 腱」
 /kon/ /kon/ [kon] 「来ない」
 /kan/ /kan/ [kan] 「勘, 缶, 管, 棺」

O=/k/, G=/j/, N=/a/, , Co=/N/
 /kjan/ /kjan/ [kjan] 「こんな」

O=/k/, N=/i, u, e, o, a/, Co=/t/
 /kit/ /kitta/ [kitta] 「来た, 着た, 北」
 /kut/ /kutto/ [kutto] 「くっと」 (擬態語)
 /ket/ /ketta/ [ketta] 「蹴った」
 /kot/ /kotta/ [kotta] 「凝った」
 /kat/ /katta/ [katta] 「勝った, 刈った」

O=/s/, N=/i, u, e, o, a/
 /si/ /sita/ [eita] 「した, 下, 舌」
 /su/ /sue/ [sue] 「吸え, 末」
 /se/ /sedo/ [sedo] 「背戸」

/so/ /sode/ [sode] 「袖」
 /sa/ /saka/ [saka] 「坂」

O=/s/, G=/j/, N=/u, o, a/
 /sju/ /sjuzin/ [euzin] 「主人」
 /sjo/ /sjo/ [eo] 「しよう」 (「する」の活用)
 /sja/ /sjasin/ [eaein] 「写真」

O=/s/, G=/j/, N=/u, o, a/, Co=/N/
 /sjun/ /sjunbun/ [eunbun] 「春分」
 /sjo/ /sjonben/ [eonben] 「小便」
 /sja/ /sjanzja/ [eanza] 「そうだ」

O=/z/, N=/i, u, e, o, a/
 /zi/ /ziro/ [dziro] 「囲炉裏」
 /zu/ /zubame/ [dubame] 「桑の実」
 /ze/ /zen/ [den] 「銭」
 /zo/ /zo/ [do] 「ぞ」 (終助詞)
 /za/ /zasiki/ [daci] 「座敷」

O=/t/, N=/i, u, e, o, a/
 /ti/ /tikara/ [teikara] 「力」
 /tu/ /tume/ [tume] 「爪」
 /te/ /teppo/ [teppo] 「鉄砲」
 /to/ /toko/ [toko] 「床」
 /ta/ /tani/ [tani] 「谷」

O=/t/, G=/j/, N=/uː, oː, aː/
 /tjuː/ /tjuːɲuː/ [teuːɲuː] 「中宮」 (地名)
 /tjoː/ /tjoːtjome/ [teoːteome] 「蝶」
 /tjaː/ /tjaː/ [teaː] 「父さん」

O=/m/, N=/i, u, e, o, a/	/mo/ /moti/ [motei] 「餅」
/mi/ /miji/ [miji] 「右」	/ma/ /mati/ [matei] 「町」
/mu/ /muji/ [muji] 「麦」	
/me/ /mekata/ [mekata] 「目方」	

4. 標準語との対応関係

標準語との対応関係で特筆すべきものをあげる。これらは、共時的な音韻特徴というより、歴史的な音変化によって、ある固有の語彙に見られるようになった特徴であるが、この小章で述べておくことにする。

4. 1 /Cai/から生じた音をもつ語

歴史的に/Cai/から生じ、/Cja/, /Cja:/ (Cは子音, ○ヤ, ○ヤーのこと)に変化したと考えられる語がいくつかある。

まず、語尾に-aiをもつ形容詞のほとんどがそれに該当する。例えば、/a:kja/「赤い」、/ta:kja/「高い」、/obotja/「重たい」、/kuitja/「食いたい」(～タイは形容詞扱い)などがあげられる。ただし、「無い」は/nai/。

その他の語彙では、/itimja/「一枚」、/ko:ŋja/「蚕飼(こがい)」, /sja:zuti/「金槌(さいづち)」, /zja:ra/「平地(だいら)」, /tukja/「使者(つかい)」, /tettja/「手伝い(てつたい)」, /hja:/「灰」、/bja:me/「蠅(バイメからか)」, /hutja/「額(ひたい)」, /mukja/「向かい」、/zenmja/「ゼンマイ」などがあげられる。

これらの語例から、語末音節では短母音/Cja/が現れ、それ以外では長母音/Cja:/が現れることがわかる。ただし、/hja:/「灰」は単音節語で語末でも語頭でもあり、ここでの例外となる(名詞の「手」、「実」などが/te:/, /mi:/のように長く現れることと関係しているだろう)。この現象は、後に述べるように、この方言では語末が重音節で終わることを避ける傾向にあることと関係している。

「木製のかき混ぜ簗」の/gorogja/は/gorogai/から、/sinŋjani/「内緒に」は/sinŋaini/から生じたと考えられるが語源の特定ははっきりしない。また、/isjaka/「口論(いさかい)」もこの仲間であろう。/isjaka/の語形は、おそらく/isakai/から/isakja/を介した変化を遂げたもので、語頭の/i/と語中の/kja/に挿まれた/sa/の子音が口蓋化した後に、二つの口蓋化子音の連続を避けるために/kja/が異化したものと考えられる(isakai > isakja > isjakja > isjaka)。

標準語/Cai/と白峰/Cja/, /Cja:/の対応関係がみられる語例は形容詞を別にすれば、ほとんどの語彙に及ぶほど徹底したものであるとはいえない。例えば、「挨拶」、「財布」、「太鼓」、「二階」、「式台」など、/ai/をもつ一連の名詞や、形容詞「無い」、否定推量の「まい」の/ai/はそのままである。このことは、/Cai/が/Cja, Cja:/に変化したのはかなり古い時代で、現在では終了した変化であることを示していると考えられる。

4. 2 /ju/と/i/

歴史的に/ju/から/i/への変化があったと推定される。北陸地方では一般的な変化である。/hui/「冬」、フイスキ/huisuŋi/「冬稼ぎ（もとは冬過ぎ、過ぎ＝生活の手段）」、/tui/「梅雨」、/mai/「繭」、/imi/「弓」、/ime/「夢」、/iki/「雪」、/ideru/「茹でる」など。

4. 3 /hi/と/si/

標準語の/hi/と白峰方言の/si/が対応するものがある。/sito/「人」、/sitotuni/「〈一緒に〉の意味」など。/hiroi/「広い」、/hi:sama/「太陽」など、「ヒ」に対応する/hi/も現れるので、音韻体系で/hi/が欠けているのではない。これも語彙的な特徴に入ると思われる。

4. 4 その他の対応

語頭の/u/と/o/に関して、標準語の/u/が白峰方言で/o/で現れるものもあるが、これは語彙的なものであろう（標準語: /usaŋi/「兎」、/ukeou/「請け負う」 vs. 白峰: /osaŋime/, /okeo:/）。また、/i/と/u/に関して、標準語の/mi/と/mu/、/ni/と/nu/が紛れることがあるが、これも語彙的なものであろう（標準語: /mise/「店」、/musiro/「筵」、/niŋeru/「逃げる」 vs. 白峰: /muse/, /misiro/, /nuŋeru/）。

4. 5 語末の重音節

語末の/n/の子音、すなわち撥音が落ちるものがある。/daiko/「大根」、/genka/「玄関」など。和語の語末の長母音も現れにくく、白峰本来の語では（/sumo:/「相撲」以外）ほとんど現れない。動詞の意志形、/mjo:/「見よう」、/sjo:/「しよう」/zjo:/「出よう」、/aŋjo:/「上げよう」、/okjo:/「起きよう」等は、表記のような長母音の形もあるが、同時に短母音の形もある。このことはこの方言では語末の重音節を避ける傾向にあるといえる。先に述べた、標準語/Cai/に対応する/Cja:/が語末に現れないのはこの傾向に沿ったものと考えられる。

参考文献

- 岩井隆盛（1959）「白峰（牛首）方言概要」、白峰村史編集委員会編『白峰村史 下巻』、白峰村役場, pp. 276-321.
- 岩井隆盛（1962）「白峰方言の分布と変化」、白峰村史編集委員会編『白峰村史 上巻』、白峰村役場, pp. 425-451.

白峰方言アクセント調査報告

中澤 光平*・松倉 昂平**・新田 哲夫***

1. 報告の概要

2017年1月、石川県白山市白峰において3名の話者に対して行ったアクセント調査に基づき、白峰方言のアクセント体系の概要を述べ、すべての調査項目のアクセントデータを掲載する。

本報告の構成は、2章がアクセント体系の記述、3章が調査内容の全一覧である。まず2.1節において名詞のアクセントをもとにアクセント体系の全体的な枠組みを記述する。2.2節では、名詞に接続する助詞の性質を取り上げる。助詞によってアクセント上の振舞いが様々に異なる例を示す。2.3節では、複合名詞を取り上げ、複合語アクセント規則を考察する。前部要素の式が複合語全体の式と一致するいわゆる「式保存(の法則)」が白峰方言においても概ね成り立つことを示す。2.4節では、2~4拍動詞の活用形アクセントを一覧する。3章では、2章で取り上げたデータも含む全ての調査項目についてその音調型を一覧し、適宜解説を加える。

本報告の分担は次の通り：1章と2.2節、2.4節は松倉、2.1節と2.3節は中澤が担当し、3章は全体として中澤、松倉の執筆である。新田は本調査を立案し調査の一部に参加した。また中澤・松倉の本報告のドラフトに基づき、必要なところは再調査し、加筆・訂正を行った。

本稿で用いる音調記号は次の通り：]...拍間の下降, !...拍間の小さな下降, [...拍間の上昇, ○]...拍内の大きな下降, ○!!...拍内の小さな下降。

2. 1 名詞のアクセント

白峰方言アクセント体系の全体的な枠組みの概要も兼ね、名詞のアクセント体系についてまとめる。ここでは名詞単独のアクセント型を中心に扱い、助詞が付いた形は次節で扱う。

名詞に基づいた白峰方言のアクセント体系は次の(1)のようになる。

* 東京大学大学院博士後期課程／与那国町教育委員会嘱託員

** 東京大学大学院博士後期課程／日本学術振興会特別研究員

*** 金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系／国立国語研究所客員教授

(1) 名詞（単独形）の音調（5 拍語まで）

型	1 拍語	2 拍語	3 拍語	4 拍語	5 拍語
k0	蚊[カー!!]	庭ニ[ワ!!]	ク[ル!マ]	ア[サ!ガオ]	コ[ド!モムケ]
k1	葉[ハ]ー	山[ヤ]マ	[オ]ノコ	[ア]オゾラ	[シ]アサッテ
(k2?)		———	[オン]ナ	[セン]セー	[○○]○○○?
k3			———	カ[ネ!モ]チ?	ク[リ!バ]ヤシ
k4				———	ス[ズ!リバ]コ
h0	手[テー]	海ウ[ミ]	ヒ[ダリ]	タ[ケノコ]	ヒ[ダリムキ]
h2		———	オ[ト]ナ	ナ[デ]シコ	カ[タ]グルマ?
h3			———	ム[ラサ]キ	ミ[ソズ]クリ
h4				———	ク[スリバ]コ

表中の「———」はその型に属する語が理論上あり得るが実際は存在しないと思われるもの。斜線は理論上も存在しないと思われる型。「○」で表した型は今回の調査では語例が得られなかったものの存在する可能性があるもの。表の語例は今回調査した複数の話者に安定して見られたものを中心に選んだが、中には 1 人の話者でのみ確認された型もある（ム[ラサ]キなど。）

白峰方言のアクセント型は 2 つの式および下げ核の有無と位置で表すことができる。すなわち、自然下降よりも大きな下降（半下降）を伴う下降式（k 式）とそれのない平進式（h 式）の 2 式および次の拍を下げる働きを持つ下げ核（ \downarrow ）である。

k 式の半下降は 2 拍目と 3 拍目の間に現れる（o[o!o...）ため、核が 1 拍目と 2 拍目にある場合は両式が対立しない。しかし、2 拍語と 3 拍語で 1 拍目に核がある型（1 型）は助詞「の」が付いた場合の振舞いや複合名詞の前部要素となった場合のアクセントから k 式に当たると見なした方が良いため、本稿では k1 として扱う。2 拍目に核がある型（2 型）は事情が異なる。3 拍語 2 型の場合、「の」がついた場合の振舞いからは h 式と見た方が良いが、動詞の活用形や複合名詞のアクセントからはどちらとも決めがたく、中和しているとも考えることもできる。ただし、実際にはこの 2 型と対立すると考えられる k2 型が活用形や助詞付きの形では存在することから、名詞に見られる一般的な 2 型は h2 とするのが妥当だろう。

1 型を k 式とするのは先行研究と大きく異なる。特に 3 拍以上の動詞の場合、1 型はむしろ（「出来る」を除き）h 式と見られる振舞いを示す。3 拍名詞の一部も h 式と見るべき振舞いを示すが、本稿では名詞のアクセントを重視して k1 に統一する。

k 式の半下降は語末に来る場合は拍内下降 (!!) として実現するが、この下降は強化されて \downarrow となったり、あるいは全く実現しないこともある。ここでは !! をその代表的な形とした。

(1)に 1 拍語として挙げた語は実際には長呼され常に 2 拍相当になるが、諸方言との対応から便宜上 2 拍語とは別とした¹。アクセント上は 2 拍語との違いはない。

次に、アクセント解釈上いくつか問題となる点を挙げる。

¹ 複合語の構成要素になった場合の長さなどが 1 拍語として扱う根拠となり得るかもしれない（ただしナーバタ「大根畑」のような例もあり、未詳）。

両式とも 1 拍目はやや低く始まるのが基本だが、2 拍目が撥音、長音、二重母音後部イの場合、1 拍目から高く始まる（例：k0...稗[へー!!、氷[コー!リ、[カイ!ガラ、[アイ!ダガラ、h0...棒[ボー、[タンボ、[テンジョー、k2?...女[オン]ナ、h2...女[メー]ロ）。k1 はもちろん語頭から高い。

撥音、長音、二重母音後部イはそれぞれ核を担い得ると考えられる（女[オン]ナ、女[メー]ロ、[セン]セー、[ヒョー]タン、[ツイ]タチ）。ただし、4 拍語については h2 なのか k2 なのかは決定しがたい。

1 型では袋[フ.ク]ロのように無声化によって下降位置が後ろにずれることがある。無声化が関わらない場合でも、[ウシ]ロ、[ハシ]ラのようにしばしばずれる。（ウシロは他の話者で h2 の型もある）。女[オン]ナもその一つと考え k1 と解釈することもできるが、[パ]ンツ、[ゼ]ンマイのようにずれない語もあるため、(1)では疑問としつつ k2 と解釈した。

表の k3 型は(h)2 型と非常に紛らわしい。名詞+助詞、動詞の活用形、複合名詞のアクセントなどから、一応この型を認めるべきと考えるが、[セン]セー、[ヒョー]タン、[ツイ]タチの型の認定と併せなお詰めるべき課題がある²。

2. 2 名詞に付く助詞の振舞い

名詞に続く助詞の振舞い（助詞も含めた文節全体の音調）は助詞の種類により大きく異なり、「名詞+助詞」の音調は、名詞の音調型に加え助詞固有の性質を参照しなければ定まらない。白峰方言には、アクセント上の振舞いが異なる次の 3 種の助詞が確認される：①名詞の音調型を変えない無標の助詞（「が」「を」「から」）、②助詞が名詞に低く付くかあるいは核を持つ有核の助詞（「も」「まで」）、③原則として有核語に付く場合その語を無核化する特殊な助詞（「の」）。

(2) 2,3 拍名詞+1 拍助詞（が、も、の）の音調

語・型	+が（無標）	+も（有核）	+の（特殊）
海 h0	ウ[ミガ (h0)	ウ[ミ]モ (h2)	ウ[ミノ (h0)
庭 k0	ニ[ワ!ガ (k0)	[ニワ]]モ (k2)	ニ[ワ!ノ (k0)
川 k1	[カ]ワガ (k1)	[カ]ワモ (k1)	カ[ワ!ノ (k0)
左 h0	ヒ[ダリガ (h0)	ヒ[ダリ]モ (h3)	ヒ[ダリノ (h0)
大人 h2	オ[ト]ナガ (h2)	オ[ト]ナモ (h2)	オ[トナノ (h0)
車 k0	ク[ル!マガ (k0)	ク[ル]マモ (k3)	ク[ル!マノ (k0)
男 k1	[オ]ノコガ (k1)	[オ]ノコモ (k1)	オ[ノ!コノ (k0)
女 k2	[オン]ナガ (k2)	[オン]ナモ (k2)	[オン!ナノ (k0)

助詞「も」はそれ自身が名詞に低く付く。下降式無核（k0）の語に付く場合、下降式音調の半下降が大きな下降に強化される現象「下降強化」を生じる。(2)の通り「庭(k0)+も」は、2 拍目が特殊拍でなくても 1 拍目から高く発音される傾向にあり、2 拍目内部に大きな下降が生じる音調を取る（[ニワ]]モ）。他の型（[カ]ワモ(k1)、ウ[ミ]モ(h2)）と音声的に接近するが対立は保持さ

² [セン]セー、[ヒョー]タン、[ツイ]タチも h2, k2 以外に k3 と解釈できる可能性がある。

れ、文節全体としては **k2** と解釈されうる。

「車(**k0**)+も」は、「も」自身が無核語に低く付く——「も」の直前に核を生じるとも言い換えられる——性質から、**h0** 型に「も」が付いた場合（ヒ[ダリ(**h0**) > ヒ[ダリ]モ(**h3**))と平行的に、音韻的には文節全体として **k3** と解釈されうる（ク[ル!マ(**k0**) > ク[ル!マ]モ(**k3**))。ただし、2 拍目の直後に「下降強化」が生じる結果（ク[ル!マ]モ > ク[ル]マモ）、音声的には「大人(**h2**)+も」と中和する。

助詞「の」が 1 型語に付いて無核化した文節は原則として下降式無核 (**k0**) となるが、これに反して、文節全体で非下降式無核となる 1 型語も存在する（例：[マ]クラガ「枕が」／マ[クラノ～マ[ク!ラノ「枕の」]）³。「非下降式 2 型 (**h2**) + の」は、非下降式無核となるかあるいは無核化しない場合もある（例：フ[タ]ツノ「二つの」、フ[タ]リノ「二人の」）。まとめると、「1 型+の」は **k0** または **h0**、「非下降式 2 型+の」は **h0** または **h2** となる。「の」が付いた結果どちらの型を取るかは語彙的に決められるものなのか、もしそうであれば何らかの歴史的な背景が見いだせるのか明らかにするためには、より多くの語について「の」を続けた際の振舞いを調べる必要がある。

2. 3 複合名詞のアクセント

複合名詞のアクセントについて、話者間で概ね一致する語をまず挙げる。

(3) 複合名詞のアクセント型（比較的安定していたもの）

複合語	前部要素の 型 (k 式)	複合語の型	複合語	前部要素の型 (h 式)	複合語の型
カネズカイ	k0	k0/h2	マツバヤシ	h0	h3/h0,h2
カガミバコ	k1	k4	ミソズクリ	h0	h3/h0
コドモムケ	k0	k0	クスリバコ	h0	h4
スズリバコ	k1	k4	ヨモギモチ	h0	h4
タカラバコ	k1	k4	ミカンバコ	h2	h3
ドーグバコ	k1	k4	クスリギライ	h0	h4
ヒガシガワ	k1	k0/h0	ハダカマツリ	h0	h4
ヒガシムキ	k1	k0/h0	ハタケシゴト	h0	h4
ムコーガワ	k0	k0			
モミジガリ	k1	k4			
ウチワズクリ	k1	k4/h4			
サクラマツリ	k0	k4/h4			
モミジマツリ	k1	k4/h4			
サクラモチ	k0	h4			

³ 「枕」の他、「頭の」「後ろの」も **k0** と **h0** 両方現れる（ア[タ!マノ～ア[タマノ、ウ[シ!ロノ～ウ[シロノ]。なお「枕」と「頭」は「も」を付けた際に **h0** 語相当の音調（マ[クラ]モ、ア[タマ]モ）を取り、「～の」の音調と合わせると、あたかも **k1** と **h0** を併用（混用）するような振舞いを示す。

オトコギライ	k1	h4//k4		
ココロズカイ	k1	h4//k4		
コトバズカイ	k1	h4//k0,h0		
チカラシゴト	k1	h4		
オトコトモダチ	k1	h4		
デンキガミソリ	——	h4//h5		

(//の右側は少数見られた型。 , は併用など複数の型が出たことを示す。)

前部要素が **k** 式の場合と **h** 式の場合に分けた。(一部前部要素の型が不明なものがある。)

これを見ると、前部要素の式がほぼ複合語全体の式に対応することがわかる。特に、前部要素が **h** 式の場合は複合語の式は例外なく **h** 式となっている。これに対して、前部要素が **k** 式の場合は複合語全体も **k** 式になる傾向が認められるものの、一部 **h** 式になっているものが見られる。特に **k1** に例外が見られるため (5 例)、1 型を **k** 式と解釈することの反例と見えるかもしれないが、一方で 1 型が **k** 式に対応する例も 9 例あり、一応 **k** 式になる傾向が強いと言える。

まとめると、前部要素が **k1** の場合を中心に若干の例外を含むが、白峰方言でも複合名詞の式保存則は概ね成り立っていると言える。

ここで、複合名詞のアクセントに関する若干の問題を扱う。それは複合語全体のアクセントが **h2** (相当) になる場合である。諸方言で規則が比較的に見えやすい後部 3 拍の語を挙げる。

(4) 後部 3 拍複合名詞のアクセント型

複合語	前部要素の 型 (k 式)	複合語の型	複合語	前部要素の型 (h 式)	複合語の型
ハナバタケ	k1	h2	ムギバタケ	h0	h2//h3,h0
モモバタケ	k0	h2//h4?	ハリシゴト	h0	h2,h3
ニワシゴト	k0	h2//h3	マツバヤシ	h0	h3//h0,h2
ヤマシゴト	k1	h2//h3	イキズカイ	h0	h3,h0
ナツマツリ	k1	h2//h3	カタグルマ	h0	h2,h0
アキマツリ	k1	h2//h3	イトグルマ	h0	h2,h0
タケバヤシ	k0	h2	ミソズクリ	h0	h3//h0
クリバヤシ	k1	h2			
カネズカイ	k0	k0//h2			
ヒトズカイ	k1	h3,h2,k0			
カザグルマ	k0	h2			
コメズクリ	k1	h2//h3			
クニズクリ	k0	h2			
チカラシゴト	k1	h4	ハタケシゴト	h0	h4
サクラマツリ	k0	k4//h4	ハダカマツリ	h0	h4
モミジマツリ	k1	k4//h4	クスリギライ	h0	h4

サカナギライ	k0	k4,h4		
ワサビギライ	k1	k4,h4		
ウチワズクリ	k1	k4//h4		
カタナズクリ	k1	k4,h4		
オトコギライ	k1	h4//k4		
コトバズカイ	k1	h4//k0,h0		
ココロズカイ	k1	h4//k4		
キューリズクリ	k1	h4,k4		

前部要素が3拍、後部要素3拍の場合、核の位置は4拍目（語末から数えてマイナス3拍目）で安定しており、やはり例外は含みつつも式保存の傾向が見られる。しかしながら、前部要素が2拍の場合、核の位置が2拍目（語末から数えてマイナス4拍目）に来る例が相当数見られる。2型は式が中和してh式になるため、この場合式保存は認められないことになる。前部要素2拍の複合名詞でマイナス4拍目に核が来るのは江戸時代以前の京都などにおけるアクセント規則の反映を思わせるが、前部要素がh式の場合にはある程度3型（マイナス3拍目）も見られるため、特に前部要素がk式の場合、一部はk3の可能性がある（o[o!o]oo）。前部要素がh式でも複合名詞全体がh2にある例も相当数あるので、全てをk3と見なすことはできないが、k3型の認定およびh2との対立の有無を含め、さらなる調査が必要である。

2. 4 動詞のアクセント

2～4拍動詞の8つの活用形（基本形（終止形）、否定形、勧誘形、命令形、タ形（過去形）、テミル形、チョル形、テ形命令形）のアクセントを一覧する。勧誘形は一段動詞でオ段拗音を生じる（例：ジョー「出よう」、オキョー「起きよう」）。テミル形は「試しに～してみる」の意。チョル形とはテ形＋居るに由来するアスペクト形式で「～している」に相当する。

以下では、ある動詞の一連の活用形とその音調型を指して活用系列と呼び、例えば基本形がk0である活用系列はk0系列と呼ぶ（基本形がh0ならばh0系列）。

(5) 2拍一段動詞

	k0 系列「着る」	h0 系列「出る」
基本	キ[ル!! (k0)	デ[ル (h0)
否定	[キン!! (k0)	[デン (h0)
勧誘	[キョー!! (k0)	[ジョー (h0)
命令	[キ]ー (k1)	[デ]ー (k1)
タ形過去	キ[タ]] (k1)	[デ]タ (k1)
テ＋ミル	キ[テ!ミル (k0)	デ[テ!ミル (k0)
チョル	キ[チョ]]ル (k2?)	[デチョ]]ル (k2?)
テ形命令	キ[テ!! (k0)	デ[テ!! (k0)

2 拍一段動詞には基本形が **k0** または **h0** になる 2 つの活用系列がある。

キ[タ]]「着た」は 1 拍目の母音が無声化するために下降が後退した形であり音韻的には **k1** と解釈できる。

チョル形は 2 拍目内部に鋭い下降を生じる音調である。[○]○○(**k1**)型とも○[○]○(**h2**)型とも異なり、**k2** と解釈されうる。

(6) 2 拍五段動詞

	k0 系列「置く」	h0 系列「書く」	k1 系列「居る」
基本	オ[ク!! (k0)	カ[ク (h0)	[オ]ル (k1)
否定	オ[カ!ン (k0)	[カ]カン (k1)	[オ]ラン (k1)
勧誘	オ[コ!ー (k0)	[カ]コー (k1)	[オ]ロー (k1)
命令	[オ]ケ (k1)	カ[ケ (h0)	[オ]レ (k1)
タ形過去	[オ]イタ (k1)	[カイタ (h0)	[オ]ッタ (k1)
テ+ミル	[オイ!テミル (k0)	[カイテミル (h0)	オッ[テ!ミル (k0)
チョル	[オイ]チョル (k3?)	[カイ]ョル (h3)	—
テ形命令	[オイ!テ (k0)	[カイテ (h0)	オッ[テ!! (k0)

2 拍五段動詞には基本形が **k0**, **h0**, **k1** で対立する 3 つの活用系列がある。**k1** 系列には「居る」1 語のみ属する。3 つの系列が全て対立するのは基本形においてのみであり、否定形と勧誘形では **h0** 系列と **k1** 系列が、チョル形を除くその他の活用形では **k0** 系列と **k1** 系列が同じ型で現れる。

テミル形は、[オイ!テミルや[カイテミル全体で **k0** や **h0** と見るか、あるいは[オイ!テ+ミ[ル (**k0+h0**) 及び[カイテ+ミ[ル (**h0+h0**) とも解釈できる。

[オイ]チョルのアクセント型をそれ自身の音調のみから一義に確定することは難しいが、チョル形が「居る」([オ]ル) に由来する核 (...チョ]ル) を持つこと、「置く」の他の活用形が下降式で一貫することから、**k3** と解釈されうる⁴。3 拍一段動詞のア[ゲ]チョルも同様。

⁴ ○[○]○○型または[○○]○○型に実現する語の解釈を巡っては、名詞のアクセントの解釈でも問題になったように、**h2** と **k3** いずれに解釈すべきか決着が付かない場合がある。これら 2 つの型 (○[○]○○(**h2**)と○[○!○]○(**k3**)) は音声的にごく接近・ほぼ中和し聴き分けが困難になっている場合が多いためである。動詞の場合は、同じ系列の他の活用形や他の系列の同じ活用形の音調と照らし合わせ、体系全体の規則性がより高くなる解釈を採るという方法がある。従来の新田の報告のように、動詞パラダイム内の式の一貫性を重視しようとする立場がそうである。この場合、名詞一般の体系とは異なり、キタ (着た、来た)、オイタ (置いた) の **k1** の他にも、オイチョル (置きちよる)、アゲチョル (上げちよる)、カサネタ (重ねた) 等に **k2** を認めようとする。この報告では、名詞一般の解釈と動詞活用の解釈をなるべく一貫させ、**k2** と **h2** は中和して **h2** で現れるという立場をとっている。また先にあげた **h2** (**k2** と中和している) と **k3** の対立の曖昧さについては、そのどちらからを選択するかは理論的な推測の域を出ないという意味を含めて、表中の音調型横に(?)を付ける。ただし、後の 3 拍五段動詞で述べるようにアガッタについては、その音調型と第 3 モーラ促音であるために **k3** ではなく、**k2** を例外的に認めている。

(7) 3 拍一段動詞

	k0 系列「上げる」	k1 系列「下げる」	「できる」
基本	ア[ゲ!ル (k0)	[サ]ゲル (k1)	[デ]キル (k1)
否定	ア[ゲ!ン (k0)	[サ]ゲン (k1)	[デ]キン (k1)
勧誘	ア[ギョ!ー (k0)	[サ]ギョー (k1)	[デ]キョー (k1)
命令	[ア]ゲ (k1)	サ[ゲ (h0)	—
タ形過去	[ア]ゲタ (k1)	サ[ゲタ (h0)	[デ]キタ (k1)
テ+ミル	ア[ゲ!テミル (k0)	サ[ゲテミル (h0)	デキ[テ!ミル (k0)
チョル	ア[ゲ]チョル (k3?)	サ[ゲチョ]ル (h3)	デキ[チョ]]ル (k3)
テ形命令	ア[ゲ!テ (k0)	サ[ゲテ (h0)	[デキ!テ (k0)

3 拍一段動詞には以上 3 つの活用系列がある。「できる」の系列にはこの 1 語のみが属する。「できる」は基本形，否定形，勧誘形が k1 となり k1 系列と一致するが，タ形とテ形由来の活用形では k0 系列と一致する。

デキ[テ!ミルは 2 拍目キの母音が無声化するために下降が 1 拍後退した形である (2 拍目が促音の場合も同様に下降位置が後退する。cf. オッ[テ!ミル「居ってみる」)。またデキ[チョ]]ルも本来ア[ゲ]チョルのように 2 拍目直後に生じる下降が無声化の影響で 1 拍後退した音調と推定される。

(8) 3 拍五段動詞

	k0 系列「上がる」	k1 系列「下がる」	h0 系列「歩く」
基本	ア[ガ!ル (k0)	[サ]ガル (k1)	ア[ルク (h0)
否定	ア[ガ!ラン (k0)	[サ]ガラン (k1)	ア[ルカン (h0)
勧誘	ア[ガ!ロー (k0)	[サ]ガロー (k1)	ア[ルコー (h0)
命令	[ア]ガレ (k1)	[サ]ガレ (k1)	ア[ル]ケ (h2)
タ形過去	[アガ]]ッタ (k2)	[サ]ガッタ (k1)	ア[レイ]タ (h3)
テ+ミル	ア[ガ!ッテミル (k0)	サ[ガッテミル (h0)	ア[レイテミル (h0)
チョル	ア[ガ!ッチョ]ル (k4)	サ[ガッチョ]ル (h4)	ア[レイチョ]ル (h4)
テ形命令	ア[ガ!ッテ (k0)	サ[ガッテ (h0)	ア[レイテ (h0)

3 拍五段動詞には基本形が k0, k1, h0 で現れる 3 つの活用系列がある。基本形，否定形，勧誘形，タ形において 3 つの系列が対立し，命令形では k0 系列と k1 系列，テ形由来の活用形では k1 系列と h0 系列が同じ型を取る。

[アガ]]ッタは，[サ]ガッタと比べてやや下降が遅れるように聴かれる。確実に語頭から高く，ア[ガ]ッタでもない。k1 でも h2 でもないこの音調は k2 と解釈されうる。他の活用形がほぼ下降式で一貫することも傍証の一つとなる。

(9) 4拍一段動詞

	k0 系列「重ねる」	k1 系列「集める」	h0 系列「隠れる」
基本	カ[サ!ネル (k0)	[ア]ツメル (k1)	カ[クレル (h0)
否定	カ[サ!ネン (k0)	[ア]ツメン (k1)	カ[クレン (h0)
勧誘	カ[サ!ニョー (k0)	[ア]ツミョー (k1)	カ[クリョー (h0)
命令	カ[サ]ネヨ (k3?)	[ア]ツメヨ (k1)	カ[クレ]ヨ (h3)
タ形過去	カ[サ]ネタ (k3?)	[ア]ツメタ (k1)	カ[クレ]タ (h3)
テ+ミル	カ[サ!ネテミル (k0)	ア[ツメテミル (h0)	カ[クレテミル (h0)
チョル	カ[サ!ネチョ]ル (k4)	ア[ツメチョ]ル (h4)	カ[クレチョ]ル (h4)
テ形命令	カ[サ!ネテ (k0)	ア[ツメテ (h0)	カ[クレテ (h0)

4拍一段動詞には基本形が k0, k1, h0 で対立する 3 つの活用系列がある。k0 系列のタ形はカ[サ]ネタであり、3 拍五段動詞の k0 系列タ形 ([アガ]ッタ(k2)) のように[カ]サネタ～[カサ]ネタとはならない。k2 ではないとして h2 と解釈すれば、活用形間の式の一貫性を乱す。k0 系列のタ形・命令形については、他の活用形が下降式で一貫すること、h0 系列のタ形・命令形が 3 型 (カ[クレ]タ・カ[クレ]ヨ) であることから、k3 と解釈されうる。4 拍五段動詞の k0 系列タ形・命令形についても同様。

(10) 4拍五段動詞

	「働く」	「謝る」	「頂く」
基本	ハ[タ!ラク (k0)	[ア]ヤマル (k1)	イ[タダク (h0)
否定	ハ[タ!ラカン (k0)	[ア]ヤマラン (k1)	イ[タダカン (h0)
勧誘	ハ[タ!ラコー (k0)	[ア]ヤマロー (k1)	イ[タダコー (h0)
命令	ハ[タ]ラケ (k3?)	[ア]ヤマレ (k1)	イ[タダ]ケ (h3)
タ形過去	ハ[タ]ライタ (k3?)	[ア]ヤマッタ (k1)	イ[タダ]イタ (h3)
テ+ミル	ハ[タ!ライテミル (k0)	ア[ヤマッテミル (h0)	イ[タダイテミル (h0)
チョル	ハ[タ!ライチョ]ル (k5)	ア[ヤマッチョ]ル (h5)	イ[タダイチョ]ル (h5)
テ形命令	ハ[タ!ライテ (k0)	ア[ヤマッテ (h0)	イ[タダイテ (h0)

4 拍五段動詞には基本形が k0, k1, h0 で現れる 3 つの活用系列がある。3 拍五段動詞・4 拍一段動詞と共通する点が多い。

同じ動詞の一連の活用形に様々な型が現れる通り、基本形の音調型から他の活用形の型を正しく推測することは難しいが、いくつかの傾向は見て取れる。例えば否定形と勧誘形は基本形と同じ型となる (例外は 2 拍五段動詞 h0 系列。カ[ク(h0), [カ]カン(k1), [カ]コー(k1))。また、テ形由来の活用形は k0 系列が下降式, k1 系列と h0 系列が非下降式となる (2 拍一段動詞 h0 系列と「居る」「できる」の 2 語は例外)。

(11)系列別テミル形の音調型

	k0 系列	k1 系列（「できる」除く）	h0 系列
2 拍一段	キ[テ!ミル (k0)	—	デ[テ!ミル (k0)
2 拍五段	[オイ!テミル (k0)	オッ[テ!ミル (k0)	[カイテミル (h0)
3 拍一段	ア[ゲ!テミル (k0)	サ[ゲテミル (h0)	—
3 拍五段	ア[ガ!ッテミル (k0)	サ[ガッテミル (h0)	ア[ルイテミル (h0)
4 拍一段	カ[サ!ネテミル (k0)	ア[ツメテミル (h0)	カ[クレテミル (h0)
4 拍五段	ハ[タ!ライテミル (k0)	ア[ヤマッテミル (h0)	イ[タダイテミル (h0)

3. 資料編 ——調査項目一覧——

(12)2 拍名詞+1,2 拍助詞の音調

語・型	単独	+が・に	+から	+も (有核)	+まで (有核)	+の (特殊)
海 h0	ウ[ミ。]	ウ[ミガ	ウ[ミカラ	ウ[ミ]モ	ウ[ミマ]デ	ウ[ミノ
山 k1	[ヤ]マ。	[ヤ]マガ	[ヤ]マカラ	[ヤ]マモ	[ヤ]ママデ	ヤ[マ!ノ
川 k1	[カ]ワ。	[カ]ワガ	[カ]ワカラ	[カ]ワモ	[カ]ワマデ	カ[ワ!ノ
舟 h0	フ[ネ。]	フ[ネガ	フ[ネカラ	フ[ネ]モ	フ[ネマ]デ	フ[ネノ
庭 k0	ニ[ワ!!。]	ニ[ワ!ガ	ニ[ワ!カラ	[ニワ]]モ	ニ[ワ]マデ	ニ[ワ!ノ
	～ニ[ワ。]			～ニ[ワ]]モ		
口 k0	ク[チ!!。]	ク[チ!ガ	ク[チ!カラ	ク.[チ]]モ	ク[チ]マデ	ク[チ!ノ
	～ク[チ。]					
箱 k0	ハ[コ!!。]	ハ[コ!ガ	ハ[コ!カラ	[ニワ]]モ	ハ[コ]マデ	ハ[コ!ノ
	～ハ[コ。]			～ニ[ワ]]モ		
雨 h0	ア[メ。]	ア[メガ	ア[メカラ	ア[メ]モ	ア[メマ]デ	ア[メノ
雪 k1	[ユ]キ。	[ユ]キガ	[ユ]キカラ	[ユ]キモ	[ユ]キマデ	ユ[キ!ノ
窓 h0	マ[ド。]	マ[ドガ	マ[ドカラ	マ[ド]モ	マ[ドマ]デ	マ[ドノ
音 k1	[オ]ト。	[オ]トガ	[オ]トカラ	[オ]トモ	[オ]トマデ	オ[ト!ノ

(13)特殊拍を含む2 拍名詞+1,2 拍助詞の音調

語・型	単独	+が・に	+から	+も (有核)	+まで (有核)	+の (特殊)
棒 h0	[ボー。]	[ボーガ	[ボーカラ	[ボー]モ	[ボーマ]デ	[ボーノ h0
象 k1	[ゾー。]	[ゾーガ	[ゾーカラ	[ゾー]モ	[ゾーマ]デ	[ゾーノ k1
稗 k0	[へー!!。]	[へー!ガ	[へー!カラ	[へー]モ	[へー]マデ	[へー!ノ k0
パン k1	[パ]ン。	[パ]ンガ	[パ]ンカラ	[パ]ンモ	[パ]ンマデ	[パン!ノ k0
盆 h0	[ボン。]	[ボンニ	[ボンカラ	[ボン]モ	[ボンマ]デ	[ボンノ h0
盆 k0	[ボン!!。]	[ボン!ガ	[ボン!カラ	[ボン]]モ	[ボン]マデ	[ボン!ノ k0
貝 k1	[カ]イ。	[カ]イガ	[カ]イカラ	[カ]イモ	[カ]イマデ	カ[イ!ノ k0
灰 k0	[ハイ!!。]	[ハイ!ガ	[ハイ!カラ	[ハイ]]モ	[ハイ]マデ	ハ[イ!ノ k0
皆 k1	[シナ]]。]	[シナ]ガ	[シナ]カラ	[シナ]]モ	[シナ]マデ	[シナ]]ノ k1
赤ん坊	ン[ナ。]	ン[ナガ	--	ン[ナ]モ	ン[ナマ]デ	ン[ナノ h0
h0						

※盆(h0)は盂蘭盆会の盆。盆(k0)は容器の盆（トレイ）。

2 拍 **k0** 語の単独発話ではしばしば下降式特有の半下降調 (o[o!!]) が実現せず **h0** の音調 (o[o]) にごく接近するが、2 拍目が特殊拍 (重音節) の 2 拍語の場合、半下降調 ([oo!!]) が安定的に現れる。

1 拍目が撥音の有核語 (ンナ「皆」) は、一貫してその下降が 2 拍目内部または 2 拍目直後に実現するが、特定の拍構造に対して **k1** が取りうる実現型の一つと解釈でき、音韻的には **k1** である。

原則として、**k1** 語に助詞「の」が接続すると無核化して文節全体で **k0** となるが、一部の **k1** 語は元の核を保持する ([ゾ]ーノ「象の」、[ンナ]ノ「皆の」)。「の」を付したときの振舞いは語彙的に決まるのか等、詳細は不明である。「2 拍 **k1** 語+の」の無核化の有無 (どの語が無核化するか・しないか) にはまた個人差もあり、助詞「の」の性質が変化する過渡期にあるのではないかと推測される。

(14)3 拍名詞+1 拍助詞の音調

語・型	単独	+が・に	+も (有核)	+の (特殊)
車 k0	ク[ル!マ。	ク[ル!マガ	ク[ル]マモ	ク[ル!マノ
頭 k1	[ア]タマ。	[ア]タマガ	ア[タマ]モ～[ア]タマモ	ア[タ!マノ～ア[タマノ
枕 k1	[マ]クラ。	[マ]クラガ	マ[クラ]モ	マ[クラノ～マ[ク!ラノ
左 h0	ヒ[ダリ。	ヒ[ダリガ	ヒ[ダリ]モ	ヒ[ダリノ
袋 k1	フ[ク]ロ。	フ[ク]ロガ	フ[ク]ロモ	フ[ク!ロノ
氷 k0	[コー!リ。	[コー!リガ	[コー]リモ	[コー!リノ
大人 h2	オ[ト]ナ。	オ[ト]ナガ	オ[ト]ナモ	オ[トナノ
後ろ k1	[ウ]シロ。	[ウ]シロニ	[ウ]シロモ	ウ[シロノ～ウ[シ!ロノ
男 k1	[オ]ノコ。	[オ]ノコガ	[オ]ノコモ	オ[ノ!コノ
女 k2	[オン]ナ。	[オン]ナガ	[オン]ナモ	[オン!ナノ
女 h2	[メー]ロ。	[メー]ロガ	[メー]ロモ	[メーロノ
命 k1	[イ]ノチ。	[イ]ノチガ	[イ]ノチモ	イ[ノ!チノ
心 k1	[コ]コロ。	[コ]コロガ	[コ]コロモ	コ[コ!ロノ
柱 k1	[ハ]シラ。	[ハ]シラガ	[ハ]シラモ	ハ[シ!ラノ
鼠 h0	ネ[ズミ。	ネ[ズミガ	ネ[ズミ]モ	ネ[ズミノ
田圃 h0	[タンボ。	[タンボガ	[タンボ]モ	[タンボノ
二つ h2	フ[タ]ツ。	フ[タ]ツガ	フ[タ]ツモ	フ[タ]ツノ
二人 h2	フ[タ]リ。	フ[タ]リガ	フ[タ]リモ	フ[タ]リノ

助詞「の」が接続すると原則として 1 型は下降式無核に転じるが、一部非下降式無核に転じる語も確認される (「枕」「後ろ」)。

フ[ク]ロ「袋(**k1**)」は 1 拍目の母音が無声化するために音調のピークが 2 拍目に後退したものと解釈できる。

(15)1 拍名詞+1,2 拍助詞の音調

語・型	単独	+が	+も (有核)	+から	+まで (有核)
蚊 k0	[カー!!。	[カー!ガ	[カー]]モ	[カー!カラ	[カー]マデ
血 k0	[チー!!。	[チー!ガ	[チー]]モ	[チー!カラ	[チー]マデ
葉 k1	[ハ]ー。	[ハ]ーガ	[ハ]ーモ	[ハ]ーカラ	[ハ]ーマデ
日 k1	[ヒ]ー。	[ヒ]ーガ	[ヒ]ーモ	[ヒ]ーカラ	[ヒ]ーマデ
芽 h0	[メー。	[メーガ	[メー]モ	[メーカラ	[メーマ]デ
手 h0	[テー。	[テーガ	[テー]モ	[テーカラ	[テーマ]デ

有核の助詞「も」「まで」が付き下降式無核の「下降強化」が生じる環境でも、3つの型の対立は維持される。[ハ]ーモ「葉(k1)+も」は1拍目の直後に急激な下降が生じ、2拍目の長音は完全に低い。これと比べて[カー]]モ「蚊(k0)+も」は下降の傾きが緩やかで2拍目にかけても下降が続く。[メー]モ「芽(h0)+も」は1,2拍目ともに高い。

(16)2 拍動詞の音調① (基本形・否定形・勧誘形・命令形)

語	基本形	否定形	勧誘形	命令形
置く	オ[ク!! (k0)	オ[カ!ン (k0)	オ[コ!ー (k0)	[オ]ケ (k1)
買う	カ[ウ!! (k0)	カ[ワ!ン (k0)	カ[オ!ー (k0)	[カ]エ (k1)
売る	ウ[ル!! (k0)	ウ[ラ!ン (k0)	ウ[ロ!ー (k0)	[ウ]レ (k1)
書く	カ[ク (h0)	[カ]カン (k1)	[カ]コー (k1)	カ[ケ (h0)
飲む	ノ[ム (h0)	[ノ]マン (k1)	[ノ]モー (k1)	ノ[メ (h0)
切る	キ[ル (h0)	[キ]ラン (k1)	[キ]ロー (k1)	キ[レ (h0)
居る	[オ]ル (k1)	[オ]ラン (k1)	[オ]ロー (k1)	[オ]レ (k1)
着る	キ[ル!! (k0)	[キン!! (k0)	[キョー!! (k0)	[キ]ー (k1)
見る	ミ[ル (h0)	[ミン (h0)	[ミョ]ー (k1)	[ミ]ー (k1)
出る	デ[ル (h0)	[デン (h0)	[ジョー (h0)	[デ]ー (k1)
			～[ジョ]ー (k1)	

本来、[ミョ]ー「見よう」と[ジョー]「出よう」は同じ型であることが期待される。h0 系列五拍動詞の勧誘形 ([カ]コーなど k1 型) からの類推で、h0 系列一段動詞の勧誘形が k1 を併用しつつあるか。

(17)2 拍動詞の音調② (タ形・テミル形・チョル形・テ形命令形)

語	タ形	テミル形	チョル形	テ形命令形
置く	[オ]イタ (k1)	[オイ!テミル (k0)	[オイ]チョル (k3?)	[オイ!テ (k0)
買う	[コ]ータ (k1)	[コー!テミル (k0)	[コー]チョル (k3?)	[コー!テ (k0)
売る	[ウ]ッタ (k1)	ウッ[テ!ミル (k0)	[ウッチョ]]ル (k3?)	ウッ[テ!! (k0)
書く	[カイ]タ (h0)	[カイテミル (h0)	[カイチョ]ル (h3)	[カイテ (h0)
飲む	[ノン]ダ (h0)	[ノンデミル (h0)	[ノンジョ]ル (h3)	[ノンデ (h0)
切る	キッ[タ (h0)	キッ[テミル (h0)	キッ[チョ]ル (h3)	キッ[テ (h0)
居る	[オ]ッタ (k1)	オッ[テ!ミル (k0)	—	オッ[テ!! (k0)
着る	キ[タ]] (k1)	キ[テ!ミル (k0)	キ[チョ]]ル (k2?)	キ[テ!! (k0)
見る	[ミ]タ (k1)	ミ[テ!ミル (k0)	[ミチョ]]ル (k2?)	ミ[テ!! (k0)
出る	[デ]タ (k1)	デ[テ!ミル (k0)	デ[チョ]]ル (k2?)	デ[テ!! (k0)

2 拍目が促音である場合、下降式音調の半下降が 1 拍後ろに実現する (例: ウッ[テ!!「売って」ウッ[テ!ミル「売ってみる」)。また[ウッチョ]]ルは本来同じ k0 系列の[オイ]チョル, [コー]チョルのように 2 拍目の直後に生じるべき下降が促音拍により半拍後退した音調と考えられる。

(18)3 拍動詞の音調① (基本形・否定形・勧誘形・命令形)

語	基本形	否定形	勧誘形	命令形
上がる	ア[ガ!ル (k0)	ア[ガ!ラン (k0)	ア[ガ!ロー (k0)	[ア]ガレ (k1)
みがく	ミ[ガ!ク (k0)	ミ[ガ!カン (k0)	ミ[ガ!コー (k0)	[ミ]ガケ (k1)
下がる	[サ]ガル (k1)	[サ]ガラン (k1)	[サ]ガロー (k1)	[サ]ガレ (k1)
歩く	ア[ル]ク (h0)	ア[ル]カン (h0)	ア[ル]コー (h0)	ア[ル]ケ (h2)
入る	[ハイ]ル (h0)	[ハイ]ラン (h0)	[ハイ]ロー (h0)	[ハイ]レ (h2)
上げる	ア[ゲ!ル (k0)	ア[ゲ!ン (k0)	ア[ギョ!ー (k0)	[ア]ゲヨ (k1) [ア]ゲ (k1)
止める	ヤ[メ!ル (k0)	ヤ[メ!ン (k0)	ヤ[ミョ!ー (k0)	[ヤ]メヨ (k1) [ヤ]メ (k1)
下げる	[サ]ゲル (k1)	[サ]ゲン (k1)	[サ]ギョー (k1)	サ[ゲ]ヨ (h2) サ[ゲ (h0)
起きる	[オ]キル (k1)	[オ]キン (k1)	[オ]キョー (k1)	オ[キ]ヨ (h2)
できる	[デ]キル (k1)	[デ]キン (k1)	[デ]キョー (k1)	—

(19)3 拍動詞の音調② (タ形・テミル形・チョル形・テ形命令形)

語	タ形	テミル形	チョル形	テ形命令形
上がる	[アガ]ッタ (k2)	ア[ガ!ッテミル (k0)	ア[ガ!ッチョ]ル (k4)	ア[ガ!ッテ (k0)
みがく	[ミガ]イタ (k2?)	ミ[ガ!イテミル (k0)	ミ[ガ!イチョ]ル (k4)	ミ[ガ!イテ (k0)
下がる	[サ]ガッタ (k1)	サ[ガッテミル (h0)	サ[ガッチョ]ル (h4)	サ[ガッテ (h0)
歩く	ア[ルイ]タ (h3)	ア[ルイテミル (h0)	ア[ルイチョ]ル (h4)	ア[ルイテ (h0)
入る	[ハイ]ッタ (h2)	[ハイッテミル (h0)	[ハイッチョ]ル (h4)	[ハイッテ (h0)
上げる	[ア]ゲタ (k1)	ア[ゲ!テミル(k0)	ア[ゲ]チョル (k3?)	ア[ゲ!テ (k0)
止める	[ヤ]メタ (k1)	ヤ[メ!テミル (k0)	ヤ[メ]チョル (k3?)	ヤ[メ!テ (k0)
下げる	サ[ゲタ (h0)	サ[ゲテミル (k0)	サ[ゲチョ]ル (h3)	サ[ゲテ (h0)
起きる	オ[キタ (h0)	オ[キテミル (h0)	オ[キチョ]ル (h3)	オ[キテ (h0)
できる	[デ]キタ (k1)	デキ[テ!ミル (k0)	デキ[チョ]]ル (k3?)	[デキ!テ (k0)

デキ[テ!ミル, デ[キチョ]ルは 2 拍目の母音が無声化し本来 2 拍目の直後に生じる下降が 1 拍後退した形である (cf. ア[ゲ!テミル, ア[ゲ]チョル)。一方, [デキ!テは 1 拍目から高く, 2 拍目が無声化しても下降が 3 拍目に後退しない, [デ!キテとも表記できる音調。

[ハイ]ッタは「歩いた」に合わせるなら h3 となるが, 促音の前後で下がり目の対立無しなら h2 と解釈できる。

(20)4 拍動詞の音調① (基本形・否定形・勧誘形・命令形)

語	基本形	否定形	勧誘形	命令形
働く	ハ[タ!ラク (k0)	ハ[タ!ラカン (k0)	ハ[タ!ラコー (k0)	ハ[タ]ラケ (k3?)
謝る	[ア]ヤマル (k1)	[ア]ヤマラン (k1)	[ア]ヤマロー (k1)	[ア]ヤマレ (k1)
頂く	イ[タダク (h0)	イ[タダカン (h0)	イ[タダコー (h0)	イ[タダ]ケ (h3)
重ねる	カ[サ!ネル (k0)	カ[サ!ネン (k0)	カ[サ!ニョー (k0)	カ[サ]ネヨ (k3?)
集める	[ア]ツメル (k1)	[ア]ツメン (k1)	[ア]ツミョー (k1)	[ア]ツメヨ (k1)
隠れる	カ[クレル (h0)	カ[クレン (h0)	カ[クリョー (h0)	カ[クレ]ヨ (h3)

(21)4 拍動詞の音調② (タ形・テミル形・チョル形・テ形命令形)

語	タ形	テミル形	チョル形	テ形命令形
働く	ハ[タ]ライタ(k3?)	ハ[タ!ライテミル(k0)	ハ[タ!ライチョ]ル(k5)	ハ[タ!ライテ(k0)
謝る	[ア]ヤマッタ(k1)	ア[ヤマッテミル(h0)	ア[ヤマッチョ]ル(h5)	ア[ヤマッテ(h0)
頂く	イ[タダ]イタ(h3)	イ[タダイテミル(h0)	イ[タダイチョ]ル(h5)	イ[タダイテ(h0)
重ねる	カ[サ]ネタ(k3?)	カ[サ!ネテミル(k0)	カ[サ!ネチョ]ル(k4)	カ[サ!ネテ(k0)
集める	[ア]ツメタ(k1)	ア[ツメテミル(h0)	ア[ツメチョ]ル(h4)	ア[ツメテ(h0)
隠れる	カ[クレ]タ(h3)	カ[クレテミル(h0)	カ[クレチョ]ル(h4)	カ[クレテ(h0)

(22)2,3 拍+2,3 拍複合名詞の音調型 (1928 年生計者調査分)

複合語	前部要素 (下降式)	複合語	複合語	前部要素 (非下降式)	複合語
口車(くちぐるま)	k0	k3	糸車(いとぐるま)	h0	h3
首飾り(くびかざり)	k0	k3, h3	松飾り(まつかざり)	h0	h3
胸飾り(むねかざり)	k1	h3			
国言葉(くにことば)	k0	k3			
京言葉(きょうことば)	k1	k3			
田舎言葉(いなかことば)	k0	k4			
魚かご(さかなかご)	k0	k4	兎かご(うさぎかご)	h0	h4
小鳥かご(ことりかご)	k0	k4	鼠かご(ねずみかご)	h0	h4
鳥かご(とりかご)	k0	k0	屑かご(くずかご)	h0	h0
芋かご(いもかご)	k1	k0	藁かご(わらかご)	h0	h0
布くず(ぬのくず)	k0	h2(k3?)	藁くず(わらくず)	h0	h0
星くず(ほしくず)	k0	h2(k3?)	糸くず(いとくず)	h0	h2(k3?)
紙くず(かみくず)	k1	h2(k3?)			
綿くず(わたくず)	k1	h2(k3?)			
鉄くず(てつくず)	k1	h2(k3?)			
壁紙(かべがみ)	k0	k0			
色紙(いろがみ)	k1	h0			
赤紙(あかがみ)	k1	h0			

おおむね前部要素の式と複合語の式が一致する「式保存」が成り立つが、例外も見られる(「赤(k1)」に対する「赤紙(h0)」, 「色(k1)」に対する「色紙(h0)」など)。ヌ[ノ]クズなどo[o]oo型に実現する語は h2 かあるいは k3 と解釈されうる。

名詞のアクセント資料（中澤まとめ分）

ここでは 4 拍以上の名詞のアクセントデータ（複合名詞含む）を提示する。

複数の型が出た場合、安定していると思われる型を挙げる。一つに絞れない場合は列挙した。

語	1/22 午前分（1933 年生男性）	1/22 午後分（1935 年生女性）
アイイロ	h0	k0,h0
アオゾラ	k1	k1
アキカゼ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
アクルヒ	h2	h2
アサガオ	k0	k0
アサッテ	k1	k1
アシアト	h2 (k3?)	h2 (k3?)
アシクビ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
アジサイ	h0	k0,h0
アメイロ	h0	h0
イキモノ	k0	k0
イタズラ	h0	h0
イチジク	h2,h3	k0
イモート	h0,h2,k0	h2 (k3?)
イモムシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
イロガミ	h0	h0
イロジロ	h0	k0
ウグイス	k1	h2 (k3?)
ウラナイ	h0	k0
ウラニワ	h0	k0,h0
エダマメ	k0,h0	k0
オーカミ	k1	k1
オトート	k0,h0	h2 (k3?)
オトドシ	h2	h2
オヤユビ	k2?	h2 (k3?)
カイガラ	k0	k0,h0
カオイロ	k0	k0
カスガイ	h0	h0
カゼゴエ	k0	k0,h0
カナズチ	k0,h2 (k3?)	k3,h0
カミサマ	k1	k1
カミシモ	h2	h2
カミソリ	h0	h2

カミダナ	k0,h0	k0,h0
カンオケ	h0	k1,h2
カンザシ	h0	k1,h2
アマザケ	k1	h2 (k3?)
カネモチ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ニワトリ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
イノシシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
カミナリ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ニンニク	k1	k1,h2
カンヌシ	h0	h0
カンムリ	k1,h2,h3	k0
キンイロ	h0	k0
クサブエ	k0,h0	k0,h0
クスノキ	h0	h2
クチバシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
クチビル	h2 (k3?)	h2 (k3?)
クチベニ	h0	h0
クレナイ	k0	k0
クロマメ	k1,h2	h2,k1
ケギライ	k1,h2	h2
ゲタバコ	h0	h0
コーモリ	k1	k1
ココノツ	k1,h2	h2
コズカイ	k1	k1
コトワザ	k0	k0
サカズキ	h2 (k3?),h3	k0
サトイモ	k0	k0,h0
ザブトン	k1	k1
シータケ	k1	k1
シロート	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ゼンマイ	k1	k1
センセー	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ソラマメ	h0	h2
ダイコン	h0	h2
タケノコ	h0	h0
タノシミ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
タマシー	h2 (k3?)	h2 (k3?)
タンポポ	h0	h2

ツイタチ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
テツダイ	h2 (k3?)	k0
テンジョー	h0	h0
テンプラ	h0	h0
トシヨリ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
トモダチ	k0	k0
ナガイキ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ナカユビ	h0	h0,h2
ナデシコ	h2	h2
ニョーボー	k1	k1
ノコギリ	h2	h2
ハイイロ	h0	k0
ハナビラ	h0	k0
ハナミズ	k0	h2 (k3?)
ハナムコ	k0	h2 (k3?)
ハマグリ	k0	k0,h0
ハリガネ	h0	h0
ヒョータン	h2 (k3?)	h2 (k3?)
フデバコ	h0	h0
フトコロ	k0	k0
フルサト	h2 (k3?)	h2 (k3?)
フロシキ	h0	k1
ホシガキ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
マナイタ	h2	h2
マボロシ	k0	h0,h3
ミギアシ	h0	h0
ミギカタ	h0	h0
ミギヒザ	k0	k0
ミズアメ	k0	k0
ミズイロ	h0	h0
ミズウミ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ミズムシ	k0	h2 (k3?)
ミソシル	h2	h2
ムラサキ	h0	h3
モノサシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ユーガタ	h0	h0
オトコトモダチ	h4	h4
ヒトズキアイ	h2 (k3?),h3	h3

ナマクリーム	h4	h4
クサカンムリ	h2 (k3?)	h2 (k3?),h3
アオムラサキ	h4	h0,h6
サケマンジュー	h2 (k3?)	h3
ゴムテブクロ	h3,h4	h3,h4
デンキガミソリ	h4	h4,h5
ヌカヨロコビ	h2 (k3?),h3	h0,h4
イトコンニャク	h3	h3,h4
タマコンニャク	h2 (k3?),h3	h3,h4
ユキガミナリ	h3	h3,h4
シタバタラキ	k0,h0	h3,h4,h5
タダバタラキ	h0	h4,h5,h0
ハナバタケ	h2 (k3?)	h2
ムギバタケ	h2	h0
モモバタケ	h2 (k3?)	h4
ニワシゴト	h2 (k3?)	h2 (k3?),h3
ヤマシゴト	h2 (k3?),h3	h2 (k3?),h3
ハリシゴト	h2	h3
チカラシゴト	h4	h4
ハタケシゴト	h4	h4
ナツマツリ	h2 (k3?)	h3
アキマツリ	h2 (k3?)	h3
サクラマツリ	k4	h4
モミジマツリ	k4	h4
ハダカマツリ	h4	h4
タケバヤシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
クリバヤシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
マツバヤシ	h0,h3	h2,h3
オトコオヤ	k0,h0	h0
オトコモノ	k0,h0	h0
ムスメムコ	k4	h4
オトコギライ	h4	h4
サカナギライ	k4	h4
クスリギライ	h4	h4
ワサビギライ	k4	h4
コトバズカイ	h0	h4
ココロズカイ	k4,h4	h4
カネズカイ	k0,h2 (k3?)	k0

ヒトズカイ	h3	k0,h2,h3
イキズカイ	h3	h0
オモテガワ	k0	h0
ヒガシガワ	k0	k0
ムコーガワ	k0	k0
ヒダリガワ	h0	h0
ウシロガワ	k0	h0
ニシガワ	k0	k0
ウチガワ	k0	k0,h0
ソトガワ	h0	h0
カザグルマ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
カタグルマ	h2	h0
オモテムキ	k0	h0
ヒガシムキ	k0	k0,h0
ヒダリムキ	h0	h0
ウシロムキ	k0	h0
ニシムキ	k0	k0
ウチムキ	k0	h0
ソトムキ	h0	h0
イトグルマ	h2	h0
ミズムシ	k0	h2 (k3?)
イモムシ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
マツムシ	h0	h2
フデバコ	h0	h0
カミバコ	k0,h0	h0
ゲタバコ	h0	h0
タカラバコ	k4	k4
カガミバコ	k4	k4
スズリバコ	k4	k4
ドーグバコ	k4	k4
クスリバコ	h4	h4
ミカンバコ	h3	h3
カガミモチ	k4,h4	k4
サクラモチ	h4	h4
ヨモギモチ	h4	h4
カタナガリ	k4	h4
モミジガリ	k4	k4
ウサギガリ	h4	h0

コメズクリ	h2 (k3?),h3	h2 (k3?)
クニズクリ	h2 (k3?)	h2 (k3?)
ミソズクリ	h3	h0,h3
ウチワズクリ	k4	k4,h4
カタナズクリ	k4	h4
キューリズクリ	h4	k4,h4
オトナムケ	k0	h0
コドモムケ	k0	k0
オトコムケ	k0	k0,h0
オヤコムケ	h0	h0
アイダガラ	k0	
ハキソージ	h2 (k3?)	
オトコオヤ	k0	
オトシダマ	h0	
シアサッテ	k1	
カタグルマ	h2	
ウミボーズ	h3	
ウンテンシュ	h3	
ミギヒダリ	h3	
イキカエリ	h3	

複合名詞アクセント補遺資料

複合名詞の前部要素を中心としたアクセントデータを提示する（データは 1933 年生男性のもの。）

アキ「秋」	k1	スズリ	k1
イキ「息」	h0	ソト	h0
イト「糸」	h0	タカラ	k0
イモ	k1	タケ「竹」	k0
ウサギ	h0	チカラ	k1
ウシロ	k1	ドーグ	k1
ウチ「内」	k0	ナツ	k1
ウチワ	k1	ニシ	k0
オトコ	k1	ニワ「庭」	k0
オトナ	h2	ハダカ	k0
オモテ	k1	ハタケ	h0
オヤコ	h0	ハナ「花」	k1
カガミ	k1	ハリ	h0
カゼ「風」	k0	ヒガシ	k1

カタ「肩」	h0	ヒダリ	h0
カタナ	k1	ヒト	k1
カネ「金」	k0	フデ	k0
カミ「紙」	k1	マツ	h0
キューリ	k1	ミカン	h2
クスリ	h0	ミズ	k0
クニ	k0	ミソ	h0
クリ	k1	ムギ	h0
ゲタ	h0	ムコー	k0
ココロ	k1	ムスメ	k1
コトバ	k1	モミジ	k1
コドモ	k0	モモ	k0
コメ	k1	ヤマ	k1
サカナ	k0	ヨモギ	h0
サクラ	k0	ワサビ	k1

白峰方言調査 語彙集

本語彙集の見方

- ・この語彙集は、標準語見出しで、五十音順で並んでいます。
- ・掲載順は以下のとおりです。

標準語見出し（ひらがな・漢字仮名混じり） 方言語彙（カタカナ） [音声記号] アク
セント型 例文（方言例文をカタカナ、その標準語訳を（漢字仮名混じり文）） 【備考】

- ・例文が複数ある場合は、「／」で区切って示します。
- ・アクセント型、例文、備考などはない場合があります。
- ・特に用言については、例文中に□として、それぞれの活用形のアクセント型を示す場合があります。
- ・アクセント型はそれぞれの語形に付しています。たとえば、「はぐき（歯茎） ハギシ [haɕi]、ハゲシ [haɕe] h0 」という記述の場合、「ハゲシ」のアクセント型は h0 型であるという表示で、「ハギシ」に関しては未調査、ということを意味します。

凡例

おかあさん（お母さん） イネ [ine] k1 例：イエノ イネー ドコ イッチャロコ。
（うちの母ちゃんどこいったの？）【備考：妻や母のことを言う。】

本語彙集の注意点

- ・本語彙集においては、多くの変異が観察されます。たとえば、「蕨」を意味する単語を見ると、「ワラベ」と「ワラビ」がある、とされています。これらの変異が、話者間の変異であるのか、話者内の変異であるのか、などといった点は、本語彙集においては記載していません。音声表記についても、調査者間の表記の統一は行っていません。

仮名・音声記号対応表（「-」は本調査で確認されなかったことを意味する）

	音素	/a/	/i/	/u/	/e/	/o/
	異音	[a]	[i, i̥, i]	[u, u]	[e, e̥]	[o, wo, ɔ]
	仮名	ア	イ	ウ	エ	オ
/p/	音素	/pa/	-	/pu/	/pe/	/po/
	異音	[pa]	-	[pu, pu]	[pe]	[po]
	仮名	パ	-	プ	ペ	ポ

/b/	音素	/ba/	/bi/	/bu/	/be/	/bo/
	異音	[ba]	[bi, bi̯, bi̯]	[bu, bu]	[be]	[bo]
	仮名	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
/m/	音素	/ma/	/mi/	/mu/	/me/	/mo/
	異音	[ma]	[mi, mi̯, mi̯, mi̯]	[mu]	[me, me̯, me̯]	[mo]
	仮名	マ	ミ	ム	メ	モ
/t/	音素	/ta/	/ti/	/tu/	/te/	/to/
	異音	[ta]	[te̯i]	[tu, tu, tu, tθu]	[te]	[to]
	仮名	タ	チ	ツ	テ	ト
/d/	音素	/da/	-	-	/de/	/do/
	異音	[da, ða]	-	-	[de]	[do]
	仮名	ダ	-	-	デ	ド
/n/	音素	/na/	/ni/	/nu/	/ne/	/no/
	異音	[na]	[ni, ni̯]	[nu, nu]	[ne]	[no]
	仮名	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
/s/	音素	/sa/	/si/	/su/	/se/	/so/
	異音	[sa, θa]	[si̯, θi̯, θi̯]	[su, su, θu, si̯]	[se, θe, se̯]	[so, θo]
	仮名	サ	シ	ス	セ	ソ
/z/	音素	/za/	/zi/	/zu/	/ze/	/zo/
	異音	[za, ða, dza, dða]	[zi, dzi̯]	[zu, zu, zu, dzu, dðu]	[ze, ze, ðe]	[zo, dzo, dðo]
	仮名	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
/r/	音素	/ra/	/ri/	/ru/	/re/	/ro/
	異音	[ra]	[ri̯, ri̯]	[ru, ru]	[re, re̯]	[ro]
	仮名	ラ	リ	ル	レ	ロ
/k/	音素	/ka/	/ki/	/ku/	/ke/	/ko/
	異音	[ka]	[ki̯, ki̯]	[ku, ku]	[ke, ke̯]	[ko, kə̯]
	仮名	カ	キ	ク	ケ	コ
/g/	音素	/ga/	/gi/	/gu/	/ge/	/go/
	異音	[ga, ŋa]	[gi̯, ŋi̯, ŋi̯]	[gu, ŋu, ŋu]	[ge, ŋe]	[go, ŋo]
	仮名	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ

/h/	音素	/ha/	/hi/	/hu/	/he/	/ho/
	異音	[ha]	[çi]	[φu, φu]	[he]	[ho]
	仮名	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
/w/	音素	/wa/	-	-	-	-
	異音	[wa]	-	-	-	-
	仮名	ワ	-	-	-	-

/j/	音素	/ja/	/ju/	/jo/
	異音	[ja]	[ju, ju]	[jo]
	仮名	ヤ	ユ	ヨ
/m/	音素	/mja/	-	/mjo/
	異音	[m ^h ja]	-	[m ^h jo]
	仮名	ミヤ	-	ミヨ
/t/	音素	/tja/	-	/tjo/
	異音	[tɕa]	-	[tɕo]
	仮名	チャ	-	チョ
/n/	音素	/nja/	-	/njo/
	異音	[n ^h ja, na]	-	[n ^h jo, no]
	仮名	ニヤ	-	ニヨ
/s/	音素	/sja/	-	/sjo/
	異音	[ɕa]	-	[ɕo]
	仮名	シヤ	-	シヨ
/z/	音素	/zja/	-	/zjo/
	異音	[dʑa, za]	-	[dʑo, zo]
	仮名	ジャ	-	ジョ
/r/	音素	/rja/	-	/rjo/
	異音	[r ^h ja]	-	[r ^h jo]
	仮名	リヤ	-	リヨ
/k/	音素	/kja/	/kju/	/kjo/
	異音	[k ^h ja]	[k ^h ju]	[k ^h jo]
	仮名	キャ	キュ	キヨ
/g/	音素	/gja/	-	-
	異音	[ŋ ^h ja]	-	-
	仮名	ギャ	-	-

/h/	音素	/hja/	-	/hjo/
	異音	[ça]	-	[ço]
	仮名	ヒヤ	-	ヒヨ

音素	/N/
異音	[n, m, ɳ, ŋ, ɲ]
仮名	ン
音素	/Q/
異音	[zz, kk, tt, θθ, ss, ɕɕ, pp, tɕ, dɕ]
仮名	ツ
音素	/:/
異音	[aː, iː, uː, eː, oː]
仮名	-

あ

あおい（青い） アオイ [aoi] [k1] 例：ソラガ アオイニャー。（空が青いなあ。）アーオナル。 [k0] （青くなる。）

あか（垢） アカ [aka] [k1] 例：フロ ハイッテ アカ オコシテ コー。（風呂に入って垢を落としてこい。）

あかい（赤い） アーキャ [a:kia] [k1] 例：アノ ミーワ アオイケツカ コノ ミーワ アーキャ。（あの実は青いけれども、この実は赤い。）アーコナル。 [k0] （赤くなる。）

あかぎれ アカギレ [akagire] [k0]

あかつき（暁） アケガタ [akegata] [h0] 例：アケガタニ ユキナガシ ショーカニャー。（あかつきに雪かきしようかな。）

あかり（灯り） アカリ [akari] 例：アカリガ ツイチョル。（灯りがついている。）

あき（秋） アキ [aki] [k1] 例：アキワ オブツジ ジョーニャー。（秋はお仏事です。）

あきのしごとをおわらせること（秋の仕事を終わらせること） アキジマイ [akizimai] [h0]

あくび（欠伸） アグビ [agubi] [k1] 、アクビ [akubi] [k1] 例：ネプトテ アグビガ デルニャ。（眠たくてあくびが出るなあ。）

あけび アクビ [akubi] [k1] 例：アクビ アンマリ ンマイ モンジャナイサカイニ シャーニ クイトナイ。（あけびは、あまり旨いものじゃないから、そんなに食べたくない。）

【備考：苦い種が赤痢の薬になる。】

あご（顎） アゴ [ago] [k1] 例：アゴ ウッタ。（あごを打った。）

あさ（朝） アサゲリ [asageri] [h3] 、アサギリ [asagiri] [h3] 例：アサギリノ ウチニ コノ シゴトワ シテシマオ。（朝のうちにこの仕事はしてしまおう。）

あさいと（麻糸） ノノイト [nonoito] [h2]

あさせ（浅瀬） アサセ [asase] 例：アサセデ イオメオ トルワイ。（浅瀬で魚をとる。）

あさって（明後日） アサッテ [asatte] [k1] 例：アサッテカラ スクトイゾ。（明後日から あたたかいよ。）／アサッテモ スクトイヤロコ。（明後日も暑いだろうか。）

あさぬの（麻布） ノノ [nono] [k0] 例：ノノオ オル。（麻布を織る。）

あさのせんい（麻の繊維） オー [o:] [k0] 例：オー ウム。（麻の繊維をよって糸にする。）／オー ヒク。（麻の繊維を作る。）

あさめし（朝飯） アサギリノ ママ [asagirino mama] [h3+h0] 、アサイ [asai] [k1]
例：アサギリノ ママ クタコ。（朝ごはんたべたか？）／キョーワ イシャ イカンナンデ アサギリノ ママ クー コト ナランジャ。（今日は医者に行かないといかないから、朝食たべるのはだめなんだ。）／アサイ クタイカ。（朝ごはんたべたか？）／ハヨー アサイ タベヤ。（はやく朝ごはん食べなさい。）

あし（足） アシ [aei] [k1] 例：アシガ ナーギヤ ヒトヤナ。（足が長い人だな。）

あじ（味） アジ [adzi ~ azi] h0 例：コノ ニシメ ナンチュー アジガ ワーリナ。
ナンナ クドイヤカ ウーシヤカ。（この煮しめすごく味が悪いな。味が濃いか、薄いか。）
／アジガ ヘット アマイ。（味がすこし薄い。）

あした（明日） アシタ [acita] k0 例：アシタカラ アメガ フラシー。（明日から
雨が降るらしい。）／アシタカラ アメガ フラニャ エーガ フツチャルクーニャー。（明
日から雨が降らないといいけど降ってくるかな。）

あしのうら（足の裏） アシノヘラ [acinohera] k0+h0、アシノウラ [acinoura] k0+k1

あせ（汗） アセ [ase] h0 例：モー ノクトーテ アセ カイタ。（もう、暑くて汗を
かいた。）

あぜみち（畦道） アゼ [aze] 例：アゼガ クズレテ シモータ。（畦が崩れてしまった。）

あそこ アシコ [aciko] 例：アシコニ オルノ ダイナ。（あそこにいるのはだれか。）

あたたかい（暖かい） ノクトイ [nokutoi] 例：ヤー ノクト。（ああ、あったかい。）
／マーヘット ノクトイ トコ イキチャニャー。（もっと暖かいところに行きたいなー。）

あたま（頭） カシラ [kacira] k1 例：カシラガ ウツ。（頭が痛い。）

あつい（熱い） アーチ [a:tei] k1 例：コノシル アーチナイコ。（この汁熱くない
か。）／アーツナル。 h0 （熱くなる。）

あつい（暑い） ヌクトイ [nukwtoi] h3 、ノクトイ [nokutoi] h3 例：ノクトナ
イヤカ。（暑くないか。）

あと（跡） アト [ato] h0 例：ココワ ムカシノ イエノ アトヤ。（ここは昔の家の
跡だ。）／イノシシノ アシノ アトヤ。（イノシシの足の跡だ。）

あな（穴） アナ [ana] k1 例：アノ イエ カベニ アナガ アイチョルニャー。（あ
の家は壁に穴があいているなあ。）

あなた ワレ [ware] h0、ワイ [wai] h0 例：ワリャ ドコ イクナ。（あなたはどこへ
行くのか。）【備考：年下や親しい仲間に対して使う。年上に対しては名前を用いる。】

あなたたち ワッラ [warra] h2 例：ワッラ ドコ イクナ。（あなたたちはどこへ行く
のか。）【備考：年下や親しい仲間に対して使う。年上が複数名いる場合は「〇〇サンラ」と
する。】

あばらぼね（肋骨） アバラノホネ [abarano hone] k0+k1、アバラボネ [abarabone]
k4 例：アバラノホネガ シワッタ。（あばら骨が中へ反った。）／アバラ シタイカ。（あば
ら骨を痛めたのか。）

あぶら（油） アブラ [abura] h0, k1 例：ムカシワ アブラ ツコテ アカリオ トッ
タ。（昔は油を使ってあかりをとった。）／テンプラアブラオ コーテコイヤ。（天ぷら油を買
ってこい。）

あぶらあげ（油揚げ） アブラゲ [aburage] h0 例：アブラゲ ツクッテクレ。（油揚
げを作ってくれ。）

あまい（甘い） アーミヤ [a:mja] [k1] 例：コノ アメ ナンチュー アーミヤナ。（この飴はとても甘いな。）／アーモナル。[k0]（甘くなる。）

あみ（網） アミ [ami] [k1] 例：アミワ テーレガ ダイジナ。（網は手入れが大事だ。）

【備考：上等の絹糸などで作られたゴリ採り用のものなどもあった。】

あめ（雨） アメ [ame] [h0] 例：アメガ フッチョル。（雨が降っている。）

あられ（霰） アラレ [arare] [k0] 、アラネ [arane] [k0] 例：アラネゴチ。（霰が吹き付けること。）

あり（蟻） アリメ [arime] [k0]

ありがとう ヨシタイ [jocitai] [k1] 、ヨーサッシャッタ [jo:sas'atta] [k0+h3] 例：ホンノニ ヨシタイ ヨー。（ほんとうにありがとう。）【備考：ヨーサッシャッタの方がより丁寧。】

あれ アイ [ai] [k1] 例：アイワ ナンナー。（あれは何か。）

あわ（泡） アワ [awa] [k1] 例：アワガ タッチョル。（泡が立っている。）

あわ（粟） アワ [awa] [h0] 例：コトシワ アコエ アワ マコカ。（今年はあそこに粟をまこうか。）／モチアワ。（餅粟）。／ウルアワ。（ご飯にする粟。）

あわせがき（合わせ柿） アワセガキ [awasegaki] [k0] 例：アワセガキデモ ツクロカ。

（合わせ柿でも作ろうか。）【備考：酒、柿、お湯を入れた樽に藁をかぶせて密封してつくる。】

あわのごはん（粟のご飯） アーママ [a:mama] [k2, k4]

い

いえ（家） イエ [ie] [k1] 例：ジーサ イエデ サケ ノージョル。（おじいさんは家で酒を飲んでいる。）／アノ ウチワ イエノヤ。（あの家屋はうちのものだ。）【備考：家の家屋のことも、血縁者のこともさす。】

いへのまへのひろば（家の前の広場） コバ [koba] 例：イエノ マエノ コバニ ムシロ シーテ ヒエナンカ ホスヤワイ。（家の前に筵を敷いて、稗なんかを干すよ。）【備考：採ってきたもの（秋は栃、春は山菜など）を乾かすために筵を広げたり、布団や着物を干したりした。】

いか（烏賊） イカ [ika] [k0] 例：イカ ホス。（イカを干す。）【備考：干したものはスルメと言う。】

いき（息） イキ [iki] [h0] 例：イキガ コワイ。（息が苦しい。）

いくつ イクツ [ikutsu] [h2] 例：イクツ カウナ。（いくつ買うのか。）

いくら イクラ [ikura] [h0] 例：コレ イクラナ。（これ、いくら。）

いさり（夜の漁） ヨガケ [jogake] [h0] 、イサリ [isari] 例：イサリリョーニ ヨクイッタ。（いさりによく行った。）【備考：イワナをとる。】

いし（石） イシナ [icina] [h0, h2] 例：ツケモンイシナ。（漬物石。）／ハタケノ イシナ オ トレヤ。（畑の石をとれ。）

いしがき（石垣） イシガキ [icigaki] [h0]

いしわら（石原） ゴロワラ [gorowara] h3、ゴーロワラ [go:rowara] k4、イシ
コロワラ [icikorowara]、イシワラ [iciwara]、イシナワラ [icinawara] h3 例：アシ
コワ ゴロワラデ モノガ デキン。（あそこは石原で、作物ができない。）／コリヤ テン
ポナ ゴロワラヤサカイ ヨージンシテ アルケヤ。（これはひどい石原だから、用心して歩
けよ。）／カーナ イシワラ アンマリ アルケンワイ。（こんな石原、あまり歩けないよ。）
／イシワラヤカン。（石原にヤカンを引くように、滑らかでない様子を言う表現。特に、話が
滑らかでないこと。）

いずみ（泉） ショーズ [ɕo:dõu ~ ɕo:zu ~ ɕo:zu] h0 例：アッコノ ヤマニワ デカイ
ショーズガ アル。（あその山には大きな泉がある。）／ショーズミズ。（泉の水。）／ショ
ーズニ ミズクミニ イッテクルワイ。（泉に水を汲みに行ってくるよ。）【備考：山から地下
水として出てきた水が溜まったところ。昔は村の半分しか水を確保できなかった。林西寺の
後ろに地下水が流れているので、そこに水を汲みに行き、生活していた。】

いた（板） イタ [ita] h0 例：コノ イタ マガッチョル。（この板は曲がっている。）
いたどり イタドリ [itadori] h0 例：イタドリワ ンモーナイデ クワランダ。（いたど
りはおいしくないから食べなかった。）

いちご（苺） イチゴ [iteigo] h0、ヤマイチゴ [jamaiteigo] 例：ヤマイチゴガ ア
ル。（山イチゴがある。）

いつ イツ [itsu] h0 例：イツ モドルナ。（いつ戻るのか。）

いつつ（五つ） イツツ [itsutsu] k1

いと（糸） イト [ito] h0 例：イトノ ヨーニ ホソイニャー。（糸のように細い。）

いど（井戸） イド [ido] h0 例：コノ イドワ ヨイ イドヤ。ズット カレント デ
チョッチャ。（この井戸は、良い井戸だ。枯れずにずっと出ているよ。）

いところ イトコ [itoko] k1 例：イトコガ オーゼイ オル。（いところがたくさんいる。）

いなびかり（稲光） イナビカリ [inabikari] 例：キョーワ イナビカリガ サイサイ
デルニャー。（今日は稲光がたびたび出るな。）

いぬ（犬） イヌ [inu] k1、イリメ [irime] k1 例：アシコノ ウチワ イリメ コ
ーチョル。（あそこの家は犬を飼っている。）／アシコワ イリメオ ウチデ コーチョッチ
ャト。（あそこは犬を家で飼っているって。）

いね（稲） イネ [ine] h0

いのち（命） イノチ [inotei] k1 例：イノチ ダイジニ セーヤ。（命を大事にしろよ。）

いま（居間） オミヤー [omja:]、オミヤ [omja] h0 例：オミヤー ハコマイカ。（居
間を掃こうじゃないか。）／オミヤー ハクヤサカイ ヨレヤ。（居間を掃くんだから〈脇に〉
寄れ。）／オミヤーノ マンナカニワ ジロガ アッチャッタヤワイ。（居間の真ん中には囲
炉裏があった。）【備考：いろいろがあって食事をする。藁を編んだり叩いたりなどの作業場
もあった。】

- いま (今) イマ [ima] [h0] 例: イマ スグ シェーヨ。(今すぐやれよ。)
- いも (芋) イモ [imo] [k1] 例: イモー ウエル。(芋を植える。)
- いもり (イモリ) イモルメ [imorume] [h0]
- いれずみ (入れ墨) イレズミ [irezumi] 例: テンポナ デカイコト イレズミガ ハ
イッチョッタ。(たくさん入れ墨が入っていた。)
- いろ (色) イロ [iro] [k1] 例: コノ エワ デカイコトノ イロ ツコーチョッチャニ
ャ。(この絵はたくさん色を使っているんだね。)
- いろり (囲炉裏) ジロ [dziro~dziro:] [h0] 例: ジロバタデ ママ クーカ。(囲炉裏の
そばでご飯を食べようか。) / ジローノ ヒー キャースナ。(いろりの火を消すな。)
- いろりのおくをむいたひだり (囲炉裏の奥を向いた左) ナベジャ [nabedza~na:bedza:]
[h0] 【備考: 玄関から見て左手。母・主婦の座。その後ろに鍋を置く。】
- いろりのおくをむいたみぎ (囲炉裏の奥を向いた右) オノコジロ [onokodziro] [k4]
【備考: 玄関から見て右手。長男が座る。客が来れば客が座る。】
- いろりのかみ (いろりの上) ヨコジャ [jokodza~jokoza] [h0] 例: ヨコジャワ オヤ
ジ オット モー スワレンジャッタ。(ヨコジャは父親がいると、もう、座れなかった。)
- 【備考: 玄関から見て奥。父・家長の座るところ。】
- いろりのしも (いろりの下) スエジャ [0wedza~sueza] [h0] 例: スエジャニワ ヨ
メガ スワルワイ。(スエジャには嫁が座る。)
- 【備考: 長男以外の子が座る。】
- いろりばた (囲炉裏端) ジロバタ [dzirobata] [h0] 例: ジロバタイ センパ オイチャ
ール。(いろりばたに十能が置いてある。)
- いわい (祝い) イワイ [iwai] [k0]
- いわな (岩魚) イオメ [iome] [k0] 例: イオメ トリニ イッテ コイ。(イワナを取
りに行って来い。)
- う
- うえ (上) ウエ [ue] [h0] 例: ソレオ タナノ ウエニ オケ。(それを棚の上におけ。)
- うさぎ (兎) ウサギ [uθaŋʲi] [h0] 、オサギ [osaŋʲi]、ウサギメ [usaŋʲime] [h0] 、
オサギメ [osaŋʲime] 例: ウサギガ クサ カルー。(ウサギが草を齧る。) / コノハワ ウ
サギガ カッタンニャ。(この葉はウサギが齧ったのだ。)
- うし (牛) ウシ [uci] [k0] 、ウシメ [ucime] [k0] 例: ウシワ コータコト ナイ。
(牛は飼ったことがない。)
- 【備考: 大道谷には牛を飼う家が3軒あった。肉にして食べた。】
- うじ (蛆) ウジメ [uzime] [k1] 例: ウジメガ ワイチョル。(蛆がわいている。)
- うしろ (後ろ) ウシロ [uciro] [k1] 例: ウシロエ イケ。(後ろへ行け。) / イエノ ウ
シロ。(家の後ろ。)
- うす (臼) ウス [usu] [h0] 例: コノ ウスワ オモテーサカイニ オーゼイ ヒトオ ヨ
ンデ コイ。(この臼は重いから大勢人を呼んで来い。) / カチウス。(搗き臼。)

うずら（鶉） ウズラ [uzura] 例：ウズラワ オランジャ。（鶉はいないよ。）

うそつき（嘘つき） ダマシコキ [damasikoki]

うた（歌） ウタ [uta] [k1] 例：ヤー ヨイ ウタヤ。（ああ、いい歌だ。）

うち（内） ウチ [utei] [k1] 例：オニワ ソト、フクワ ウチ。（鬼は外、福は内。）

うつくしい（美しい） ケッコナ [kekkona] [k1] 例：ケッコナ イロ シチョルニャー。
（きれいな色をしているねえ。）

うで（腕） ウデ [ude] [k1] 例：ウデニ サガル。（腕にぶら下がる。）

うど ウド [udo] [k1] 例：ウド ツケチョコマイカ。ホンコサンニ ツカオー。（うどを漬けておこうじゃないか。報恩講（の御膳）に使おう。）【備考：漬けておいて保存食にする。採取の季節は茹でて食べる。】

うなぎ（鰻） ウナギ [unagi] [h0]

うなじ オナド [onado] [k1] 例：オナドニ ユキガ ハイッタ。（襟首に雪が入った。）

うに（雲丹） ウニ [upi] [k1]

うま（馬） シマ [mma] [k1]、ウマ [uma]、シマメ [mmame] [k1]、ウマメ [umame]
例：ヤセタ シマオ カッテ クル。（痩せた馬を借りて来る。）／ムカシワ シマメワ バ
シャオ ヒーチョッタ。（昔は馬は馬車を引いていた。）／ウマメノ シリッポ。（馬の尾。）
【備考：稗の田で馬に鋤を引かせたり、糞を溜めて畑の肥料にした。買うのではなく、夏の
間だけ借りた。貸し借りを仲介する人がいた。山から木を引いて来るのに馬に引かせること
もあった。】

うみ（海） ウミ [umi] [h0] 例：コッカラ ウミワ トークテニャー。（ここから海は遠いねえ。）

うみ・のう（膿） ウミ [umi] [k1] 例：ウミガ デル。（膿が出る。）

うめ（梅） シメ [mme] [k0] 例：シメモ ナイ。（〈白峰には竹林がない〉梅もない。）／
シメボシ。（梅干し。）

うら（裏） ウラ [ura] [k1] 例：コノ フクワ ドッテガ オモテナ ウラナ。（この服はどっちが表か裏か？）

うり（瓜） カタウリ [katauri] [h0]、ウリ [uri] [h0] 例：ウリノ クキ ツケテ
クオーカ。（瓜の茎を漬けて食おうか。）【備考：太くて、縞のある瓜。縞瓜。】

うるし（漆） ウルシ [uruci] [k0] 例：ウルシデ テガ カブレタ。（漆で手がかぶれた。）

うれしい（嬉しい） ウリシ [urici] [k1] 例：シナガ シマレタトキワ ウリシカッタ。
（子供が生まれたときは嬉しかった。）ウリシナル。 [k0]（うれしくなる。）

うろこ（鱗） ウロコ [uroko] [k1] 例：ウロコ ナイ。（〈イワナは〉鱗がない。）

うんぱんにん（運搬人） ボッカ [bokka] [h0] 例：ボッカ タノンデ コメ カンデ キ
テ モラオカ。（荷運び人を頼んで、米を担いできてもらおうか。）／ハクサンボッカ。（白山
へ行く運搬人。）／ユービンボッカ。（郵便配達。）【備考：仕事として白山などに食料や資材

を運ぶ人。大道谷にも一人、二人いた。】

うんぱんようせあて(運搬用背当て) バト[bato] [k1]、シャックリバト[cakkuribato] [h5]、ワラバト[warabato] [h0]、シャックリバド[cakkuribado~cakkuribato] [h5]
例：バト キテケヤ。セナカ イーチャサカイ。(バトを着て行けよ。背中が痛いから。) / シャックリバト。(ぼろ布を割いて作ったバト。)【備考：シャックリバトの上にワラバトを重ねる人もいる。】

え

え(柄) エー[e:] [k0] 例：エーガ マガッチョル。(柄が曲がっている。)

えだ(枝) エダ[eda] [k0] 例：エダ アツベテ モッテ コイ。(枝を集めて持ってくる。)

えび(海老) エビ[ebi] [k0] 例：エビ メッタト タベン。(エビはめったに食べない。)

えり(襟) エリ[eri] [k1] 例：エリガ キタニヤ。(襟が汚い。)

お

お(緒) ハナオ[hanao] [k0] 例：ジョーリノ ハナオガ キレタ。(草履の鼻緒が切れた。)

お(尾) シリッポ[cirippo] [h2] 例：ナーギヤ シリッポ シチョッタ。(長い尻尾をしていた。) / シリッポダケ ヨー ミエタ。(尻尾だけよく見えた。)

おい(甥) オイ[oi] [k1]

おいしい(美味しい) ンマイ[mmai] [k1] 例：ンマカッタ。[h3] (美味しかった。) / ンモ ナル。[h0] (美味しくなる。)

おおきい(大きい) デカイ[dekai] [h2] 例：ヤー デカイヤ。(ああ、大きいな。) / コイワ アイヨリ デカイニャー。(これはあれより大きいな。) / デカイナル。[h0] (大きくなる)

おおづち(大槌) カケヤ[kakeja] [k0] 例：カケヤ モッテ コイ。(大槌を持って来る。)【備考：大きな槌。木を割ったり、太い杭を打ったりするのに使う。】

おか(丘) オカ[oka] [k0] 例：コノヘンニ オカワ ナイヤワイ。(この辺に丘はないよ。)

おかあさん(お母さん) イネ[ine] [k1]、オッカ[okka] 例：イエノ イネー ドコ イッチャロコ。(うちの母ちゃんどこいったの?) / オッカノ コトワ アンマリ シラン。(お母さんのことはあんまり知らない。)【備考：イネは、妻や母のことを言う。オッカは呼びかけに使えるが、イネは呼びかけに使えない。】

おかず サイ[sai] [h0] 例：キョーノ サイワ テンプラヤゾ。(今日のおかずはテンプラだよ。)、ママノ サイニ カッテ クー。(ご飯のおかずにして食べる)

おく(奥) オク[oku] [k1] 例：アノ ドークツノ オクワ アブニャ。(あの洞窟の奥は危ないぞ。)

おけ(桶) オーケ[o:ke] [h0]、オケ[oke] 例：ワッラ オーケヲ コワスナヤ。(お

前たち桶を壊すなよ。) / カズキオケ。(担ぐ桶。背負い子。) / コヤシオケ。(肥やし桶。)
【備考：小さいものはオケ。大きいものはオーケ。さらに大きいものはドーケ。】

おじ(叔父、伯父) オッサン [ossan] [h0]

おじいさん(お爺さん) オージーサ [o:zi:θa~o:zi:sa]、ジーサ [zi:θa~zi:sa] 例：イエノ ジーサワ ドエライ サケノミ ヤッタ。(うちの爺さんは大変な酒飲みだった。) / ジーサシュー、バーサシュー。(おじいさんたち、おばあさんたち。)

おじさん ジーサ [dzi:sa] [h0,k1] 例：ジーサシュー。(おじさんたち。)

おぜん(お膳) オゼン [ozen] [h0] 例：オゼンオ モッテコイヤ。(お膳を持って来なさい。)

おちゃうけ(お茶請け) チャージオー [tea:zio:] [h0] 例：チャージオーニ ショー。(お茶請けにしよう。)

おっと(夫) トッサ [tossa] [k1] 【備考：お父さんや夫のこと。呼びかけに使える。】

おでき デギモン [degimon] [h0] 例：イーチャサカイ デギモン アタンナ。(痛いのできものに触るな。)

おと(音) オト [oto] [k1] 例：ヤー ヘンナ オトヤニヤ。(変な音だな。) / ナンチュー デカイ オトガ シンナ。(なんという大きな音がするのか。)

おとうさん(お父さん) トッサ [tossa] [k1] 例：イエノ トッサワ アンマリ オコラン。(うちのお父さんはあんまり怒らない。)

おとこのこ(男の子) ボー [bo:] [k1] 【備考：特に長男を言う。】

おとしあな(落とし穴) オチゴロ [otciŋoro~ɔteŋoro] [h0]

おととい(一昨日) オトテ [otote] [k1] 例：オトテ サケ ノーダ。(一昨日酒を飲んだ。) / オトテワ カデガ ムチャクチャニ ツヨカッタ。(一昨日は風がとても強かった。)

おとし(一昨年) オトトシ [ototoci] [h2] 例：オトトシノ ハナシワ モー ワスレテ シモタ。(一昨年の話はもう忘れてしまった。)

おどり(踊り) オドリ [odori] [k0] 例：ヤー カワッタ オドリヤ。(ああ、変わった踊りだ。)

おなじ(同じ) オンナシ [onnaci] [h0] 例：アノ シューラー オンナシ フク キチヨルニヤー。(あの人たちは同じ服を着ているね。)

おに(鬼) オニメ [opime] [k1] 例：オニメッテ ホンノニ オッチャロコ。(鬼って本当にいるんだろうか。) / オニメッテ ホンノニ オッチャカ。(鬼って本当にいるんだろうか。)

おにいさん(お兄さん) アンチャ [antca] [k1] 例：アンチャ ゲンキカ。(お兄ちゃん、元気か。)

おにぎり ママンダマ [mamandama] [h0] 例：ヤマ イクシー ママンダマ ツクッテクレ。モッテ イクワイ。(山に行くし、おにぎりを作ってくれ。持っていくよ。)

おね(尾根) オボネ [obone] [h0] 例：アノ オボネ コエテ ムコーマデ イッテキ

タ。(あの尾根(山頂)を越えて向こうまで行ってきた。)

おば(叔母、伯母) オバ [oba] [k0] 例: オバガ ウチ ヨッテキタ。(おばさんの家に寄ってきた。)

おばあさん(お婆さん) オーバーサ [o:ba:θa~o:ba:sa]、バーサ [ba:θa~ba:sa] [k1] 例: ジーサモ バーサモ シゴト シタモンジャ。(爺さんも婆さんもよく仕事したものだ。)/ イエノ バーサワ シゴトシー ヤッタ。(うちのお婆さんは働き者だった。)

おび(帯) オビ [obi] [h0] 例: オビガ ホドケチョルサカイ シメ。(帯がほどけているから、絞めろ。)

おもて(表) オモテ [omote] [k1] 例: コノ フクワ ドッテガ オモテナ ウラナ。
(この服はどっちが表か裏か?)

おや(親) オヤ [oja] [k1] 例: ワガノ オヤ。(自分の親。)

おやこ(親子) オヤコ [ojako] [h0] 【備考: 親戚の意味のオヤコは [k1]】

おんな(女) メロ [mero] [k1]、メーロ [me:ro] [h2] 例: メロシュ。(女性たち。)

おんなのこ(女の子) メロ [mero] [k1]、メーロ [me:ro] [h2]、アマ [ama] [h0]、コベ [kobe] 例: メロシュ。(女の子たち。)
【備考: 生まれたばかりの女の子のことをアマという。】

か

か(蚊) カーメ [ka:me] [k0] 例: カーメニ ササレテワイ。(蚊に刺されたよ。)

かい(貝) カイ [kai] [k1]

かい(櫂) カイ [kai] [k1] 例: チカラ イッパイ カイオ コゲ。(力いっぱい櫂をこげ。)

かいこ(蚕) カイコサマ [kaikosama] [h0]、カイコサン [kaikosan] [h0] 例: オカイコサン。(蚕。)

かいこ・じょうぞくまえのかいこ(蚕・上簇前の蚕) ハイコ [haiko] [k1]

かいこがねること(蚕が寝ること) イコ [iko] 例: カミノイコ。(k1 回目のイコ。)/ タケノイコ。(2 回目のイコ。)/ フナノイコ。(3 回目のイコ。)/ ニワノイコ。(4 回目のイコ。)

かいこをかうさお(蚕を飼う竿) エメダツ [emedatθu] [h0] 例: カイコオ エメダツニ ナラベル。(蚕を棚に並べる。)

かいこをわけるおおもと(蚕を分ける大元) ヨーザン [jo:zan] [h0] 【備考: 養蚕一般もヨーザンという】

かえる(蛙) ベットメ [bettome] [k1]

かお(顔) ツラ [tsura] [k1]、カオ [kao] [k0] 例: チョット ツラ コッチ ムケヨ。(ちょっと顔をこっちに向けるよ。)/ ツラガマエガ エー。(面構えがいい。)

かかと(踵) キビス [kibisu] [k1]、カガト [kagato] [k1] 例: キビスデ アルクナ、

ツマサキデ アルケ。(かかとで歩くな、つま先で歩け(草履がすり減る)。)

かがみ(鏡) カガミ [kagami] [k1] 例: カガミデ ギラオ ミル。(鏡で自分を見る。)

かき(垣) ヘーガキ [he:gaki] [k0]、カキ [kaki] [h0,k1] 例: ダイクサンニ ヘーガキオ ツクッテモロタ。(大工さんに垣を作ってもらった。)

かき(柿) カキ [kaki] [k0] 例: カキ ツクテモ アーモ ナラン。(柿を作っても甘くない。)

かげ(影) カゲ [kage] [k0] 例: カゲニ ハイレヨ。(陰に入れよ。)

がけ(崖) ガケ [gake] [k1] 例: ガケガ クズレテ シモータ。(崖が崩れてしまった。)

かご(籠) カゴ [kago] [k0] 例: ミズワ カゴデ ハコベンニヤ。(水は籠では運べない。)

かさ(傘) カサ [kasa] [h0] 例: カサト カップオ モッテ イケヨ。(傘とカップを持って行けよ。)

かす(粕) カス [kasu] [h0] 例: サケノ カスデ アマザケデモ ツクロカ。シャー ショ シャー ショ ソラ ンマイ。(酒の粕で甘酒でも作ろうか。そうしようそうしよう、それはうまい。)

かぜ(風) カゼ [kaze] [k0] 例: キョーワ カゼガ ヒドイニャー。(今日は風がひどいな。)

かぞく(家族) イエノシュウ [ienocuw:] [k0+h0] 例: アシコノ イエノシュウワ ナンニンモ オル。(あそこの家族は何人もいる。)

かた(肩) カタ [kata] [h0] 例: カタガ コル。(肩がこる。)

かたち(形) カタチ [katatei] [k0]

かたつむり(蝸牛) デンデンムシ [dendemmusi]、カタツブリ [katatsuburi] 例: カタツブリガ デカイコト オルニャー。(蝸牛がたくさんいるな。)

かたな(刀) カタナ [katana] [k1] 例: コノ カタナオ ワエニ ヤル。(この刀をお前にやる。)

かたみわけ(形見分け) ショーバキ [eo:baki] [k4] 例: ショーバキ シタイカ。(形見分けしたか。)

かつお(鰹) カツオ [katθuo] [k0]

かど(角) カド [kado] [h0] 例: ツクエノ カド。(机の角。)/ トーフヤノ カドオ マーレ。(豆腐屋の角を曲がれ。)

かに(蟹) ガンドミ [gandomi ~ gandomi]、ガンドメ [gandome] [h0] 例: チーシャ ガンドミ。(小さい蟹。)/ ガンドミ ハサミ アル。(蟹は鋏がある。)
【備考: 昔話の結句で「ソーライキリノ ガンドメノ アシ」という言い方がある。】

かね(金) ジェン [zen]、ゼン [zen~ðen] [h0] 例: ギラ ジェンガ ナイヤ。(私はお金がない。)/ ジェン クレ。(お金をくれ。)

かねもち(金持ち) オヤケ [ojake] [h0]

かび(黴) カビ [kabi] [k0] 例:カビササンヨーニ ミズン ナカ イレチヨイタラ ヨ
イヤナイヤカ。シャーナ ジャマクサイ コト デケン。(カビさせないように水の中に入れて
いたらいいんじゃないか。そんな面倒なことはできない。) / コノ モチ カビトッタヤ
ロ。(この餅かびていただろう。)

かぶ(株) カブター [kabuta:] [h0] 、カブタ [kabuta]、キリカブ [kirikabu] [k0] 、
カブ [kabu] [k0] 例:キノ カブター ネマル。(木の株に腰掛ける。) / キノ カブ。
(切り株。)

かぶ(蕪) カブラ [kabura] [h0] 例:カブラ ニテ オイテキタ。(蕪を煮て、置いて
きた。)【備考:報恩講の際の汁は、たいてい蕪の汁。蕪と里芋となめこを入れた汁をたくさ
ん作る。】

かぼちゃ(南瓜) ナンキン [nan'kin] [k0] 例:コリャ ンマイ ナンキンジャー。(こ
れは美味いカボチャだな。)

かま(釜) カマ [kama] [k0] 、ハガマ [hagama] [k1] [k0] 例:カマデ オユオ ワ
カッショル。(釜でお湯を沸かしている。) / ハガマデ オユオ ワカッショル。(釜でお湯を
沸かしている。)

かま(窯) カマ [kama] [k0] 例:カマニ タキモン イレテクレ。(かまに薪をいれて
くれ。) / カマニ タキモン キベル。(かまに薪をくべる。)

かま(鎌) カマ [kama] [h0] 例:ワリャ カマノ ツカイカタガ ヘタヤニャー。(お
前は鎌の使い方がへたくそだ。)

かまきり(蟻螂) カマキリ [kamak'iri] [h0] 例:コノ ヘンニ カマキリガ オラン
ワイ。(この辺にかまきりがいないよ。)

かまくら マンポ [mampo]、マンブ [mambu] 例:マンポ ハイッテ アソブ。(かま
くらに入って遊ぶ。) / マンポ ホッテ アスバンナン。(かまくらを掘って遊ばない?)【備
考:トンネルのような掘ったものもマンブと呼んだ。】

かみ(紙) カミ [kami] 例:ムカシワニャ カミオ スイチョッタヤト。(昔は紙をすい
ていたらしい。)

かみ(上・地形) オク [oku] [k0] 、カミノホー [kam'inoho:]、オク [oku] 例:
ワリャ オクノホー イケ。ギラ ウラノホー イクワイ。(お前上のほうに行け。私は下の
ほうに行くよ。) / オクノ ヒト。(上の人。)

かみなり(雷) カミ [kami] [k1]、カミナリ [kaminari] [k0]、カミナリサマ [kaminari'sama]
[k0] 例:カミナリサマ ナッタゾヤ。(雷が鳴ったよ。)

かみなりがなるあれもよう(雷が鳴る荒れ模様) カミナリゴチ [kaminari'gotci] [k0]
例:ヨンベワ カミナリゴチデ デカイ フリヤッタ。(タベは雷が鳴る荒れ模様でたくさん
雨が降った。)

かみのけ(髪の毛) カシラノケ [kaciranoke] [h0+k1] 例:カシラノケガ ノビタヤナ

イコ。サンパツデモ シテコイ。(髪の毛が伸びたじゃないか、散髪でもしてこい。)

かめ(亀) カメ [kame] [k1] 例: カメワ シラミネニ オラン。(亀は白峰にいない。)

かめ(瓶) カメ [kame] [k1] 例: ムカシャー ミズモ アブラモ カメニ タメチョッタ。(昔は水も油も瓶に貯めていた。)

かもしか ニクメ [pikume] [k1]、ハズクイ [hazuukui] 例: キョー ニクメ オッタ。(今日、カモシカがいた。)
【備考: ハズクイは、元は枝わかれの意味。】

かや(茅) カヤ [kaja] [h0] 例: カヤデ フク。((屋根を)茅で葺く。)/カヤブキ。(茅葺き。)

かゆ(粥) オカイサン [okaisan] [h0]、カイ [kai] [h0] 例: オカイサン クーカ。
(おかゆ食べるか。)/チーチャ コーラニ オカイサン クワソカ。(子どもたちにおかゆ食べさせるか。)
【備考: 雑炊のこともオカイサンとも言う。】

かゆい(痒い) カイ [kai ~ kai] [k1]、カーイ [ka:i] [h2] 例: ヤー カイ。(ああ、痒い。)/ヤー セナカガ カーイヤ。(ああ、背中が痒い。)/カーイナル。[h0] (痒くなる。)

からい(辛い) カーリヤ [ka:rija] 例: コノ トーガラシワ カーリヤ。(この唐辛子は辛い。)/カーラカッタ。[h4] (辛かった。)/カーロテ クエン。(辛くて食べられない。)/カーラナル、カーロナル。[h0] (辛くなる。)

からす(烏) カラスメ [karasume] [h0] 例: カラスメワ ワルガシコテ テニャンニャー。(烏は悪賢くてかなわないね。)

からだ(体) カラダ [karada] [h0] 例: カラダガ ジョーブヤ。(体が丈夫だ。)

かわ(川) カワ [kawa] [k1] 例: コノヘンノ カワワ アンマレ コーランジャ。(この辺の川はあんまり凍らない。)

かわ(皮) カワ [kawa] [k1] 例: カワガ ムケル。(皮がむける。)

かわうそ(瀬) カワウソ [kawauθo] [h0]

かわら(瓦) カワラ [kawara] [k1] 例: カワラガ オッチョッサカイニ ダイブン カゼガ ツヨカッタヤニャ。(瓦が落ちているから風が強かったに違いない。)

かんざし(簪) カンザシ [kanðaci] [h0] 例: バーガ カンザシオ クレタ。(おばあさんがかんざしをくれた。)

かんじき カンジキ [kapdziki] [k1] 例: カンジキ ハイテ アルク。(カンジキを履いて歩く。)/カナカンジキ。(金属製の爪が付いたかんじき。)
【備考: 雪に沈まないようにするもの。クロモジで作ることが多い。鍛冶屋が爪を作った。長靴が普及して使わなくなった。】

かんしょく(間食) コビリ [kobiri] [k1] 例: アサギリノ コビリ。(午前中の間食。)/ヒンマカラノ コビリ。(午後の間食。)
【備考: うどんやラーメンなどをとったり、ぼた餅が用意されていたりしたこともあった。用務をお願いした側が用意する場合もある。】

き

き(木) キー [ki: ~ ki:] [h0] 例: キガ カヤッチョル。(木が倒れている。)

きくらげ キクラゲ [kikurage] [h0]

きず(傷) キズ [kizu] [k0] 例: ヤー イタカッタ キズガ シミル。(ああ、痛かった、傷がしみる。)

きせる(煙管) キセロ [kisero ~ kicero ~ kijero] [h0] 例: キセロワ ミタコト ナイニャー。(煙管は見たこともない。)

きた(北) キタ [kita] 例: キタワ ドコナヨ。(北はどっちか。) / キタワ ドッテナ。(北はどっちか。)

きたない(汚い) キタニャ [kitanya] 例: ワレガ ベーワ ナンチュ キタニャニャ。(お前の着物はとても汚いな。)

きつつき(啄木鳥) テラトトキ [teratotoki] [k4] 例: テラトトキガ キタデ マタ ユキガ フル。(きつつきが来たから、また雪が降る。)

きぬいと(絹糸) キヌイト [kinuito] [h0] 例: キヌイトデ スー。(絹糸で縫う。)

きね(杵) キネ [kine] [h0] 例: キネデ ユビオ ツブシテ シモタ。(杵で指を打ってしまった。)

きのいっしゅ(木の一種) リョーボ [ryo:bo] [h0] 例: リョーボヤシ コノヘンワ ジメンガ エーサカイ アラハタ コッシェエヨーカ。(リョーボだし、この辺は地面がいいから、焼き畑をしようか。)【備考: 背の高くならない地面に這って生える木。リョーボの生えるようなところをムツシワラと呼ぶ。】

きのう(昨日) キンノ [kinno] [k1]、キンニョ [kinpo] [k1] 例: ウチノ ジーサワ キンノカラ ネチョル。(うちのおじいちゃんは昨日から寝ている。)

きのきりだし(木の切り出し) ハルキヤマ [harukijama ~ harukijama] [h0] 例: ハルキヤマガ ハジマッタ。(ハルキヤマが始まった。)【備考: 夏のうちに杉の木を伐って積んでおき、2月の終わりごろに、固くなった雪の上に道を作って、そりで木を運ぶこと。正式には2月15日の小正月から始める。1~2か月間、山に泊まり込む。秋のうちに食糧を運んでおく。一人、一日、一升ほどのお米を準備した。】

きのこ(茸) コケ [koke ~ koke] [k1] 例: アノ コケワ ドクヤサカイ トッテクンナ。(あのキノコは毒だから採って来るな。) / コケトリ。(茸採り。) / コケトリ シタ。(茸採りをした。)

きのこ・たべられないきのこ(茸・食べられない茸) ドスゴケ [dosugoke] [h2]、ドクゴケ [dokugoke] [h2] 例: ドスゴケワ クエンゾー。テケンナルゾー。(ドスゴケは食べられないよ。お腹を壊すよ。)

きのこのいっしゅ(茸の一種・杉の木に生える真っ白い茸) スミミ [sumimimi ~ sumimi]、スギミミ [sugimimi] [k0] 【備考: 杉の木に生える真っ白い茸。美味。】

きのこのいっしゅ(茸の一種・橙色の味の良い茸) マスゴケ [masugoke] [k0] 【備考: 橙色の(赤い)茸。遠くからでもよく見える。どんな木でも生える。香りがよく、おい

しい。あまりたくさんは生えない。】

きのこのいっしゅ（茸の一種・土に生えるなめこに似ている） イキフリ [ikiɸuri]

h2 【備考：土に生える（地面の下に木の腐ったのがあるとそこに生える）。なめこのような形。美味。あまり見られない。】

きのこのいっしゅ（茸の一種・どんな木でも少し腐ったのに生える） モチハシ

[moteihaci] 【備考：どんな木でも少し腐ったのに生える。昔はよく食べたが、最近はまだ食べない。】

きのこのいっしゅ（茸の一種・ブナの木腐ったのに生える） シロゴケ [ɕiroŋoke]

h0 【備考：天然のものと栽培して作るものがある。ぶなの木腐ったのに生える。美味。】

きも（肝） キモ [kimo] k1

きもの（着物） ベー [be:] k1 例：ケッコーナ ベー キタニヤー ベー。（きれいな着物、汚い着物。）／アシコノ コーワ ケッコナ ベー キチョルニヤー。（あそこの子は綺麗な着物を着ているな。）

きやはん（脚絆） キャハン [kʲahan] k1 、チャハン [tɕahan] k1 、マッキヤハン [makʲahan] k4

きゅう（灸） ヤイト [jaito] k2 例：ヤイト シツゾ。（灸をするぞ（子供の頃しかられるときに言われた）。）

きゅうす（急須） キュース [kʲu:su] h0 、キビシヨ [kʲibɕio] 例：キュースワ ギラワ ツクレンニヤ。（急須は自分では作れないだろう。）

きゅうそく（休息） イップク [ippukw] 例：イップク ショーカ。（一休みしようか。）

きゅうにん（九人） クニン [kuɲin] k0

きゅうり（胡瓜） ウリ [uri] k1 、キューリ [kʲu:ɾi] k1 例：ウリガ ナッタ。（胡瓜がなった。）／ウリバタ。（きゅうり畑。）

きょう（今日） キョー [kʲo:] h0 例：キョーカラ マイニチ ホンオ ヨモ。（今日から毎日本を読もう。）

きょうだい（兄弟） キョーダイシュー [kʲo:daicw:] h0

きょねん（去年） コッゾ [kodzo~kozzo] 0 例：コッゾワ アンマレ モーケガ ナカッタ。（去年はあんまり儲けがなかった。）

きり（錐） キリ [kʲiri] h0 例：コノ キリデ アナオ アケッジャ。（この錐で穴をあける。）

きり（霧） キリ [kʲiri] k0 例：キョーワ キリン ナッタニヤー。（今日は霧になったな。）

きんぞく（金属） カネ [kane] k0

く

くき（茎） クキ [kwki] k1 例：クキガ オレタ。（茎が折れた。）

くぎ（釘） クギ [kuŋi] [k0] 例：クギヲ ツカワント クンデミー。（釘を使わずに、組んでみる。）

くさ（草） クサ [kuθa] [k1] 例：クサガ ヨー ハエチョル。（草がよく生えている。）

くさり（鎖） クサリ [kʲʌsari] [k0] 例：クサリガ ムスバッテ トレナイ。（鎖がからまってとれない。）

くし（櫛） クシ [kʲʌci] [k1] 例：クシノ ハガ オレタ。（櫛の歯が折れた。）

くじら（鯨） クジラ [kudzira] [h0]

くすり（薬） クスリ [kʲʌsuri] [h0] 例：イシャ イッタラ クスリ クレタ。（医者に行ったら薬をくれた。）

くそ（糞） バー [ba:] [k1] 例：バー コイチョル。（くそをしている。）／クマガ バー コイテ アッタ。（熊がくそをして、そのくそがある。）【備考：バーは柔らかく、大きな、手に持てないもの。それ以外はクソ。】

くだもの（果物） クダモン [kudamon] 例：クダモンワ ヤマナシガ シマイゾ。（果物はヤマナシがおいしいよ。）【備考：桑の実、栗、ヤマナシ、ヤマブドウなどが昔はあった。】

くち（口） クチ [kʲʌci] [k0] 例：クチ アケテ ネット モノ イレルゾ。（口を開けて寝るとものを入れるぞ。）

くちびる（唇） クチベラ [kʲʌciɸera] [h0] 例：クチベラガ カワイテ シタデ ナメトル。（唇が乾いて舌でなめている。）

くび（首） クビ [kuɸi] [k0] 例：クビガ イーチャ。（首が痛い。）

くま（熊） クマメ [kʲʌmame] [k1] 例：アシコエ イッタラ デーカイ クマメ オッタガニャー。（あそこに行ったら大きな熊がいたけどね。）

くまで（熊手） ビビラ [bʲibira ~ bibira] [h0]、ゴマタ [gomata]、クマデ [kumade]、コバザラエ [kobad̥arae] [k4]、コバザライ [kobad̥arai]、コマザライ [komazarai]
例：ビビラデ ゴミ サラエル。（熊手でゴミを集める。）／コバザラエデ ゴミ アツメル。（熊手でゴミを集める。）【備考：ビビラは竹製で柄が長い。ゴマタは金属製で、畑でゴミを集めるのに使う。コマザライは焼き畑の後に豆をまき、その上に土をかぶせる時に使う。】

くも（雲） クモ [kʲʌmo] [k1] 例：クモガ デカイコト デタニャ。（雲がたくさん出たな。）

くも（蜘蛛） クボメ [kʲʌbome] [h0] 例：ギラワ クボメワ スカンジャ。（私は蜘蛛は嫌いだ。）／クボメガ スーオ ハッテワイ。（蜘蛛が巣を作っている。）

くものす（蜘蛛の巣） クボメノス [kʲʌbomenosu] [h0+k0]

くり（栗） クリ [kʲʌri] [k1] 例：クリヒロイ シロ。（栗拾いをしろ。）／アッコ イッテ クリ ヒローテ コイ。（あそこへ行って栗を拾ってこい。）【備考：クリタマという虫がきて、ほとんど切ってしまった。栗の木は材木として高く売れた。】

くるぶし（踝） クルブシ [kʲʌrɸɸɸi] [h0] 例：ウチクルブシワ ノミニモ クワレル

ナ。(内側のくるぶしはのみにも喰われてはいけない(大切にせよ。))【備考：内側のくるぶしの傷は治りにくいとされる。】

くるみ(胡桃) クルビ [kurubi] h0 例：クルビアエ ショー。(くるみ和えをしよう。)
／クルビワリ ショー。(くるみ割りをしよう。))【備考：拾ってきて乾かしておき、殻を割って実を取り出す。水に濡らしてフライパンなどで炒って殻を割ると、実と殻が混ざらなくてよい。すり鉢で実をすって和え物にする。シロゴケや人参をくるみで和えるとおいしい。報恩講の御膳で和え物に使うが、普段はあまり食べない。】

くわ(桑) クワ [kuwa ~ kʷa:] k0 例：クワーコキ セー。(桑こき(桑の木から葉をとること)をしろ。)/クワラ。(桑林。)

くわ(鋏) クワ [kʷa ~ kuwa] k0 例：コノ クッオ ツカエッチャカ。(この鋏を使えるか。)

くわのみ(桑の実) ズバメ [dzubame] h0、ズマメ [dzumame] 例：ズバメ クタヤロー。ソンナモン クワン。(桑の実を食べたろう。そんなもの食べない。)/ズマメ ムイデ クオー。(桑の実を剥いて食べよう。))【備考：小さな赤い粒が固まっているような、金平糖が少し大きくなったような見た目の実。熟して紫色になったら食べ頃。食べると口の周りが赤黒くなる。美味。】

くわばたけ(桑畑) クワラ [kʷa:ra ~ kuwara ~ kɯwara] h0、クワバタ [kuwabata] k0 例：アコノ クワラエ クワ コキニ イッテ コイ。(あそこの桑畑に桑の葉採りに行って来い。)/キョーワ カイコニ クワサンナンサカイニ クワバタニ トリニ イッテコンナンニャー。(今日は蚕に食べさせないといけないから、桑畑に採りに行ってこないといけないね。)

け

け(毛) ケー [ke:] k1 例：ノクトソーニ デカイコト ケー ハヤシテ。(暖かそうにたくさん毛を生やして。)

けが(怪我) ケガ [keŋa] k1、アヤマチ [ajamatei] h2 例：ワレワ イッツモ ケガ シチョルモンジャニャー。(おまえはいつもけがをしているものだなあ。)/アヤマチ シンナ。(怪我するな。)

げすいようのかわ(下水用の川) ミンジャジリ [mɿpɰdzadziri]、タンニャ [tappa] h0
例：タンニャガ キタニャー ニオイガ シテ テニャンニャー。(タンニャが汚い臭いがして、どうしようもないなあ。))【備考：ミンジャの終わりのところをミンジャジリという。ミンジャはきれいな水で、ミンジャジリは排水など。オシメなど洗ってもいい。最後の家を越えたところで、ミンジャジリになる。】

げすいをながすところ(下水を流すところ) タンニャジリ [tappaziri]【備考：下水路のこと。ミンジャ(上水)とタンニャ(下水)のような区別だった。】

げた(下駄) ゲタ [geta] h0 例：ゲタ ハイテ コイヨ。(下駄はいて来いよ。)

けむり（煙） ケブリ [keburɪ] [k0] 例：ケブリガ メニ ハイッテワイ。（煙が目に入った。）

けんか（喧嘩） イシャカ [icaka] [k0]、イサカ [isaka ~ iθaka] 例：イサカシテ テニ
ャン。（喧嘩して手におえない。）

こ

こうがん（鞆丸） キンタマ [kintama] [k1] 例：キンタマオ ウツト イーチャ。（金玉
を打つと痛い。）

こうじ（麴） コージ [ko:ɕi] [k0] 例：コージッテ ジャーシテ ツクンナ。（麴ってど
うやってつくるの？）

こうもん（肛門） コーモン [ko:mon] [h0] 例：コーモンガ カイ。（肛門がかゆい。）

こえ（声） コエ [koe] [k1] 例：コエガ ニル。（声が似る。）

こおり（氷） シミ [cimi ~ θimi] [k1] 例：シミガ トケタ。（氷が溶けた。）

こおる（凍る） シミル [cimɪru ~ cimiru] [k1] 例：ミチガ シミチョッテ スペッサカ
イ ヨージン セーヤ。（道が氷っていて滑るから、用心しろよ。）／ツケモンガ シミル。
（漬物が凍る。）／シミタ。（凍った。）／アッコモ ココモ シミチョル。（あそこもここも
凍っている。）／シミッゾ。（凍るよ。）

こおろぎ（蟋蟀） コーロギ [ko:roŋgi] [k1]、コーロメ [ko:rome]

こがたな（小刀） コガタナ [koŋatana] [h0] 例：コノ コガタナワ アンマリ キレン
ニャー。（この小刀はあまり切れない。）

ここ ココ [koko] [k0] 例：ココ ドコナ。（ここはどこか。）

ごご（午後） ヒンマカラ [çimmakara] [h0]

こごえる（凍える） カンジル [kanziru] [k0]、ガンジル [ganziru]

ここのつ（九つ） ココノツ [kokonotsu] [h2]

ごごみ クグミ [kuŋgumi] [k1] 【備考：報恩講に使う山菜（ぜんまい、わらび、ふき、う
ど、ごごみ）の中の一つ。塩漬けにする。ヤブソテツ。】

ござ（蓐蓐） ゴザ [goza] [k1] 例：ギラ ゴザオ アンダ コトガ アル。（私はゴザを
編んだことがある。）

こさく（小作） ジナゴ [ɕinaŋo] [h0, k0]

ござぼうし（蓐蓐ぼうし） ゴザボシ [gozaboci] [h0, k0] 例：アメガ フルシ ゴザボ
シ キー。（雨が降るから蓐蓐ぼうしを着なさい。）

こし（腰） コシ [koci] [k0] 例：コシガ イーチャ。（腰が痛い。）

こずえ（梢） シバ [θiba ~ eiba] [h0]、キーノトンボ [kɪno tombo]、キーノアタ
マ [kɪno atama] 例：シバエ トリガ トマッチョル。（梢に鳥がとまっている。）／キー
ノアタマエ トリガ トマッチョル。（木の先端（梢）に鳥がとまっている。）

ごぜん（午前） ヒンママエ [çimmamae] [h4]

ことし（今年） コトシ [kotoci] k0 例：コトシワ デカイコト ジェンガ ハイリャ
エーニャ。（今年はたくさんお金が入るといいな。）

ことば（言葉） コトバ [kotoba] k1

こども（子供） シナ [nna] h0 、コ [ko] 例：シナサマワ ゲンキデ ゴザルカ。
（お子さんは元気でいらっしゃいますか。）／コガ デキタ。（子供ができた。）【備考：特に、
末っ子のことをシナやシナボーと言う。】

ごにん（五人） ゴニン [gonin] k0

ごはん（ご飯） ママ [mama] h0 例：ヤー ハラ ヘッタヤー。 ママ クオーカ。
（いやー、お腹すいたなあ。ごはん食べようか。）

ごはん・ほとけさまにそなえるごはん（ご飯・仏様に供えるご飯） オボキサマ
[obokisama] h0 【備考：お寺の御本尊の前に毎朝（自分たちが食べる前に）供えていた
米だけの御飯（シロママ）。人々が麦や稗入りの御飯を食べていた時代でも米だけの御飯を供
えていた。】

こぶし タブシカ [tabucika]

こぶし（拳） コブシ [kobuci] k0 、ニギリコブシ [nijirikobuci] h4 例：コブシ
デ ウッタラ コブシ イタメタ。（拳で打ったら拳を痛めた。）

ごぼう（牛蒡） ゴンボ [gombo] h0 例：ウサギニワ ゴンボ クマノ ニクニワ ア
ザミ。（兎（の肉）にはごぼう、熊の肉にはあざみ（がよい）。）／ウサギジルニ ゴンボ イ
レット シマイヤ。（兎汁にごぼうを入れるとおいしいよ。）

ごま（胡麻） ゴマ [goma] h0

こめ（米） コメ [kome] k1 例：コメノ ママワ シマイ。（米の飯はうまい。）／シロ
ママ クイチャ。（米だけのご飯を食べたい。）【備考：白峰は田んぼが少なく米が貴重だった。
白米はまず仏様に供え、病人がいる場合は病人に食べさせていた。】

こめいれ（米入れ） ハンマイバコ [hammaibako] h5 、コメビツ [komebitsu] h0

こめだけのごはん（米だけのご飯） シロゴハン [ciroŋohan] h0 、シロママ [eiromama]
h0 例：キョーワ マツリヤシ シロママ ニテ クオーカ。（今日は祭りだし、シロママを
炊いて食べようか。）

こめぬか（米糠） コンカ [konka] k0 例：コンカガ タマッテ テニャン。（米ぬかが
たまって困る。）

こよみ（暦） コヨミ [kojomi]、ヒメクリ [çimekurɪ] h0 例：ムカシノ コヨミノ ホ
ーガ ヨイニャー。（昔の暦のほうがいいな。）【備考：ヒメクリは富山の薬屋が持ってきた。】

ごり（鮎） イシブシ [icibuci]、ゴリ [gori] h0 、ゴッチョブシ [gottcobuci] h3
【備考：最近はいなくなった。軽く焼いたり、ネギと煮たりして食べた。】

これ コイ [koi] h0 例：コイ ナンナ。（これ、なに。）

さ

さいづち（才槌） シャーズチ [ca:dðutei ~ ca:zu:tei] [k0, h0] 、シャズチ [cazu:tei] 例：
クイ ウツヤサカイ シャーズチ モッテ コイ。（杭を打つのだから、小槌を持って来い。）

【備考：小さな槌。小槌・手槌にあたるもの。小さな杭を打つのに使う。】

さお（竿） サオ [sao] [k1] 例：コノ サオワ ギラ ツクッタ。（この竿は自分で作った。）

さか（坂） サカ [saka] [k1] 例：コノ サカ アガルワ コワイゾ。（この坂を上るのはきついよ。）

さかな（魚） サカナ [θakana] [k0]

さかながあつまるところ（魚が集まるところ） フチ [ɸutei] [h0] 【備考：流れが緩いところ。】

さかなのかくれば（魚の隠れ場） ジョー [dzo: ~ zo:] [h0] 例：イオメガ イシナノ ジョーエ ハイッタ。（岩魚が石のかげのかくれ場に入った。）／ジョー ハイッチョル。（魚が隠れ場に入っている。）／ジョーニ ハイットッテ デテコナンダ。（魚が隠れていて出てこなかった。）【備考：イオメ（岩魚）の隠れるところ。】

さけ（酒） サケ [sake] [k0] 例：ジゲニワ ドエライ サケノミガ デカイコト オッチャ。（白峰にはすごい酒飲みがたくさんいるよ。）

ざしき（座敷） ザシキ [ðaeiki ~ dzaeiki] [k1] 例：ザシキデ アスンジョッテ。（座敷で遊んでいて。）

さつまいも（甘藷） サツマイモ [θatsumaimo ~ θatθumaimo] [h0] 例：サツマイモ ウエヨカ。（さつまいもを植えようか。）

さといも（里芋） ズイキイモ [dzuikiimo ~ dðuik'i:mo] [k0] 例：ズイキイモミタイニナル。（里芋のようになる（親子が一緒になる）。）【備考：親芋の横に子芋がつき、両方が食べられることから、こう言われる。】／ズイキイモ ツクッテ ホンコサマノ シルニ ショー。（里芋を作って報恩講の汁にしよう。）【備考：報恩講の際の汁は、たいてい蕪の汁。蕪と里芋となめこを入れた汁をたくさん作る。】

さとう（砂糖） サト [sato] [h0] 、アカザト [akadzato] [h0] 例：モチ クーニ サトガ ホーシニャー。（餅を食べるのに砂糖が欲しいなあ。）／モチ クーヨリ サト ヨケクチョッチャナイコ。（餅を食べるより砂糖をたくさん食べているんじゃないか。）／ジゲワ サトーッテ ユート ムカシワ アカザト ヤッタ。（白峰は砂糖というとは昔は赤砂糖だった。）／ギララ クタ サトワ アカザト ヤッタ。（私たちが食べた砂糖は赤砂糖だった。）

さとうきび（砂糖黍） サトーキビ [sato:kibi] [h2] 例：ジゲデ ヒトヤケダケ サトーキビオ ツクッチョッタ。（白峰で一軒だけさとうきびを作っていた。）

さなぎ（蛹） ヒョーロー [ço:ro:] [k1] 、ヒョーロ [ço:ro]

さなぎのふたつあるまゆ（蛹の二つある繭） タママユ [tamamaju] [h0] 、ワタマユ [watamaju] 例：ワタマユデ ワタブシ ツクル。（ワタマユでワタブシ（防寒具）を作

る。)【備考：これでワタブシを作るほか、布団にも使った。】

さばく（魚をさばく） ジョール [dzo:ru] [k1] 例：ダイカ コノ イワナ ジョーッテ
クレンコ。(誰かこのイワナをさばいてくれないか。)

さむい（寒い） サービ [sa:bi] 例：サーブカッタ。[h4] (寒かった。) / ヤー サーブ。
(ああ、寒い。) / サーブ ナッタ。[h0] (寒くなった。) / アシタ マエツト サーブ ナッ
チャロコ。(明日もっと寒くなるんだろうか。)

さら（皿） サラ [sara] [k0] 例：ヤートロー サラ ワッタノワ ダレヤ。(おっと、皿
を割ったのは誰だ。) / ヤットロー サラガ ワレチョル。ダレヤ。(おっと、皿が割れてい
る。誰だ。)

さらいねん（再来年） サライネン [sarainen] [h2] 例：サライネンワ ニネン アト ヤ
ニャー。(再来年は二年後だなあ。)

さらしぬの（晒布） サラシヌノ [saracinuno] [k4] 【備考：さらし布。2月に行う。】

ざる（箒） ザル [zaru~ðaru] [k1] 例：ザルデ ミズオ キッチャ。(ザルで水を切るよ。)

さんかんぶ（山間部） ヤマ [jama] [k1] 、ヤマチ [jamatci] [h0] 例：ヤマニ ウチ
アリ シラミネニモ ウチ アル。(山間部に家があり、白峰本村にも家がある。) / ウチニ
ワ ヤマチガ アル。(うちには山がある。) / ヤマイリ。(出作りに行くこと。) / キョーワ
ヤマイリヤ。(今日から出作りへ行く。)

さんさいとり（山菜採り） ハゲミ [hagemi~hagemi] [k1] 、ハゲミトリ [hagemitorji]
例：ハゲミニ イコ。(山菜採りに行こう。)【備考：春と秋に行う。秋はきのこなどをとる。
春はぜんまい、うど、ふき、あざみ、わさびなどをとる。あざみは根以外は全部食べる。春
はいろいろある。】

さんにん（三人） サンニン [sappin] [h0]

し

しあさって（明々後日） シアサッテ [eiasatte] [h2] 例：シアサッテカラ マゴガ ク
ツチャト。(明々後日から孫がくるらしい。)

しいたけ（椎茸） シータケ [ei:take] [k1]

しお（塩） シオ [oio~oiwo~cio] [k1] 例：ナンモナイシ ママニ シオ カケテ クエ
ヨ。(何もないしご飯に塩かけて食べよ。)

しお（潮） シオ [cio] 例：コレカラ シオガ ヒクニャー。(これから潮が引くなあ。)

しおからい（塩辛い） クドイ [kudoi] [k1] 、シオクドイ [oiokudoi] [h2] 例：ホン
デ クドイヤ。(とても塩辛いなあ。) / キョーノ ニシメ チョット シオクドイヤナイコ。
(今日の煮しめちょっと塩からいんじゃないか。)

しきもの（敷物・客が来た時にいろいろのオノコジロに敷く） ヘットリ [hettori] 例：
ヘットリ モッテ キテ シケマ。(敷物を持って来て、敷け。)【備考：敷物。客が来たとき
にオノコジロに敷く。】

しこくびえ（四国稗） カマシ [kamaɕi] [h0] 例：カマシイリコ。（四国稗の粉。またはそれを煎ったものをお湯でといたもの。）

しごと（仕事） シゴト [ɕiɲoto] [k0] 例：アリヤ ナンノ シゴト シチョンナ。（あの人はなんの仕事をしているのか。）

じしん（地震） ジシン [ɕɕiɕin] [k0] 例：キンノ ジシンガ アッタニャ。（昨日地震があったね。）

した（下） シタ [ɕita] [k0] 例：カバンワ イスノ シタニ オクト ヨイ。（かばんは椅子の下に置くとよい。）

した（舌） シタ [ɕita] [k1] 例：シタ カンダ。（舌をかんだ。）

じなん（次男） オジ [ozi] [k0] 例：オジワ オーサカ イッタヤ。（次男は大阪に行った。）

【備考：三男以降はコッパオジ。】

じぬし（地主） オヤッサマ [oja00ama] [k1] 、ジヌシ [ɕzinuɕi~ɕzinuɕi] [k1] 例：ココン シュハ オヤッサマヤ。（ここの人は地主だ。）／オヤッサマ シテ クレンコ。（お金を貸してくれないか。）

しば（柴） シバ [ɕiba] [k0] 、ホイ [hoi] [k1] 例：アソコワ タイヘンナ シバワラデ アルキニクテ テナン。（あそこはひどい柴原で、歩きようがない。）／アソコワ ドエライ シバワラヤゾヤ。（あそこはひどい柴原だよ。）

しばをたばねたもの（柴を束ねたもの） ホイ [hoi] [k1] 【備考：組み合わせて土壁の土台にもした。】

しま（島） シマ [ɕima] [k1] 例：シマガ メール。（島が見える。）

じめん（地面） ジメン [ɕzimen] [k1] 例：アノ ヒトワ ジメンオ ホッチョル。（あの人は地面を掘っている。）

しも（下・地形） ウラ [ura] [k1] 、シモノホー [ɕimonoho:]、シモ [ɕimo] [k0] 例：ワレ オク ムイテ イケヨ。ギラ ウラカラ アガッテ クッサカイ。（お前、山の方を向いて行けよ。私は下から上がって来るから。）／シモノ ヒト。（下の人。）【備考：下の方。金沢や鶴来もさす。】

じもと・しらみね（地元・白峰） ジゲ [ɕiɲe] [k1] 例：ジゲエ モドッテコイヨ。（地元へ戻ってこいよ。）

しもやけ（霜焼け） シモヤケ [ɕimojake] [h0]

じゃがいも（じゃが芋） カッツキ [katt0uɕi] [h0] 例：カッツキ ウエヨカ。（じゃが芋を植えようか。）

しゃみせん（三味線） シャミセン [ɕamisen] [h0] 例：ギラ シャミセン ナロータ コトガ アル。（私は三味線を習ったことがある。）

しゃもじ（杓文字） シャモジ [ɕamozi] [k1, h0] 、シャクシ [ɕakuɕi] [h0] 例：シャモジグライナラ ギラモ ツクレルニャ。（しゃもじくらいなら自分でも作れそうだ。）

じゅうにん (十人) ジューニン [dʒuːnin]

じゅうのう (十能) センパ [θempa] [h0]、センバ [semba]、ケッテン [ketten] 例：センパ モッテコイ。(炬燵に火を移すために) センパを持って来い。) / ジロバタエ センパ オイチャール。(いろりばたに十能が置いてある。)【備考：いろりの炭を炬燵などに移すのに使う。古いスコップの柄を切ってセンパとして使ったりもした。わざわざ鍛冶屋で作らせる人もいた。ケッテンは、手のひらほどの大きさでいろりの灰をならすのに使う。】

しょうじ (障子) ショージ [soːzi] [k0]

しょうじど (障子戸) セド [θedo ~ cedo] [k1] 【備考：玄関以外で、家の中で外と接しているところ。】

じょうぞくまえのかいこ (上簇前の蚕) ハイコ [haiko] [k1] 例：コイデ ハイコニ ナッデ イソガシ ナルゾ。(これでハイコになるから忙しくなるぞ。) / ハイコザイチ。(家中が蚕だらけの状態。)

しょくじ (食事) ママ [mama] [h0]

しょじょゆき (処女雪) ホーヤ [hoːja] [k0] 例：ダレモ アルカンデ ホーヤヤ。(誰も歩いていなくて、処女雪だ。) / キョーワ ホーヤニ ナットッタ。(今日は処女雪になっていた。) / ホーヤヤサカイニ オチコム。(処女雪だから足を取られる。) / キョーワ ホーヤエ ハイット フーキャサカイニ アワカンジキ カケテイカンナンニャー。(今日は処女雪に入ると深いから、アワカンジキを履いて行かないといけないなあ。)

じょせつ (除雪) イキカキ [iki kakʲi]、イッカキ [ikkaki] [h3]、イキサラエ [iki θaraɐ] [h2, k2]

じょせつぐ (除雪具) コシキ [kosiki ~ koθikʲi ~ kocikʲi ~ koθʲikʲi] [h0, h2]、スコップ [sukoppa] [h2]、スコ [suko] [k1] 例：コシキガ ナケリヤ カシテ ヤロコ。(コシキがなければ貸してやろうか。) / ツレアイゴシキ。(杖のかわりについて使うコシキ。) / スコデ ミチ サラエル。(スコで道の除雪をする。)【備考：コシキの材料としてはブナが適している。】

じょせつする (除雪する) サラエル [saraeru] [k0]、ミチフミ スル [miteiɸumisuru]、イキ オロス [iki orosu]、イキ カク [iki kakʲu]、イキ サラエル [iki θaraeru] 例：スコデ ミチ サラエル。(スコで道の除雪をする。) / デカイコト フッタサカイニ ミチフミ センナンゾ。(雪がたくさん降ったからミチフミしないといけないぞ。) / ダイブ タマッタサカイニ ハヤイコト オロサンナンゾ。(雪がだいぶ溜まったから、早く雪を下ろさないといけないぞ。) / イキ カイタ。(屋根の雪を下ろした。) / ゲンカンノ イキ サラエーヤー。(玄関の雪かきをしろよ。)

しらが (白髪) シラガ [ɕiraŋa] [k1] 例：デカイコト シラガガ ハエル ヨー ナッタナ。(たくさん白髪が生えるようになったな。)

- しらみ（虱） シラメ [ɕirame] [h0] 例：シラメガ ワイテワイ。（虱がわいたよ。）
- しらみね（白峰） ジゲ [dʒige] [k1] 例：キョーワ ジゲ イッテ コー。（今日は白峰本村に行つて来よう。）
- しり（尻） シリベタ [ɕiribeta] [k2] 例：シリベタ タタカレタ。（尻をたたかれた。）
- しる（汁） シル [ɕiru] [h0] 例：コノ シルー クドイ。（この汁は塩辛い。）／キョーノ シルワ チョット クドイヤナイコ。（今日の汁はちょっと塩辛いんじゃないか？）
- しるし（印） シルシ [ɕiruci] [k0] 例：ソコエ シルシオ ツケヨ。（そこにしるしを付けなさい。）
- しろい（白い） シロイ [ɕiroi] [k1] 例：カオガ シロイニャー。（顔が白いな。）シーロナル。[h0]（白くなる。）
- しんしつ（寝室） ネドコ [nedoko] [k1, h0] 例：ネドコ イッチョレ。（（客が来たときに子供に対して）寝間に行っている。）【備考：寝るところ。こたつがある。】
- しんせき（親戚） オヤコ [ojako] [k1]、オヤコシュー [ojakocu:] 例：アシコトワ オヤコニ ナル。（あそこの家とは親戚になる。）
- しんちくいわいのうた（新築祝いの歌） メデタ [medeta] [h0]、ドッコイショ [dokkoico]、セーレー [θe:re: ~ ɕe:re:] 【備考：メデタを最初に歌い、後々、ドッコイショを歌う。メデタのことをセーレーと言う。】
- しんちくのいえにはじめてはいること（新築の家に初めて入ること） ワタマシ [watamaci] [h0] 【備考：昔は初めてなにか（墓、家、仏壇、自動車など）を使用する場合、お祝いをした。】
- す
- す（巢） スー [su:] [k0] 例：キーノ ウエニ スーオ コシラエ Chol。（木の上に巢を作っている。）
- すいか（西瓜） スイカ [swika] [h0]
- すいば スイコ [swiko]、スイコンボ [swikombo]、スイスイゴンボ [swiswigombo] [k1+h0]
例：スイコワ アンマリ クワナンダ。（すいばはあまり食べなかった。）
- すえっこ（末っ子） ンナボ [nnabo] [h0]、ナンボ [nambo]、ネンネー [nenne:] 例：コノ コ ネンネーヤワイ。（この子は末っ子だ。）【備考：ンナボは、男の末っ子のことを言う。ネンネーは女の末っ子のことを言う。】
- すき（好き） スキ [suki] [k1] 例：ギラ ワイオ スキヤ。（私はあなたが好きだ。）
- すぎ（杉） スギノキ [sugjinoki] [k2] 例：スギノキキリ ショー。（杉の木切りをしよう。）／ムカシワ スギカワデ ヤネ フイタ。（昔は杉の皮で屋根をふいた。）
- すき（鋤・牛にひかす鋤） スキ [suki] [k0]、マンノ [manno] 例：ウシメニ スキオ ヒカセテ タオ カイタ。（牛に鋤を引かせて田を耕した。）
- すこし チョビント [teobinto] [h3]、チョコット [teokotto] [h3] 例：チョコビント サー

ビニャ。(ちょっと寒いな。)

すじ(筋) スジ [su:zi] [h0] 例: スジガ チゴーチョッタラシー。(筋をひねってしまったみたいだ。)

すす(煤) スス [susu] [h0] 例: アシコニ ススガ タカッチョルニャー。(あそこに煤がついている。)

すすき(薄) ススキ [0u0ukʲi] [k0] 、カヤ [kaja] [h0]

すずめ(雀) スズメ [su:zume] [h0] 例: スズメガ ナイチョル。(雀が鳴いている。)

すそ(裾) スソ [su:so] [k0] 例: スソ ヨゴスナ。(裾汚すな。)/スソガ サガッチョッテ メンドナ。(裾が下がっていてもない。)

すな(砂) スナ [suna] [k1] 例: スナ モッテコイヤ。(砂を持ってこい。)

すね(脛) ムコッポ [mukoppo] [k0] 例: ムコッポ ウッテ イタカッタ。(脛を打って痛かった。)/ムコッポ シンナ。(むこうずねを打ってけがをするな。)

すねあて(脛当て) ハバキ [habaki] [h0] 例: ハバキ ハケヨ。(脛当て(ハバキ)をつけろよ。)
【備考: 冬にゲートルの代わりに着用。ガマで作った。】

すべりやすい(滑りやすい) スベラコイ [suberakoi~ciberakoi] [h2] 例: キョーワ シミテ スベラコイニャー。(今日は氷って滑りやすそうだ。)/スベラコーテ。(滑りやすくて。)

すもう(相撲) スモ [sumo] [k0] 例: キョーワ スモノ ケーコ。(今日は相撲の稽古。)

【備考: 八坂神社の「放楽相撲」(ほうらくずもう)がある。】

すもも スモモ [sumomo] [h0]

すっぱい(酸っぱい) スーイ [su:i] [k1] 例: スーナル。 [h0] (酸っぱくなる。)

せ

せいねん(青年) セーネン [se:nen] [h0] 、ワーキャシュウラ [wa:kʲa cu:ra] [k1+h0]
例: セーネンダン。(青年団。)

せき(咳) セキ [seki] [k1] 、ガイキ [gaiki] [h0] 例: ガイキガ デテ モー テヤン。(咳が出てどうにもならない。)

せきれい(鶺鴒) シリフリ [ci:ɾiɸuri] [h3] 例: シリフリノ スーガ アッタ。(草を刈っていたら)せきれいの巣があった。)

せたいぬし(世帯主) ゴテー [gote:] [k1] 例: コノ ヒトガ イエノ ゴテーヤワイ。
(この人が世帯主だ。)

せたけ(背丈) タケ [take] [k1] 例: タケガ ナーギヤ。(背が高い。)

せなか(背中) セナカ [senaka] [h0] 例: セナカニ スツテクレンカ。(背中に塗ってくれないか。)

せみ(蟬) セミ [semi] [k1] 、ミンミンサマ [mimmimsama] [h0] 例: セミガ デカイコト ナイチョル。(蟬がたくさん鳴いている。)
【備考: ミンミンサマの鳴き声によって、ト

ーキビ（とうもろこし）の収穫時期などの時節を知ったという。】

ぜん（膳） オゼン [odzeŋ] h0 例：オゼン モッテ コイ。（お膳をもってこい。）／オ
ブツジャサカイ オゼン モッテ イカンナン。（お仏事だから、お膳もっていかないと。）

せんたん（先端） トンボ [tombo] h0 例：キノ トンボ。（木の先端。）【備考：木など
の先。】

ぜんまい（薇） ゼンミヤ [dʒemmja]、ゼンミヤー [dʒemmja:] h2 例：キョーワ ゼ
ンミヤーウリ ショー。（今日はぜんまい売りをしよう。）【備考：雪の季節の後、一番最初に
出る山菜の一つ。報恩講の際にも使う。】

そ

ぞうすい（雑炊） ミソシル [misociru] h3 例：ケサワ ミソシルニ モチ イレテ ク
テキタ。ンマカッタ。（今朝は雑炊に餅入れて食ってきた。うまかった。）

そうねんしゅう（壮年衆） トッサシュウ [tossaeu:] h3

ぞうり（草履） ジョーリ [dzo:ri] h0 例：ジョーリノ ハナオガ キレタ。（草履の鼻
緒が切れた。）

ぞうり・はんぶんのぞうり（草履・半分の草履） ベットメジョーリ [bettomedzo:ri]
h5、アシナカ [acinaka] h0 【備考：結び目が蛙（ベットメ）の目のように飛び出し
ている草履のこと。】

そこ ソコ [soko] 例：ソコ イクノ ダイナ。（そこに行くのはだれか。）

そこ（底） ソコ [soko] h0 例：ミズノ ソコカラ アワガ デチョル。（水の底から泡
が出ている。）

そで（袖） ソデ [sode] k0 例：ソデデ ハナ フクナ。シャーナ キタニヤ コト シ
ンナ。（袖で鼻ふく。そんなに汚いことするな。）

そてつ（蘇鉄） ソテツ [sotetθu] h0

そと（外） ソト [soto] h0 例：キョーワ ソトニ デンナ。（今日は外に出るな。）

そとがまえのと（外構えの戸） イタド [itado] h2、マクリド [makurido] 例：
イタド アケマ。（板戸を開けろ。）【備考：戸袋のある組み戸のこと。】

そば（傍） ソバ [soba] h0 例：ミセワ ヤクバノ ソバニ アルヨ。（店は役場のそば
にあるよ。）

そら（空） テン [ten] 例：テンガ アーコ ナッチョル。（空が赤くなっている。）／テ
ンガ マッサオヤ。（空が真っ青だ。）

そり（櫓） ソーレ [so:re] h0、ソーリ [so:ri]

そり（櫓・木材運搬用） テゾーレ [tedðo:re~tedðo:rɛ]、ソーレ [θo:re] h0、テゾ
リ [tezori] 例：テゾーレ ツカエ。（そりを使え。）／ソーレ ツカエ。（そりを使え。）【備
考：雪の上で木を運ぶのに使うそり。Y字の取っ手がある。】

それ ソイ [soi] h0 例：ソイワ ギラノヤ。（それは私のだ。）

た

だいく（大工） ダイク [daiku] 例：ダイクガ ハイッタニャー。（大工が入ったね。）

たいこ（太鼓） タイコ [taiko] 例：タイコ タタキナガラ オドッチョルニャー。（太鼓を叩きながら踊っているね。）

だいこん（大根） ダイコン [daikon]、ダイコ [daiko] h0 例：ダイコンタネ マク。
（大根の種を撒く。）／ナナギダイコンワ アモテ ンマイ。（焼畑で作った大根は甘くて美味い。）／ダイコノ タネマキ。（大根の種まき。）

だいどころ（台所） ナガシ [nagaɕi] k1 例：ナガシワ ドコヤ。（台所はどこだ。）

たいまつ（松明） タイマツ [taimatsu] k1 例：タイマツオ ダイジニ モッチョッタ。
（松明を大事に持っていた。）

たいよう（太陽） ヒーサマ [çi:sama] 例：ヒーサマ アガラッシャッタ。（日が上がった。）／ココワ ヒーサマ ヨー ゴザルワ。（ここは日当たりが良い。）

たか（鷹） タカ [taka] 例：タカガ ネズメオ クワエテ イッタワイ。（鷹がネズミをくわえていったよ。）

たからもの（宝物） タカラモン [takaramon]

たきぎ（薪） タキモン [takimon] h0 例：タキモンガ タランジャナイコ。（薪が足りなくなるんじゃないか。）

たくさん デカイコト [dekaikoto] 例：デカイコト サケオ ノム。（たくさん酒を飲む。）
／デカイコト モッテコイ。（たくさん持って来い。）

たけ（竹） タケ [take] k0 例：シラミネニワ タケバラワ ナイ。（白峰には竹林がない。）

たこ（蛸） タコ [tako] h0

たこ（蛸） タコ [tako] k1 例：タコワ メッタト クウンサカイネ。（タコはめったに食べないからね。）

だっこく（脱穀） ホーオトシ [ho:otoci]、ホーガチ [ho:gatɕi] h0 例：コレカラ ホーガチショー。（これから脱穀しよう。）【備考：稗や粟の穂から実を離すこと。ホートリの後、乾かしてから行う。臼に入れて杵で叩くこともあれば、箆を敷いて複数人で叩くことも。ホ（穂）を カツ（打つ）ということ。】

たつまき（竜巻） タツマキ [tatsumaki] 例：コノヘンワ タツマキガ オコランジャワイ。（この辺りは竜巻が起こらないよ。）

たてがみ タテガミ [tategami] h0

たな（棚） タナ [tana] k0 例：タナカラ ホンオ トッテクレンコ。（棚から本を取ってくれないか。）

たに（谷） タニ [tani] k1、タンニャ [tappa]、ノマ [noma] k1 例：アコノ タニ サンサイ トリニ イッテ コイ。（あそこの谷に山菜を採りに行って来い。）／アコノ

タンニャ イッテ コー。(あそこの谷に行って来よう。)

たに・みずのないたに(谷・水のない谷) ノマ [noma] [k1] 例: アコノ ノマ イッ
テ ミテ コイヨ。(あそこの(水のない)谷へ行って、見て来いよ。)

たね(種) タネ [tane] [h0] 例: タネ マイテ ナエニ ツクッテ ソイテ ウエンナ
ラン。(種をまいて、苗に作って、そして植えなければならない。)

たび(足袋) タビ [tabi] [h0] 例: タビ ハイチョルコ。ハイチョラン。(足袋はいてい
るか?はいてない。)/タビ ハケ。イマ ハイチョル。(足袋はけ。今はいてるところ。)

たべもの(食べ物) タベモノ [tabemono]、クーモン [ku:mo] [h0] 例: タベモノワ ダ
イジニ センナンゾ。(食べ物は大事にしないといけないよ。)

たべる(食べる) クー [ku:] [h0] 例: コイ クテ ミタケット ンマイ モンジャニャ
ー。(これ食べてみたけど、うまいもんだな。)/ココノ チーシャ コーラ ヨー クー
ニャー。(ここの子供たちはよく食べるなあ。)

たまご(卵) タマゴ [tamago] 例: アシコノ ウチワ タマゴオ ウッチョッチャゾ。
(あそこの家は卵を売っているよ。)

たましい(魂) タマシー [tamaci:]

たらい(盥) タライ [tarai] [k0] 例: タライニ ミズオ クンジョル。(たらいに水を汲
んでいる。)

だれ(誰) ダイ [dai~dai] 例: ダイト イクナ。(誰と行くのか。)/ダイナ ツリニイ
クワ。(釣りに行くのはだれか。)

たわら(俵) タワラ [tawara] [k1] 例: タワラオ モテッチャカ。(俵を持てるか。)

たんこぶ タンコブ [taŋkobu] [h0] 例: ハシラニ アタマオ ドーツケテ タンコブガ
デキタ。(柱に頭をぶつけたらたんこぶができた。)

たんぼ(田んぼ) タンボ [tambo] 例: タンボワ シタニ アル。(田んぼは下にある。)

ち

ち(血) チ [tei] [k0] 例: チガ デル。(血が出る。)

ちいさい(小さい) チーシャ [tei:ea] 例: ヤー チーサ。(ああ、小さい。)/コイワ
アイヨリ チーシャニャー。(これはあれより小さいな。)

ちから(力) チカラ [teikara] [k1] 例: カラダガ ヨワッテ チカラガ デン。(体が弱
って力が出ない。)

ちち(乳) チチ [teitei] [h0] 例: ウチノ ネーサン チチガ ヨー デル。(うちの嫁は
乳がよく出る。)

ちち(父) チャー [tea:] [k1]、トッサ [tossa~to00a] [k1] 例: チャー キタサカイ
ヨレヤ。(父親が来たから寄れ。)

ちや(茶) チャ [tea] [h0] 例: チャデモ ワカソーカ。(茶でも沸かそうか。)

ちやわん(茶碗) チャワン [teawan] [h0] 例: ワー チャワンオ オトストコ ヤッタ。

(わあ、茶碗を落とすところだった。)

ちょう(蝶) チョーチョメ [tɕo:tɕome] [k1] 例: クボメノ スーニ チョーチョメガ ヒ
ツカカッタ。(蜘蛛の巣にちょうちょがひっかかった。)

ちょうなん(長男) アニキ [apiki] 例: コトシノ フユワ アソコノ アニキワ オ
ーサカ イッタゾヤ。(今年の冬はあそこの長男は大阪に行ったよ。)

つ

つえ(杖) ツエ [tsue] [h0] 例: ツエオ ツコーテモ ギラデ アルク。(杖を使ってで
も自分で歩く。)

つかれる(疲れる) ダイナル [daiɲaru] [h0]、モノグイ [monogui] [h3] (疲れている
状態)、モノグナル [monogunaru] [h0] (疲れる状態になる)

つき(月) ツキサマ [tsukisama] [k1] 例: ツキサマ デザッシャッタ。(月が出た。)

つくし ツクシ [tukuei ~ tsukuei] [k0]、ツクシンボ [tsukueimbo] [h0] 例: ツク
シガ デチョル。(つくしが出ている。)
【備考: 山よりも里に出る。】

つけもの(漬物) クキ [kuki] [k1] 【備考: 大根や菜っ葉などの野菜の漬物の総称。山
菜は除く。】

つな(綱) ツナ [tsuna] [k1] 例: デカイ ツナオ ツ克蘭ナンヤト。(大きな綱を作ら
ないといけないんだって。)

つの(角) ツノ [tθuno ~ tsuno] [k1] 例: ウシノ ツノ。(牛の角。)/デーカイ ツノ
シチョッタゾヤ。(〈あの鹿は〉大きな角をしていたぞ。)/ウシメニワ ツノガ アル。(牛
には角がある。)

つば(唾) ツバケ [tsubake] [h0] 例: ツバキョー トバスナ。(つばを飛ばすな。)

つぶ(粒) ツブ [tsubu] [h0]

つぼ(壺) ツボ [tsubo] [h0, k0] 例: コノ ツボ ヨッポド タカイヤロニャー。(この
壺は相当高いだろうなあ。)

つま(妻) オッカ [okka]、イネ [ine] 【備考: オッカは呼びかけに使えるが、イネは呼び
かけに使えない。】

つむじ(旋毛) ボー [bo:] [k1] 例: ボーガ イクツモ アット ワーリ コニ ナッチ
ャーゾ。(つむじがいくつもあると、悪い子になるぞ。)

つめ(爪) ツメ [tsume] [k0] 例: ヨル ツメ キルト オヤノ シニメニ アエン。(夜
つめを切ると親の死に目に会えない。)

つめたい(冷たい) ツペーチャ [ʔpe:tea]、ツペチャ [ʔpetɕa] [h2] 例: ツペトテ。(冷
たくて。)/ツペータカッタ。[h2] (冷たかった。)/ヤー ツペータ。[h2] (ああ、冷たい。)
/ツペートナイ。(冷たくない。)[h0] /ツペートナル。[h0] (冷たくなる。)
【備考: [ʔp] で
始まる語はこれのみ。アクセント記号 [h2] は [ʔpe':tea] [ʔpe'tea]。ツベチャ [tsbetɕa] [k1] と
も】

つゆ（露） ツユ [tsujɯ] [h0] 例：ツユガ オリチョル。（露が下りている。）

つらら（氷柱） ガマダレ [gamadare] [h0] 例：ガマダレガ サガッタ。（つららができた。）／ガマダレガ サガッチョル。（つららが下がっている。）

て

て（手） テー [te:] [h0] 例：テー ツナグ。（手をつなぐ。）

でづくり（出作り） デズクリ [dedɯkuri~dezukuri~dezuwuri] [h0] 【備考：夏の間、山の家で過ごして食物を作ること。】

でづくりからかえること（出作りから帰ること） ジャーマ [za:ma~dza:ma] [h0] 、
ジャマ [dzama] 例：Xノ シャー キョー ジャーマ シッチャト。（Xの人達は、今日、
出山するんだって。）／ギラ キョー ジャマシタヤ。（私は今日、出作りを終えたよ。）

でづくりへいくこと（出作りへ行くこと） ヤマイリ [jamairi~jamairi] [k0] 例：キ
ョー Xノ シャー ヤマイリ シタヤト。（今日、Xの人達が、入山したんだって。）／キ
ョーワ ヤマイリヤ。（今日から出作りへ行く。）

てっぺん テッペン [teppen] 例：キョーワ テンキガ ヨイサカイ ヤマノ テッペン
マデ ヨー ミエルワ。（今日は天気がいいから山のとっぺんまでよく見える。）

てぬぐい（手ぬぐい） テノゴイ [tenogoi] [h0] 例：カオ フク テノゴイ ドコ ヤ
ッタ。（顔をふく手ぬぐいどこにやった？）

てのひら（手の平） テノヘラ [tenohera] [h3]

てんじょう（天井） テンジョー [tendzo:] [h0] 例：ココワ ナンチュー テンジョーガ
タカイニャー。（ここは天井がすごく高いね。）／コノ ウチワ テンジョーガ タカイニャ
ー。（この家は天井がすごく高いね。）

てんぷら（天ぷら） アブラゲ [aburage] [h0] 、テンプラ [tempura] [h0] 例：ジゲ
ノ アブラゲ ンマイヤ。（白峰の天ぷらはうまいよ。）／ナンノ テンプラ シンナ。カッ
ツキノ テンプラ シッチャ。（何の天ぷらをするのか？ジャガイモの天ぷらをするよ。）

と

と（戸） ト [to] [k0] 例：トーガ ハズレチョル。（戸がはずれている。）／オビド。（台
所の奥のほうにある六尺ほどの幅の広い戸。）

どう ジャー [dza:] [h0] 例：ジャー シタラ ヨイナ。（どうしたらいいの。）

とうがらし（唐辛子） ナンバ [namba] [k1] 例：チーサイ コラ ナンバ クワン。（小
さい子供達はとうがらしを食べない。）

どうくつ（洞窟） マンボ [mampo] 例：アシコノ ヤマニ イッタラ マンボガ アッ
テワイ。（あそこの山に行ったら洞窟があったよ。）

とうげ（峠） トーゲ [to:ge] [k1] 、トーギヤ [to:ɲa] [1] 、トーニャ [to:ɲa] 例：
ゴマンドトーゲ コシテ イコー。（ゴマンド峠を越して行こう。）／トーゲニワ タイガイ
ジゾーサン アッタ。（峠にはたいてい地藏さんがあった。）【備考：タニトーゲやゴマンドト

ーゲなどがある。タニトーゲには、白峰から一体、福井から一体持ってこられたユーナイジゾー（「言ってはいけない」の意）という地蔵が置かれていた（現在は山から下ろしてきている）。この地蔵にまつわる民話がある。】

とうふ（豆腐） トッポ [toppo] 例：トッポワ ショーガツダケワ イエデ ツクッチョル。（豆腐は正月だけは家で作っている。）【備考：豆腐は正月だけ家で作り、あとは買ってきた。】

どうぶつ（動物） ドーブツ [do·butθu] [k0] 、ケモノ [kemono] [k0] 、チクショー [teikuso:]

とうみ（唐箕） トーミ [to:mi] [h2]

とお（十） トー [to:] [k1]

とおあさ（遠浅） トーアサ [to:asa] 例：ココワ トーアサヤニャー。（ここは遠浅だなあ。）

とかげ（蜥蜴） トカクメ [tokakume] [k0]

とがったもの（尖ったもの） トンボ [tombo] [h0] 、トンガリ [tonnari] [h0]

とき（時） トキ [toki] [k1] 、オリ [ori] [k1] 、ホリ [hori] [k1] 例：アノ トキワ タイフーガ ツヨカッタ。（あの時は台風が強かった。）

どくだみ ドクナメ [doku name ~ doku name ~ doku name] [h0] 例：ココ ドエライ ドクナメワラヤゾイ。（ここは、すごくたくさんドクダミが生えたところだぞ。）

とげ（棘） トゲ [toŋe] [k0] 例：トゲガ ササッタ。（とげが刺さった。）

どこ ドコ [doko] [h0] 例：ダイト ドコ イクナ。（誰とどこに行くのか。）

とさか（鶏冠） トサカ [tosaka] [k0] 例：コノ ニワトリノ トサカワ ケッコナニャー。（この鶏の鶏冠は立派だね。）

とし（年） トシ [toci] [k1] 例：アノ トシワ デカイコト トレタ。（あの年は大量に採れた。）

とち（栃） トチノキ [toteinoki] [k2, k4] 例：トチモチ ツイテ クオー。（栃餅をついて食べよう。）【備考：春になると白い花が咲く。正月にはよく栃餅を作って食べた。】

とちのみ（栃の実） トチ [totei] [k0] 例：トチヒロイニ イッテ コイ。（栃（の実）拾いに行つてこい。）／トチガ ナッチョルワイ。（栃の実がなっているよ。）

となり（隣） トナリ [tonari] [k0] 例：ヤクバノ トナリニ ユービンキョクガ アルヨ。（役場のとなりに郵便局があるよ。）

ともだち（友達） ツレシュー [tsurecu:] [h0] 、ツレ [tsure] [h0]

とり（鳥） トリメ [torime] [k0] 例：トリメガ トンジョル。（鳥が飛んでいる。）

どれ ドイ [doi] [k0] 例：ドイナ。（どれか。）／ギラノ ツッタ サカナワ ドイナ。（私が釣った魚はどれか。）

とんぼ（蜻蛉） ドンボメ [dombome] [h0] 例：ドンボメガ トンジョル。（蜻蛉が飛んで

いる。)

な

な(菜) ナー [naː ~ na:] [k0] 例: ナー ツクッチョル。(菜を作っている。) / ナー
ル。(菜の汁。)

ない(無い) ナイ [nai] [h0] 例: ココニワ クサガ ナイヤ。(ここには草がない。) /
ノーテ。 [k1] (なくて。)、ナシニナル。 [h0] (なくなる)【備考:「なるなる」の意味でノー
ナルは用いない。】

なえ(苗) ナエ [nae] [h0] 例: タネ マイテ ナエニ ツクッテ ソイテ ウエンナラ
ン。(種をまいて、苗に作って、そして植えなければならない。)

なか(中) ナカ [naka] [0] 例: ドークツワ アブナイ トコヤサカイ ナカニ ハイ
ナ。(洞窟は危ないところだから、中に入るな。)

ながし(流し) ミンジャ [mipdza] [0] 例: ミンジャミチ。(山から引いてきた水道。)

なし(梨) ナシ [naci] [1] 例: ナシ ムイテ クオカ。(梨をむいて食べようか。)

なぜ ナンデ [nande] [h0] 例: ナンデナ。(なぜか。) / ナンデ ギャーナ コト シタナ。
(なんでこんなことしたのか。) / ナンデ コノ サカナ クエンナ。(なぜこの魚は食べら
れないのか。)

なた(鉦) ナタ [nata] [k0] ナタデ タキモンオ ツクル。(なたで薪を作る。)

なだれ(雪崩) ナダレ [nadare ~ naðare] [k1] 、トイタナダレ [toitanadare] [h0+k1]
例: キョーワ ヌクトイサカイニ ナダレガ デルモシランデ ヨージン シェーヤ。アム
ニャーゾ。(今日は暖かいから、全層雪崩が起こるかもしれないから、用心しろよ。危ない
ぞ。) / トイタナダレガ デッサカイ ヨージン セー。(トイタナダレ(春先の大規模な雪
崩)が起きるから用心しろ。)

なだれ(雪崩・表層雪崩) アワ [awa] [k1] 例: キョーワ アワガ デルサカイニ キ
ー ツケンナンゾ。(今日は表層雪崩が起こるから気をつけないといけなぞ。)

なだれのたまったところ(雪崩のたまったところ) ナダレクソ [nadarekuθo ~
nadarekuuso ~ nadarekuso] [h4] 例: アコ イクト ナダレクソガ アッテ カワガ ワタ
レル。(あそこに行くと雪崩が起きて雪がたまったものがあって、川が渡れる。) / ナダレク
ソガ アルニャー。(ナダレクソがあるなあ。) / ナダレクソ バッカヤッタ。(ナダレクソば
っかりだった。)

なつ(夏) ナツ [natsu] [k1] 例: コトシノ ナツモ ハクサンマツリニ ジョーニャー。
(今年の夏も白山祭りにでる。)

ななつ(七つ) ナナツ [nanatsu] [k1]

ななにん(七人) シチニン [citeipin] [k1]

なに ナニ [napi] [h0] 例: ナニ カイニ イクナ。(なにを買いに行くの。) / コラ ナン
ナ。(これは何か。)

なべ（鍋） ナーベ [na:be] [h0] 例：ナーベニ オーギレジルオ ニテアルサカイ クエヨ。（鍋にお一ぎれ汁（豆腐とみそだけで作る汁）が煮てあるから食べろよ。）

なまえ（名前） ナマエ [namae] [k0]

なみ（波） ナミ [nami] [k1] 例：キョーワ ナミガ ターキャニャー。（今日は波が高いな。）

なみだ（涙） ナミダ [namida] [k1] 例：ナミダガ デル。（涙が出る。）

なめこ ススイ [suisui~suisui] [h0] 、ナメコ [nameko] [k1] 【備考：ススイが天然のなめこを指すのに対し、ナメコは栽培用のなめこを指す。】

なや（納屋） コゴヤ [kogoja] [h0] 例：ナツワ フカグツワ イランデ コゴヤニ オイトクワ。（夏は雪靴はいらないから納屋に置いておくよ。）【備考：特に出作りの際の納屋を言う。作業場でもあった。】

なら（檜） ナラノキ [naranoki] [k0]

なわ（縄） ナワ [nawa] [k1] 例：ナワオ ノウ。（縄をなう。）／ニーナワ。（荷物を担ぐ縄。）

に

に（荷） ニー [pi:] [h0] 例：ソノ ニオ ギラ モッテ ヤロコ。（その荷物、私が持ちましょうか。）

におい（匂い） ニョーイ [po:i] [k0] 、カザ [kaza] [k0] 例：ナンチュー キタニャ ニョーイガ シンナ。（なんてくさいにおいがするんだ。）／ヤー キタニャ ニョーイガ シッチャ。ナンノ ニョーイナ。ジャンカ セーヨ。（おい、くさいにおいがするぞ、なんのにおいか。なんとかしろよ。）／ヨイ カザガ スル。（いい匂いがする。）【備考：カザは、いい匂いも悪い匂いも言う。】

にがい（苦い） ニーギヤ [pi:ŋja] [k1] 例：ニーガ Катタ。[h4]（にがかった。）／ニーゴナル。[h0]（にがくなる。）

にく（肉） ニク [piku] [k1] 例：コレワ ナンノ ニクナ。（これは何の肉？）／ウサギノ ニクジャ。（うさぎの肉だよ。）【備考：冬はカモシカやウサギを食べた。】

にし（西） ニシ [pici] [k0]

にじ（虹） ニジ [pizi] [k1] 例：ニジガ デタゾ。（虹が出たよ。）

にしん（鰯） ニシン [picin]、ニッシン [piccin] [k1] 例：ニッシンズケ。（にしん漬け。）／フユニ ナルト ダイコト ニッシント ツケテ フユノ サカナニ ソレ タベル。（冬になると、大根とニシンを漬けて、冬の肴にそれを食べる。）

によう（尿） ションベン [comben] [0] 例：ヤー ションベン シータ。（ああ、おしっこがしたい。）

にら（菰） ニラ [pira] [k1] 【備考：山の菰があり、それはとげがある。】

にわ（庭） ニワ [piwa] [k0] 例：マゴニ ニワオ ソージシテ モロタ。（孫に庭を掃除

してもらった。)

にわとり (鶏) ニワトリ [ɲiwatori] [k2] 例: イエニ ニワトリオ コーチョルゾ。(うちで鶏を飼っているよ。)

にんにく (大蒜) ニンニク [ɲippiku] [k1] 例: アシコノ イエ イクト ニンニククサイ。(あそこの家に行くのにんにくくさい。)/ アノ ヒトワ ニンニククサイ。(あの人はにんにくくさい。)

ぬ

ぬか (糠) ミヨーシ [mjo:ei] [k0] 、ヌカ [nuka] [k1] 例: アリヤ ミヨーシヤ。(あいつは殻だ (役立たずだ)。)

ぬかをわけるためのざる (糠を分けるための笊) ヤツメ [jatθume] 【備考: 殻を分けるのに使うざるのようなもの。】

ぬの (布) ヌノ [nuno]、ノノ [nono] [k0] 例: ヌノワ キレヤ。(布はきれだ。)

ね

ね (根) ネー [ne ~ ne:] [h0] 、ネッコ [nekkō] [k1] 例: キーノネガ クサッタ。(木の根が腐った。)

ねこ (猫) ネコメ [nekome] [h0] 、ニョコメ [ɲokome] [h0] 、ネコ [neko] [h0]
例: ネコメワ コータコトガ アル。(猫は飼ったことがある。)/ コノヘンワ ニョコメガ デカイコト オル。(この辺りは猫がたくさんいる。)/ ネコクグリ。(家の壁などに猫が通れるように開けた穴。)

ねずみ (鼠) ネズミ [nedθumi] [h0] 、ネズメ [nezume] [0] 例: マタ ネズミガ カジッチョル。(またネズミが〈家の柱などを〉齧っている。)/ チカゴロ ネズメガ フェテノー。(最近ネズミが増えてね。)

の

のこ (鋸) ノコギリ [nokogiri] [h3] 例: ワリヤー ノコギリモ ツカエンジャカ。(お前はノコギリも使えないのか。)

のはら (野原) ジャーラ [za:ra ~ dza:ra] [k0] 例: ジャーラ イッテ アソベヤ。(野原に行って遊べ。)/ ココノ ジャーラニワ ヨイ クサガ アッチャ。(ここの野原にはいい草がある。)

のみ (蚤) ノンメ [nomme] [k1] 例: ノンメニ クワレテ テニヤワン。(蚤に刺されてかなわん。)

のみ (鑿) ノミ [nomi] [h0] 例: ノミオ ツカウノワ ムツカシヤニャー。(ノミを使うのは難しい。)

は

は (歯) ハ [ha ~ ha:] [k1] 例: クチガ ニオウカラ ハー ミガケ。(口がにおうから歯を磨け。)

は(葉) ハー [haː ~ ha:] [k1] 例: キーノ ハガ オチル。(木の葉が落ちる。) / コスワ。(落ち葉。)

はい(灰) ヒヤー [ɕa:] [k0] 例: ストーブニ ヒヤーガ デカイコト タマッテ トランナンジャ。ダイカ トッテ クレンコ。(ストーブに灰がたくさんたまって、とらないといけない。誰かとってくれないか。) / ヒヤー カブッタ。(灰をかぶった。)

はえ(蠅) ビヤーメ [bja:me] [k0] 例: ビヤーメガ デカイコト オッテ テニャワンニヤー。(蠅がたくさんいてかなわん。)

はか(墓) ハカ [haka] [k1] 例: コノ ジセーデ ハカモ イエモ ツクッチャト エライニヤー。(このご時世墓も家も建てるとえらい。)

はかま(袴) ハカマ [hakama] [k1] 例: ハカマノ スソガ サガッチョッテ メンドナ。(袴のすそが下がっていてみっともない。)

はぐき(歯茎) ハギシ [haɕi:]、ハゲシ [haɕe:] [h0] 例: ハギシカラ チガ デル。(歯茎から血が出る。)

はこ(箱) ハコ [hako] [k0] 例: キーデ ハコオ ツクッジャ。(木で箱を作る。)

はさみ(鋏) ハサミ [hasami] [h0] 例: コノ ハサミワ ヨー キレルニヤー。(この鋏は切れる。)

はし(橋) ハシ [haɕi] [k1] 例: イマ ハシオ カケチョル。(今、橋をかけている。)

はし(箸) ハシ [haɕi] [h0] 例: ハシ ツカウノガ ジョーズヤニャ。(箸を使うのが上手だね。)

はしら(柱) ハシラ [haɕira] [h2] 例: キョー ハシラ タテッゾ。(今日は柱をたてるぞ。)

はたけ(畑) ハダケ [hadake] [h0] 例: ココワ ギラガ ハダケヤゾ。(ここは私の畑だぞ。)

はたけしごと(畑仕事) ハタケシゴト [hatakeɕigoto] [h4]

はたけにてきたとち(畑に適した土地) ムツシ [mutsuei] [h0]、ムツシワラ [muts0ueiwarā] 【備考: 小さい木が混じって生えている、焼畑に適したところ。】

はち(鉢) ハチ [hatei] [k1] 例: ヤートロー ダレガ ハチ ワッタナ。(おっと、誰が鉢を割ったんだ。) / ハチガ ワレテ シモタ。(鉢が割れてしまった。)

はち(蜂) バチメ [batime] [k0] 例: バチメニ ササレタ。(蜂に刺された。)

はちにん(八人) ハチニン [hacipin]

ばった バッタ [batta] [h0] 例: バッタガ デカイコト オル。(ばったがたくさんいる。)

はったいこ イリコ [iriko] [h0] 例: イリコデモ クオカ。(はったいこでも食べようか。)

はと(鳩) ハットメ [hattome] [k1] 例: コノヘンニ ハットメオ トル リョーシワ オランワイ。(このあたりに鳩をとる猟師はいないよ。)

はな(花) ハナ [hana] [k1] 例: ハナガ ヨー サイチョル。(花がよく咲いている。)

はな（鼻） ハナ [hana] [k0] 例：キニ ブツカッテ ハナガ マガッタ。（木にぶつかって鼻が曲がった。）

はなぢ（鼻血） ハナジ [hanazi] [k0] 例：ハナジガ デタ。（鼻血が出た。）

はね（羽） ハネ [hane] [k0] 例：トリノ ハネガ ジメンニ オッチョル。（鳥の羽が地面に落ちている。）

はは（母） イネ [ine] [k1] 【備考：イネは、母や妻のことを指す。「お母さん」や「妻」の項目を参照のこと。】

はま（浜） ハマ [hama] [k1] 例：ハマデ アソブ。（浜で遊ぶ。）【備考：集落の東側にある崖の下、手取川の河原の意味で用いる。】

はやい（速い） ハーヤ [ha:ja] [k1] 例：アノ ヒトワ アルクノガ テンポモナイ ハーヤ。（あの人は歩くのがとっても速い。）

はら（腹） ハラ [hara] [k1] 例：ハラガ デタナ。（腹が出たな。）

はり（針） ハリ [hari] [h0] 例：ハリニ イトオ トーセンジャ。（針に糸を通せない。）

はりしごと（針仕事） ハンデ [hande]、ハッデ [hadde] [k1]

はる（春） ハル [haru] [k1] 例：ハルワ カッツキノ タネオ ウエル。（春はじゃがいもをうえる。）

ばん（晩） バンゲ [ban̥ge] [h0] 【備考：日没後就寝までの活動時間。就寝後の非活動時間はヨサリ[josari]。今日の日中からみた本日の夜はコイベ[koibe]、昨日の夜はヨンベ[jombe]という。】

ひ

ひ（火） ヒーサマ [çi:sama] [h0] 例：ヒーサマ タケヨ。（火を起こせよ。）

ひ（日） ヒー [çi:] [k1] 例：ヒーガ ナゴ ナッテ。（日が長くなって。）

ひえ（稗） ヒエ [çie] [k0] 、ヘー [he:] 例：アラハタニ ヒエ マコカ。（一年目の焼畑に稗をまこうか。）

ひえとこめのめし（稗と米の飯） ヘーママ [he:mama] [k2,k4] 例：ヘーママワ ヤッパ ンモナイニャ。（稗入りの御飯は、やっぱり美味しくないね。）

ひえのごはん（稗のご飯） イー [i:] [k1] 、イーママ [i:mama] [k4]

ひがし（東） ヒガシ [çiŋaci] [k1] 例：ヒガシワ ドコヤヨ。（東はどっちか。）／ヒガシカゼガ フイチョルゾ。（東風が吹いているよ。）

ひかり（光） ヒカリ [çikari] 例：ヒカリガ マブシテワイ。（光がまぶしい。）

ひきがえる（蟪蛙） イモゴット [imogotto]

ひくい（低い） ヒーキ [çi:kɨ] [k1] 例：ワイ ギラヨリ セーガ ヒーキニャー。（あなたは私より背が低いね。）／ヒークナル。 [h0] （低くなる。）

ひげ（髭） ヒゲ [çiŋe] [k0] 例：ヒゲ スッテ クレ。（髭を剃ってくれ。）

ひこばえ ズワイ [ɖzuwai] [h0] 例：キーノ ズワイ。（木のひこばえ。）／キー キッタ

ラ ブワイガ デタ。(木を切ったら、ひこばえが出た。)
【備考：木を切った翌年に、切り株に出てくる若い芽。】

ひざ(膝) ヒザ [çiza] [k0]、ヘザ [heða] [k0]、ヘダ [heda] [k0] 例：ヒザガ ワ
ロテ アルケン。(膝が笑って歩けない。)

ひじ(肘) ヒジ [çizi] [k1] 例：ヒジガ マガラン。(肘が曲がらない。)

ひしゃく(柄杓) シャク [çaku] [h0]、シャクシ [çakuci] [h0] 例：シャクデ ミ
ズオ クンジョル。(柄杓で水を汲んでいる。)

ひたい(額) フチャー [ɸutea:]、フチャ [ɸutea] [h0] 例：ハシラニ フチャ カッ
テ イタカッタ。(柱に額をぶつけていたかった。)

ひだり(左) ヒダリ [çidari] [h0] 例：アソコオ ヒダリエ マーレ。(あそこを左へ曲
がれ。)/ショーバイガ ヒダリマエ ナッタ。(商売が左前になった。)

ひと(人) ヒト [çito] 例：ヒトガ ヘッタニャー。(人が減ったなあ。)

ひとつ(一つ) ヒトツ [çitotsu] [h2]

ひとり(一人) ヒトリ [çitori] [h2]

ひま(暇) ヒマ [çima] [k1] 例：ヤー ヒマナニャー。(暇だぜ。)/ナーモ シル コ
トガ ナイサカイ ヒマナニャー。(何もやることがなくて暇だぜ。)

ひまご(ひ孫) ヒコ [çiko] [k0]

ひも(紐) ヒモ [çimo] [k0] 例：ア アシコカラ ヒモガ サガッチョルケット ナン
デヤロ。(あ、あそこからひもが下がっているけどなんでだろう。)

びょうき(病気) テキナイ [tek'inai]、テケナイ [tekenai]、テケニャー [teken'ja:] [k1]、
テケニャ [teken'ja] 例：アノヒトワ テキニャーヤト。(あの人は病気だつて。)/ワレワ
テキンナルニャー。(おまえはよく病気になるなあ。)

ひる(昼) ヒリマ [çirima] [h0] 例：ヒリママデ ガンバロ。(昼までがんばろう。)

ひるめし(昼飯) ヒリ [çiri] [k1]、ヒリマノ ママ [çirimano mama] 例：ヒリ モ
ッテ キタイカ。(お昼ご飯持ってきたか?)/ヒリマノ ママガ イッチャカ ママ クタ
イカ。(昼飯がほしいか、ごはん食べたか?)/ヒリワ イエデ クーゾ。(お昼ご飯は家で
食べるよ。)

ふ

ふかい(深い) フーキヤ [ɸu:k'ja] [k1] 例：フーキヤニャー。((雪が)深いなあ。)/
フーカカッタ。[h3] (深かった。)、フーコナル。[h0] (深くなる。)

ふき(蒔) フキ [ɸuki] [k0] 例：フキワラ。(ふきがたくさん生えたところ。)/ドエラ
イ フキワラヤ。(すごくたくさん、ふきが生えたところだ。)
【備考：ある程度人がいるところでないとしえない。今は見つけるのに苦労するほど減った。報恩講(ぜんまい、わらび、
ふき、うど、こごみの5種類の山菜を使う)の際には煮しめにして椀に入れる。】

ふくらはぎ フクラハギ [ɸukurahagi] 例：フクラハギガ ツル。(ふくらはぎがつる(こ

むらがえし。)【備考:「コブラガ アガッテ イーチャニャ」(ふくらはぎがつって痛い)という表現もある。】

ふくろ(袋) フクロ [ɸukuro] [k1] 例:フクロニ イレテ ハコンダラ ラクヤガ。(袋に入れて運んだら楽だ。)

ふけ(雲脂) フケ [ɸuke] [k0]、アカ [aka] [k1] 例:フケガ オチテ テナワン。(フケが落ちてどうにもならない。)

ふし(節) フシ [ɸɕi] [k1] 例:コノ イタ フシガ アルニャー。(この板は節があるなあ。) / フシガ デカイコト アル イタワ ヤリニクイ。(節が多い板は扱いにくい。)

ぶた(豚) ブタ [ɸuta] [h0] 例:ブタワ コノヘンニワ オランワイ。(豚はこの辺りにはいない。)

ふたつ(二つ) フタツ [ɸutatsu] [h2]

ふたり(二人) フタリ [ɸutari] [h2]

ぶつだん(仏壇) ジョーダン [dzo:dan] [k0]、ジョーダンサマ [dzo:danθama] [h0]、ブッダン [ɸuddan] [k0]、オナイブツ [onaibutsu] 例:リップナ ジョーダンガ アッタゾヤ。(「あの家には」立派な仏壇があったぞ。) / アタラシー ジョーダンサマ コタヤト。(新しい仏壇を買ったんだって。)

ふで(筆) フデ [ɸude] [k0] 例:コノ フデワ ヨイ フデヤニャ。(この筆は良い筆だ。)

ふとん(布団) フトン [ɸuton] [k0] 例:フトンオ ホッショッチャ。(布団を干しているところだよ。) / フトンオ ホスヤ。(「これから」布団を干すよ。)

ふね(船) フネ [ɸune] [h0] 例:フネガ シズムヤナイコ。(船が沈むんじゃないだろうか。)

ふぶきでしかいがわるいようす(吹雪で視界が悪い様子) シラビョー [sirabio:] [h3] 例:シラビョーテ マイガ ミエナンダ。(吹雪で白くなり前が見えなかった。)

ふゆ(冬) フユ [ɸuju] [k1] 例:ソロソロ フユノ ヨイ ショーカ。(そろそろ冬の用意しようか。)

ふるい(篩) フルイ [ɸurui] [k0] 例:フルイニ カケヨ。(篩にかけよう。)

ふるい(古い) フンナ [ɸunna] [h2] 例:コノベーワ フンナニャー。(この着物は古いなあ。)【備考:フーリとは言わない。】

へ

へ(屁) ヘ [he] [h0] 例:ヘー コイタヤナイコ。(屁をこいたのではないか。)

へいち(平地) ジャーラ [dza:ra] [k0]、ヘラチ [heratei] 例:アコノ ジャーラオトーッテ イクト スギバヤシ アッタ。(あそこの平地を歩いて行くと、杉林があった。) / イヤー ケッコナ ジャーラヤニャー。(いやあ、結構な平地だなあ。)

へそ(臍) ヘソ [heso] [k0] 例:ヘソノ ゴミ トッタ。(へそのゴミをとった。)

へちま（糸瓜） ヘチマ [hɛtɕima] [h0] 例：ヘチマ クーコ クワンコ。（ヘチマを食うか食わないか。）

へび（蛇） ヘンメ [hemme] [h0]

へら ゴロギヤ [goroŋja] [h0]

へら（篋） ヘラ [hera] [h0] 例：ナンチュ ナーギヤ ヘラナ。（すごく長いヘラだね。）

へら・もくせいのへら（へら・木製のへら） ナマタ [namata]、シャクシ [ɕakɕei]

へら・もくせいのへら（へら・木製のへら・稗のご飯を混ぜる） ゴロゲヤ [goroŋɕja]、ゴロギヤ [goroŋja] [h0] 例：ヒエノ ゴハンオ ゴロゲヤデ マゼカヤス。（稗のご飯をゴロゲヤで混ぜ返す。）【備考：ゴロギヤはしゃもじの大きいようなもの。ナマタは菜を鍋で返すときに使うもので、二又に分かれている。】

へら・もくせいのへら（へら・木製のへら・二股で、菜などを混ぜる） シャクシ [ɕakɕei]

[h2] 例：シルジャクシ。（汁をよそう杓子。）／イージャクシ。（稗のご飯をよそう杓子。）

べんじょ（便所） センジャ [senza] [k1,h0]、ベンジヨ [benzo] [k1] 例：センジャワ ドコナ。（便所はどこ。）

べんとうばこ（弁当箱） メンパ [mempa] [h0] 例：メンパニ シロママ イレテアッサカイ。（弁当箱にご飯が入れてあるから。）【備考：わっぱ。まげ物のこと。】

ほ

ほ（帆） ホー [ho:] [h0] 例：ホーガ フ克蘭ジョル。（帆がふくらんでいる。）

ほ（穂） ホー [ho: ~ ho:] [0] 例：コメノ ホー デチョル。（米の穂が出ている。）

ぼう・ちいさなぼう（棒・小さな棒） ボーギリ [bo:ŋiri] [h0]、ボーギレ [bo:ŋire] [h0]、シッペ [ɕippe] [k1] 【備考：棒で打つことや、その際の棒のことをシッペと言う。】

ほうおんこう（報恩講） ホンコサマ [hoŋkosama]、ホンコサン [hoŋkosan]

ほうおんこうでだすじゅうばこにいれたりょうり（報恩講で出す重箱に入れた料理）

ヒーキモン [çi:kimɔn ~ ɕikimɔn] [h0]、ヒーキモノ [çi:kimono]、マワシジュ [mawacidzu]

ぼうかんぐ（防寒具） ワタブシ [watabɕei] [h0]、ツッポー [tsuppo:] [h0]、ドーブク [do:bukɕu] [h0]、ワタボシ [watabɕei] [h0] 例：ツッポーオ キル。（ツッポーを着る。）【備考：ワタブシは真綿でできている、座布団くらいの厚みがあるもの。ツッポーは綿入れ半纏のこと。】

ほうき（箒） ホーケ [ho:ke] [0] 例：ホーケト チリトリ モッテ イケヤ。（箒とチリトリを持っていけ。）

ほうちょう（包丁） ナガタ [naɕata] [h0] 例：コノ ナガタワ ヨー キレルニヤ。（この包丁はよく切れるね。）

ほくろ ホークロ [ho:kuɾo] [k0] 例：ホークロガ ヨー ニタ トコロニ デキルナ。（ほくろがよく似たところにある。）

ほこり（埃） ホコリ [hokori]、ホコレ [hokore] [k0] 例：ワッラ ナニ シタナ。ホコ

リガ モーチョッヅ。(お前たち何をしているんだ。埃が舞っているぞ。) / ワッラ ホコリ
ガ アッヅ。(お前たち、埃があるよ。)

ほし(星) ホッサマ [hossama] [k0] 例: ホッサマガ デカイコト ゴザル。(星がたく
さん見える。)

ほそいしば(細い柴) シッペ [cippe] [k1] 例: シッペガ デチョッテ ジャマニ ナ
ル。(山の中を歩いていて) 細い柴が出ていて、邪魔になる。)

ほととぎす オットケショー [ottokeco:] [h3] 例: オットケショーガ マタ ナイ Chol。
(ほととぎすがまた鳴いている。)
【備考: 鳴き声がアシタ オットケショーと聞こえる。「親
が子に美味しい物をとってきて食わしたら、子は、あまりに美味くて、親は自分たちだけでそ
れをいつも食べているのかと思って、親を殺したところ、親は全然美味しいものなど食べてい
なかったことが分かった。それで子は悔やんで「明日、仏しよう(経をあげて供養しよう)」
と鳴いている」という昔話がある。】

ほね(骨) ホネ [hone] [k1] 例: ホネガ オレルナ。(骨が折れるな(きりがいいこと)。)

ほをきりはなすこと(穂を切り離すこと) ホートリ [ho:tori] [h0] 例: ホートリガマ。
(穂を切り取る鎌。)
【備考: 畑で鎌で穂を切り離すこと。その後、ホーガチをする。】

ま

まいたけ(舞茸) マイコ [maiko] [k0] 例: アシコ イッテ マイコガ ナイカ イッ
テ ミテコーカ。(あそこに行って、舞茸がないか行ってみてこようか。) / マイコ トリニ
イッテ コー。(舞茸を採りに行ってこよう。)
【備考: 櫨の木、栗の木に生える。】

まえ(前) マエ [mae] [k1] 例: マエエ イケ。(前へ行け。)

まき(薪) バイタ [baita] [h0] 、タキモン [takimon~takimon~takimon] [h0] 例:
タキモンオトシ ショーカ。(タキモンオトシ(薪を山から運んでくること)をしようか。)

まき・ほそいまき(薪・細い薪) バイタ [baita]

まくら(枕) マクラ [makuura] [k1] 例: コノ マクラ ナンチュー カタイナ。(この
枕はすごく固い。)

まご(孫) マゴ [mago] [k1]

また(股) マタ [mata] [k1] 例: メロワ マタ ヒライタラ ダメヤ。(女の方は股を開
いてはだめだ。)

まつ(松) マツ [matθu] [h0] 、マツノキ [matsunoki] [h0] 例: マツノキガ カヤ
ッタ。(松の木が枯れた。) / アコ イキヤ マツバラヤ。(あそこに行けば松林だ。)

まないた(まな板) キリバ [kiriba] [h0] 例: コノ キリバ アタラシ ナッタニヤ。
(このまな板新しくなったな。)

まね(真似) マネ [mane] [k1] 例: ヒトノ マネ シンナ。(人の真似をするな。) / マ
ネシゴンベ。(真似をする人のこと。)

まめ(豆) マメ [mame] [k1] 例: マメ マク。(豆を撒く。)

まゆ（眉） マメ [mame] [h0] 例：マメマデ シロ ナッタ。（眉まで白くなった。）

まゆ（繭） マイ [mai~maj] [h0] 例：カイコサンノ マイ。（蚕の繭。）／アコン ヒトワ マイ カズイテ イッタ。（あそこの人は繭を担いで行った。）【備考：繭を作る手前はムシという。】

まゆ・なながつのおわりにできるまゆ（繭・七月の終わりにできる繭） ナツコ [nat0uko] [k1]

まゆ・ろくがつまでにできるまゆ（繭・六月までにできる繭） ハルコ [haruko] [k1]

まるい（丸い） マルコイ [marukoi] [h2]

み

み（実） ミー [mʲiː ~ mʲi:] [k0] 例：クマガ ナラノミ クチョル。（熊がナラの実を食べている。）

みかん ミカン [mʲikan] [k1] 例：ミカン ヒトツ モッテコイ。（ミカンをひとつ持って来い。）

みぎ（右） ミギ [migi] [h0] 例：ソコオ ミギエ マーレ。（そこを右へ曲がれ。）

みず（水） ミズ [mizu] [k0] 例：ミズオ クンジョケ。（水を汲んでおけ。）

みずおけ（水桶） ミズオーケ [mizuo:ke] [k0, h0] 例：ミズオーケカラ ミズガ コボレチョル。（水桶から水があふれている。）

みずがたまったところ（水が溜まったところ） イケ [ike] [k1]

みずがめ（水瓶） ミズガメ [mizugame] [h0] 例：ミズガメニ ボーフラガ ワイチョル。（水瓶にボウフラがわいている。）

みずたまり（水たまり） ミズタマリ [mizutamari] 例：ソコノ ミズタマリニ ハインナヤ。（その水たまりに入るなよ。）

みそ（味噌） ミソ [miso] [h0] 例：ア ミソ イレワスレタ。カンネン。（あ、味噌入れ忘れた。ごめんね。）／ミソ ツク。（味噌つくる。）

みぞ（溝） タンニャ [tappa] [k1] 例：タンニャオ ホレ。（溝を掘れ。）

みち（道） ミチ [mitei] [k0] 例：コノ ミチオ イカッシャレ。（この道を行きなさい。）

みちをつけるさぎょう（道をつける作業） ミチ ツケル [mitei t0ukeru]、ミチ ヒラク [mitei ɕiraku]、ミチ アケル [mitei akeru]、ミチフミ [miteiɸumi] 例：ココニ ミチ ツケヨカ。（ここに道を付けようか。）

みつつ（三つ） ミッツ [mittsu] [k1]

みつばち（蜜蜂） ミツバチ [mitsubatei]

みなと（港） ミナト [minato] [k0] 例：コッカラ ミナトマデ トーフテワイ。（ここから港まで遠い。）

みなみ（南） ミナミ [minami] [k0]

みね（峰） テッペン [teppen] 例：アノ テッペン コシテ イクワイ。（あの峰を越え

て行くよ。)

みの(蓑) ミノ [mino] [h0] 例: アメガ フッテ キタサカイ ミノオ キョーカ。(雨が降ってきたので、蓑を着ようか。)
【備考: 藁で作った。】

みみ(耳) ミミ [mimi] [k1] 例: ミミガ ッペータカッタ。(耳が冷たかった。)

みみず(蚯蚓) ネメズメ [nemezume] 例: コノ ハタケニ ネメズメガ デカイコト オッテワイ。(この畑にミミズがたくさんいるよ。)

みんな(皆) ミンナ [minna]、ンナ [nna] [k1] 例: ミンナシテ ショー。(みんなでしょう。)

む

むかし(昔) ムカシ [mukaei] [h0] 例: ムカシワ イマトワ ダイブン チガウ。(昔は今とはだいぶ違う。)

むぎ(麦) ムギ [muŋi~muji] [h0] 例: ムギワ ツクッタ コト ナイ。(麦は作ったことがない。)

むぎわら(麦わら) ムギワラ [muŋiwarā] [h0]

むこ(婿) ムコ [muko] 例: ムコドリ。(婿とり。)

むささび バンドリ [bandori] [h0]

むし(虫) ムシ [muei] 例: ムシガ マドニ ヒッツイチョル。(虫が窓についている。)

むしろ(簀) ミシロ [mieiro] [k1] 例: ミシロノ ウエニ ソナエモンヲ ナラベヨ。
(簀の上にお供え物を並べよう。)

むすめ(娘) ムスメ [musume] [k1]

むつつ(六つ) ムツツ [muttsu] [k1]

むね(胸) ムネ [mune] [k1] 例: ムネガ イーチャ。(胸が痛い。)

むら(村) ムラ [mura] [k1]

め

め(芽) メ [me] [0] 例: アシコノ キーニ クマメ アガッチョルケット アレワ ブ
ナノ メー クイニ アガッチョルツチャ。(あそこの木に熊がのぼっているけど、あれはブ
ナの芽を食いにのぼっているのだろう。)

め(目) メー [me:] [0] 例: メー モノガ ハイッタ。(目にもものが入った。)

めい(姪) メイ [mei] [k1]

めし(飯) ママ [mama] [h0] 例: ママ タク。(飯炊く。)

も

も(藻) カワナ [kawana]、モー [mo:] [k0] 例: イシニ カワナガ ハエチョル。(石
に藻が生えている。)

もうちょっと マーヘット [ma:hetto]、マイット [maitto] 例: マーヘット サケオ ツ
ゲヨ。(もうちょっと酒を注げ。)/マーヘット デカイ ナッタラ ヤマエ イケヨ。(もう

ちょっと大きくなったら山へ行けよ。)

もぐさ モンサ [monsa] [k1]

もぐら (土竜) ムクロメ [mukuruome] [h0] 例: ハタケオ ムクロメガ スイテ イッテ テニアワン。(畑をもぐらが鋤いて行って、どうしようもない。)

もち (餅) モチ [motci] [k0] 例: ウチノ マエノ ジサガ モチガ ノードニ ツマテ シニカケタヤト。(うちの前のじいさんが餅が喉に詰まって死にかけたんだって。)

もっこ モッコ [mokko] [k1] 例: モッコニ イレテ ハコボ。(もっこに入れて運ぼうよ。)

もの (物) モン [mon] 例: シャー モン カウナ。(そんなもの買うな。)

ものおき (物置) セド [sedo]、モノオキ [monooki] [h2] 例: セドノ トオ アケー。(物置の戸を開けろ。)

もみ (粃) モミ [momi] [k0]、モミガラ [momi'igara] 例: モミワ クエン。(粃は食べられない。)

もめんいと (木綿糸) カナイト [kanaito] [h0]、カナ [kana] [h0]

もも (腿) モモタ [momota] [h2]、モモタプロ [momotaburo] [h2] 例: アシノ モモタプロ ブツケテ イタインヤ。(足の腿をぶつけて痛いのだ。)

もも (桃) モモ [momo] [k0]、ヤマモモ [jamamomo] [h0] 例: モモノキガ アル。(桃の木がある。)/モモ モイデ クォー。(桃をもいで食おう。)

もよう (模様) ガラ [gara] [h0] 例: アノ ベーノ ガラワ ケッコナニャー。(あの着物の模様は綺麗だなあ。)

もん (門) モン [mon] [k1] 例: モンオ シメチョケヤ。(門を閉めろ。)

や

やぎ (山羊) ヤギ [jagi] [l] 例: コノヘンニワ ヤギモ オランワイ。(この辺にはヤギもいない。)

やきはた (焼き畑) アラハタヤキ [arahatajaki] [k4, k5]、ナギハタ [nagihata]、ナギバタ [nagibata] [k1]、ヤキバタ [jakibata] [k0, k4]

やきはた・あずきをつくるやきはた (焼き畑・小豆を作る焼き畑) アズキバタ [adōukibata] [k4] 【備考: 4年目の焼き畑。小豆を作る。ただし4年目は地面のよい所なら稗を作ることもある。】

やきはた・あたらしいやきはた (焼き畑・新しい焼き畑) アラハタ [arahata] [k0] 例: リョーボヤシ コノヘンワ ジメンガ エーサカイ アラハタ コッシェエヨーカ。(リョーボだし、この辺は地面がいいから、焼き畑をしようか。)

やきはた・あわをつくるやきはた (焼き畑・粟を作る焼き畑) アワバタ [awabata] [h3] 【備考: 2年目の焼き畑。粟を作る。】

やきはた・だいずをつくるやきはた (焼き畑・大豆を作る焼き畑) マメバタ [mamebata] [k4] 【備考: 3年目の焼き畑。大豆を作る。】

やっつ (八つ) ヤッツ [jattsu] [k1]

やねぶしん (屋根普請) ヤネブシギ [janebucigi] [h3]

やま (山) ヤマ [jama] 例: ヤマガ マッシロニ ナッテワイ。(山が真っ白になった。)

やまのいただき (山の頂) ヤマノアタマ [jama no atama] [h0+k1]、ミネ [mine ~ mine]
[k0]、オボネ [obone] 例: アッコノ ヤマノ アタママデ イッテ キタ。(あそこの山の頂上まで行って来た。)/アノ オボネ コエテ ムコーマデ イッテキタ。(あの尾根(山頂)を越えて向こうまで行って来た。)

やまのなかのたいらなところ (山の中の平らなところ) ダイラ [daira] [k0]、ジャーラ [za:ra] [k0]

やり (槍) ヤリ [jari] [k0] 例: ギラ クラデ ヤリオ ミツケタ。(私は倉で槍を見つけた。)

ゆ

ゆ (湯) ユ [ju] [h0] 例: ユー ワカシテ クレンコ。(湯わかしてくれんか?)/ユーワイチョルコ。(湯沸いているか?)

ゆい (結い) イー [i:] 例: イー シル。(結いをする。)

ゆいのう (結納) ユイノー [juino:]

ゆうがた (夕方) ユーガタ [ju:gata] [h0] 例: ユーガタニワ カエッテコイヨ。(夕方には帰ってこいよ。)

ゆうめし (夕飯) バンゲノ ママ [ban genomama ~ ban genomama]、ヨケ [joke] [k1]
例: バンゲノ ママガ イッチャカ。(夕食がいるか?)

ゆか (床) イタジキ [itaziki] [h2]

ゆき (雪) イキ [iki ~ iki ~ iki] [k1] 例: イキフリ。(雪降り。)/ゲンカンノ イキ サラエーヤー。(玄関の雪かきをしろよ。)

ゆき・すぎのきにつもったゆき (雪・杉の木に積もった雪) シチリン [citeirin] [h2]、ヒチリン [citeirin] [h2] 例: シチリンガ オッチョル。(杉の木に積もった雪が落ちている。)/ヒチリンガ カカッタ。(枝に雪が積もった。)/ヒチリンガ カカッチョル。(枝に雪が積もっている。)

ゆきぐつ (雪靴) フカグツ [ɸukaŋutθu] [h0]、カンジキ [kandziki] [k1] 例: フカグツ ハイテ アスベ。(雪靴を履いて遊べ。)/アワカンジキ。(大きな藁製の雪靴。雪が深いほど、大きなものを履く。)/キョーワ ホーヤエ ハイット フーキャサカイニ アワカンジキ カケテイカンナンニャー。(今日は処女雪に入ると深いから、アワカンジキを履いて行かないといけないなあ。)/チューカンジキ。(アワカンジキほど大きくはない雪靴。)

【備考: 雪靴は藁で作った。】

ゆきにあしをとられる (雪に足をとられる) オチコム [otekomu ~ oteikommu] [h3]、ハマル [hamaru] [k0]、モグル [moguru] 例: アシガ オチコンデ コロンデ テ

ヤランダ。(足が雪に沈んで、転んでどうしようもなかった。)／カンジキ モッテイカデ ヨー ハマッテ コロンデ テヤランダ。(カンジキを持っていかずに、よく雪に足を取られて、どうしようもなかった。)／ホーヤヤサカイニ オチコム。(処女雪だから足を取られる。) ゆきにあなをほってつくったおとしあな(雪に穴を掘って作った落とし穴) オチゴロ [ɔtciŋoro] [h0]

ゆきやけ(雪焼け) イキヤケ [ikijake ~ ikijake] [h0]

ゆきわらじ(雪わらじ) ユキワロジ [jukɪwarozi]、ユキワラジ [jukɪwarazi] [k0] 【備考：足袋の上に履く。藁で作られている。】

ゆきわらじのかかとぶぶんのあてぬの(雪わらじの踵部分の当て布) キビショアテ [kibieoate]

ゆきをふみかためること(雪を踏み固めること) ミチフミ [mitciɸumi] [k0]

ゆび(指) イビ [ibi] [k1]、ユビ [jubɪ] [k1] 例：イビサキガ キヨーヤナ。(指先が器用だな。)

ゆめ(夢) ユメ [jume] [k1] 例：コノゴロ アンマレ ユメ ミンニャ。(この頃あんまり夢を見ないな。)【備考：以前はエメと言ったかもしれない。】

よ

ようさん(養蚕) コーギヤ [ko:ŋja] [k0, h2]、ヨーザン [jo:zan]

ようさんようやねうら(養蚕用屋根裏) ヤネ [jane] [h0]、ニカイ [pikai] [h0]

ようすい(用水) ミンジャ [m'indza ~ mindza] [h0] 【備考：昔は村の半分しか水を確保できなかった。加藤藤兵衛が川から水を引いてきて確保できるようになった。】

よこ(横) ヨコ [joko] [k0] 例：ウンテン シチョッタラ ネコガ ヨコカラ キューニ トビダシテ キタ。(運転をしていたら、猫が横から急に飛び出してきた。)／イエノ ヨコ。(家の隣。)

よだれ(涎) ヨダレ [jodare] [k0] 例：ヨダレ タラシ Chol。(よだれを垂らしている。)

よつつ(四つ) ヨツツ [jottsu] [k1]

よなか(夜中) ヨナカ [jonaka] [k1] 例：チーシャ コガ ヨナカニ メー サマシテ ネラレナンド。(小さい子が夜中に目を覚まして寝られなかった。)

よにん(四人) ヨニン [jopin]、ヨッタリ [jottari]

よめ(嫁) ヨメ [jome] 例：ヨメドリ。(嫁とり。)

よもぎ(蓬) ヨモギ [jomoŋi] [h0] 例：ヨモギ トッテ コイ。(蓬を取って来い。)

よる(夜) ヨサリ [josari] [k1] 例：コノ マツリワ ヨサリカラ ハジマル。(この祭りは夜から始まる。)

よるめし(夜飯) ヨケ [joke] [k1] 例：モーチョコット シット ヨケヤゾ。(もうちょっとしたら晩御飯だよ。)【備考：「ヨケ クワッシャッタカ」(晩ご飯し上がりましたか)などは、挨拶のようにも用いられた。特に、人の家を訪問する際の挨拶として。アサイ(朝食)、

ヒリ（昼食）、ママ（食事）も同様の挨拶に使える。】

ら

らいねん（来年） ミヨーニ [mjo:ni] [h0] 例：ミヨーニワ ヨイ トシナラ エーガニ
ャー。（来年はよい年ならいいなあ。）

り

りくち（陸地） リク [ɾikɯ] [k1] 例：リクガ ミエタゾ。（陸が見えたぞ。）

りゅうせつこう（流雪溝） ミンジャ [mindza] [h0]

りょうり（料理） リョーリ [ɾjo:ri] [k1] 例：イエノ カーチャン リョーリガ ジョー
ズヤサカイ ナニ ツクテモ ンマイヤ。（家の妻は料理が上手だから、何を作ってもうま
い。）

りょうりする（料理する） リョール [ɾjo:ru]、ジョール [dzo:ru] [k1] 例：ウサギ リ
ョーッテ クレ。（うさぎを料理してくれ。）／ウサギオ ジョール。（うさぎを料理する。）

ろ

ろくにん（六人） ロクニン [rokupin] [h2]

わ

わきのした（脇の下） ワキノシタ [wakinocita] [h4] 例：ワキノシタガ カイ。（脇の
下がかゆい。）

わざ（技） ワザ [waza ~ waða] [k1] 例：スゴイ ワザヤ。（すごい技だ。）

わたし（私） ギラ [gira] [k0] 例：ギラ シル。（私がやる。）

わたしたち（私たち） ギララ [gilara] [k0] 例：ギララデ シル。（私たちがやる。）／
ギララニ ツイテコイ。（私たちについてこい。）

わら（藁） ワラ [wara] [h0] 例：ワラデ ワロジ ツクル。（藁でわらじを作る。）

わらぐつ（藁靴） フカグツ [ɸukaɕutsɯ ~ ɸɯkaɕutsɯ] [h0]

わらじ（草鞋） ワロジ [warozi]、ワラジ [warazi]

わらび（蕨） ワラベ [warabe]、ワラビ [warabi] [k1] 例：ワラベワラ。（わらびがたく
さん生えたところ。）／アスコ イクト ドエライ ワラベワラヤ。（あそこへ行くと、とて
もたくさんわらびが生えたところだ。）【備考：報恩講に使う山菜（ぜんまい、わらび、ふき、
うど、こごみ）の中の一つ。】

わん（椀） ワン [wan] [k0] 例：コノ ワンワ ダレノナ。（このお椀は誰のだ。）

国立国語研究所共同研究

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成

方言の記録と継承による地域文化の再構築

石川県白峰方言調査報告書

2018 年 3 月 20 日 発行

編集 原田走一郎・新田哲夫

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

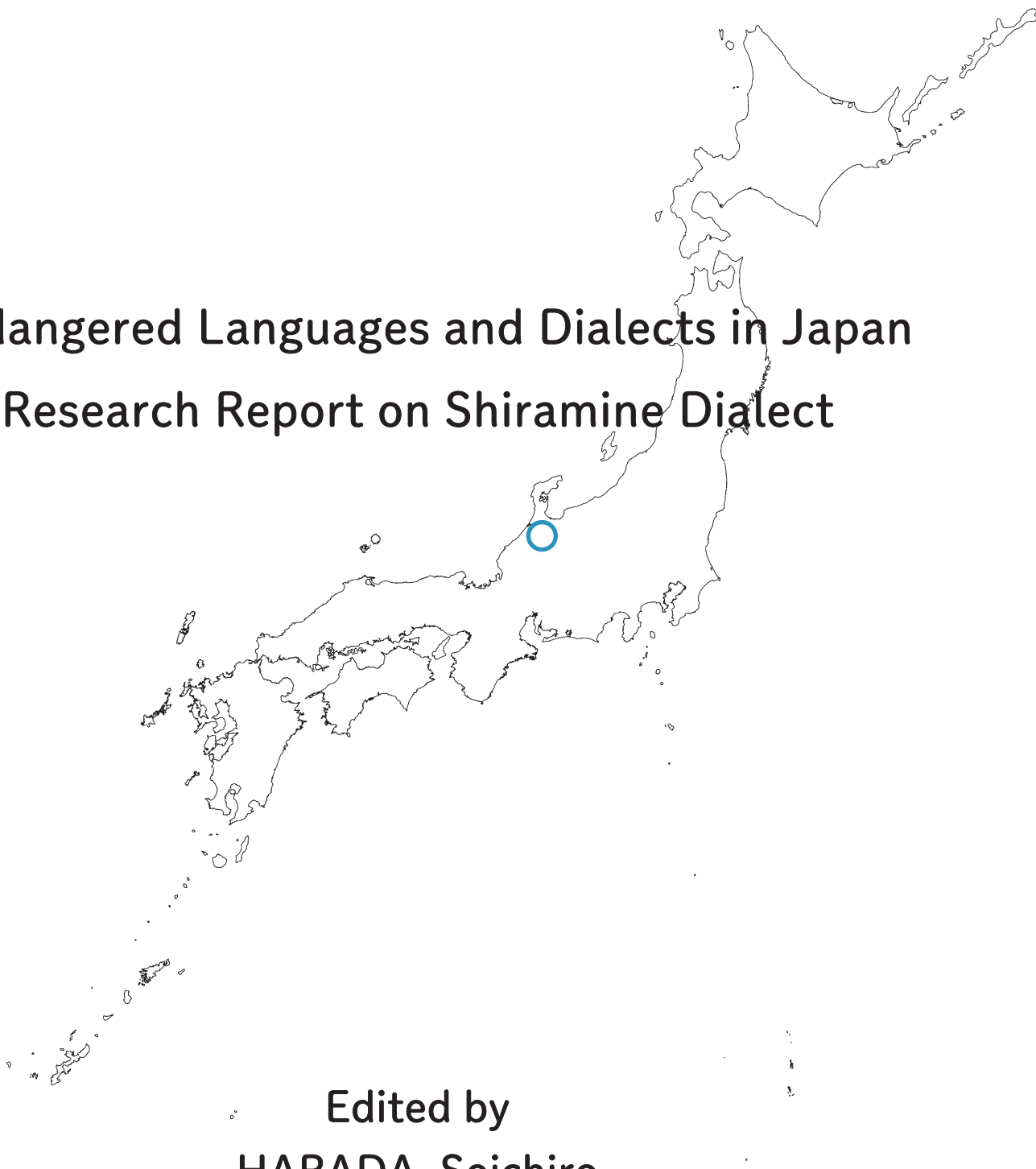
TEL. 042-540-4300（代表）

<http://www.ninjal.ac.jp>

© 国立国語研究所

Endangered Languages and Dialects in Japan

Research Report on Shiramine Dialect



Edited by
HARADA, Soichiro
NITTA, Tetsuo
March 2018